



平成 28・29 年度つくば市教育委員会指定

小中一貫教育推進校

研究発表会指導案集

人とのかかわりの中でたくましく生きる
児童生徒の育成



日程・内容

8:20	8:40	9:30	9:40	10:30	10:40	11:30
受付	全体会	移動時間	公開授業Ⅰ	移動時間	公開授業Ⅱ	
			準備	10:20~11:30	公開授業Ⅲ「学園ハートフルフォーラム」	

つくば市立桜並木学園

桜南小学校

並木小学校

並木中学校

人とのかかわりの中で たくましく生きる児童生徒の育成

～問題を解決するプロセスにおける 自己肯定感を高める指導の工夫を通して～

主題設定の理由

【本学園の児童生徒の実態から】

- ① 人間関係を積極的に築くことが苦手
- ② 人間関係がうまくいかなかった時に、修復することが苦手
- ③ 困難な状況になったときに、それを乗り越えることが苦手

⇒ 不登校傾向の児童生徒・非社会的な問題の増加

自分自身を受け入れて、様々な
ことに意欲的に取り組む児童
生徒の育成を目指す。

研究主題・副題について

【様々な人とのかかわり】

- ① 「同学年の児童生徒」同士（学園内他校も含む）
- ② 「異学年の児童生徒」同士（校内及び学園内他校も含む）
- ③ 「児童生徒」と「教師」（学園内他校も含む）
- ④ 「児童生徒」と「家庭」
- ⑤ 「児童生徒」と「地域社会」

【本学園のとらえるたくましい児童生徒の姿】

- 思い通りに物事が進まなくてもその状況を受け入れ、前向きに考えて行動することができる。
- 課題を解決するために、自分なりの方法で最後まであきらめずに努力し続けることができる。

【なぜ自己肯定感を高めるのか】

「自己肯定感の高い児童生徒」は、『自分は価値のある存在である』と感じていたり、自分に自信がある子どもだといえます。その特徴としては、様々な物事に取り組む意欲が高いことがあげられます。（中教審答申 平成19年）
＝本学園のとらえる「たくましい児童生徒」の姿

『自己肯定感の低さ』

⇒成長の糧となる様々な試行錯誤に取り組もうとする意欲そのものの減退に

児童生徒の「自己肯定感」を高めていくことで、途中であきらめずに、意欲的に物事に取り組もうとする（本学園の目指す）たくましい児童生徒を育成することができる。

【自己肯定感を高めるために】

A. 自己理解

- ・自分のよさを実感

B. 人とのかかわりの中での気付き

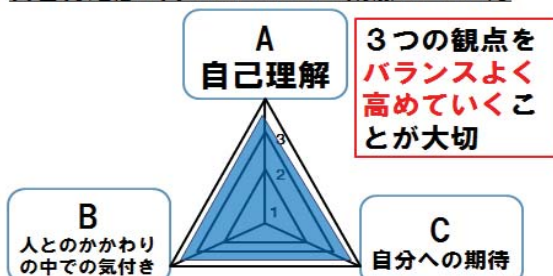
- ・周りの人の役に立っていると気づく
- ・周りの人の大切さに気付く

C. 自分への期待

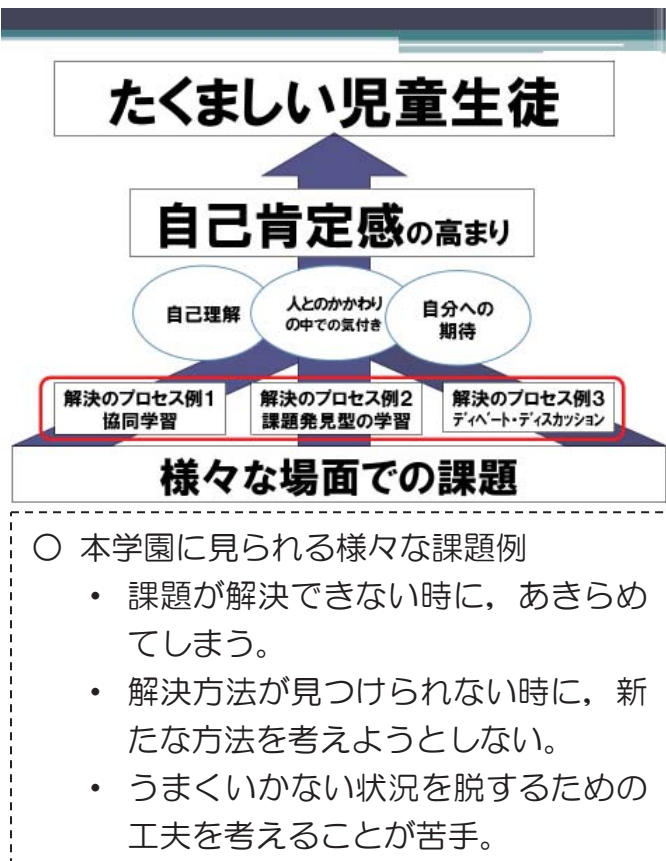
- ・自分の可能性に気付く

副題について

自己肯定感を高めるため3つの観点のとらえ方



【研究全体の構想図】



【構想図の流れ】

- ① 生活の中でも、授業の中でも、様々な場面において課題が生まれる。
- ② 授業や学校生活において、課題を解決するための取り組みのプロセスを工夫（意図的・効果的に言語活動を積極的に取り入れる）する。
- ③ 【A.自己理解】【B.人とかかわりの中での気づき】【C.自分への期待】の3項目をバランスよくバランスよく高めていく。
- ④ 児童生徒の自己肯定感が高まる。
- ⑤ 本校の目指す（前向きに、最後まで努力し続ける）「たくましい児童生徒」が育っていく。

授業について

授業研究部の方向性

6

言語活動と自己肯定感（先行研究より）

言語活動	「話すこと・聞くこと」 ・話すことによって、自分の思いや考えをまとめ、 表現する喜び、伝える喜び を臨場感を持って実感する。
	「書くこと」 ・書くことによって、自分の思いや考えを吟味しながら 表現する喜び、自己表現を伝える喜び を実感する。
	「読むこと」 ・読むことによって、新しい知識を得、既存の知識を深め、知的好奇心や感動を高め、在り方や 生き方を考える大切さ を実感する。

自己肯定感の向上

【言語活動の導入例】

2年 道徳

Skype を利用して、小一中の児童生徒同士が交流する

4年 国語

付箋を活用して、グループで意見を類型化する

5・7年 ハートフルフォーラム

付箋やタブレット PC を用いて、グループ内の意見の交流や全体への発信する

6・9年 算数・数学

6・9年で同様の学習課題を設定し、発達段階に応じた方法で解決に導く。グループで比較検討し、最適な解決法を見つける。

※その他、どの授業においても「言語活動」を意図的に取り入れています。詳しくは、指導案にてご確認ください。

○単元を見通した意図的で工夫のある**言語活動の導入**
＝自己肯定感を高めるための授業での工夫

・**単元デザインシート**の活用

○小中一貫だからこそ実現できる**系統性を生かした授業**

＝小一・小、小一・中、中一・中のかかわりを生かした取り組み

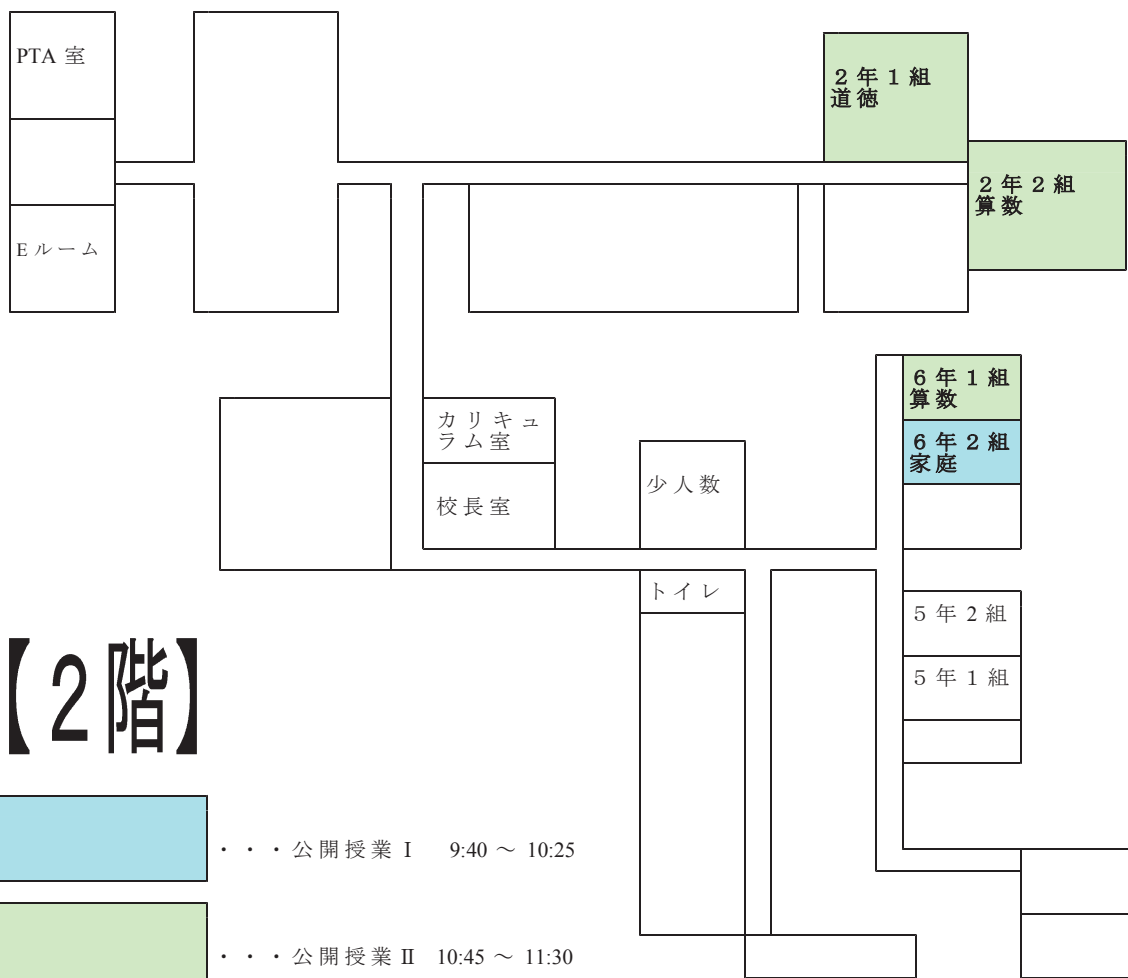
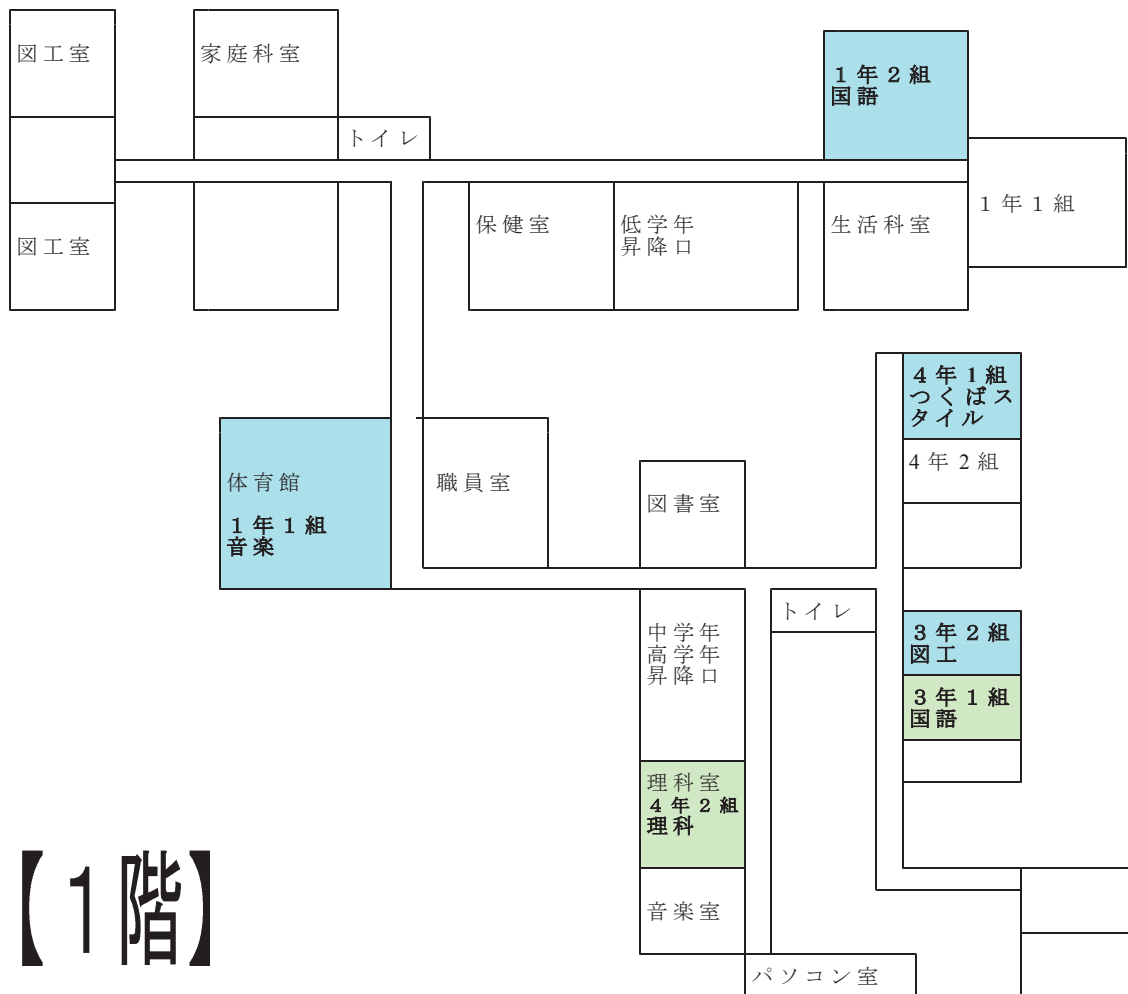
- ・ 学園合同の職員研修の積み重ねによる授業プランの共有化

授業者一覧（桜南小・並木小・並木中）

	会場	教科	学年・学級	単 元 ・ 題 材 名		指 導 者	教 室
公開授業	並木中	つくばスタイル科	8年1組	自分を知ろう！ 実社会での体験		飯泉 英樹	音楽室
		社 会	8年2組	日本の諸地域 関東地方		友澤 春樹	8年2組教室
		美 術	8年3組	伝え合おう・あなたの考え絵画の気持ち		安藤さゆり	8年3組教室
		国 語	8年4組	走れメロス		渡部由紀枝	8年4組教室
	桜南小	音 楽	1年1組	いろいろなおとをたのしもう		齋藤 静子	体 育 館
		国 語	1年2組	おとうとねずみチロ		青木 智美	1年2組教室
		図画工作	3年2組	ふしぎな乗りもの		小野 清敬	3年2組教室
		つくばスタイル科	4年1組	マイ防災バックをつくろう		小倉 桂子	4年1組教室
		家 庭	6年2組	くふうしようおいしい食事		大曾根みのり	6年2組教室
	並木小	算 数	1年1組	いろいろなかたち		八木 智子	1年1組教室
		国 語	2年2組	むかし話のおもしろさをさぐろう！		宮田 夏海	2年2組教室
		社 会	3年1組	はたらく人とわたしたちの暮らし		横田 隆子	3年1組教室
		国 語	4年2組	ごんぎつね		菱沼 文乃	4年2組教室
		外国語活動	6年1組	Lesson 5 Let's go to Italy.	石津 保子 照山 真生 (並木中) Huang Yun Wen		6年1組教室
公開授業	並木中	保健体育	9年1組	薬物乱用の害と健康		中村めぐみ	9年1組教室
		道 徳	9年2組	アンパンマンから学ぶ真のやさしさとは		永野 美涼	9年2組教室
		英 語	9年3組	Presentation 1 日本文化	大窪 学 Motume Victor Mogaka		9年3組教室
		数 学	9年4組	相似と比		菅谷 朋子	9年4組教室
	桜南小	道 徳	2年1組	ありがとうの気持ち		坂本 千秋	2年1組教室
		算 数	2年2組	三角形と四角形		岡崎 千晶	2年2組教室
		国 語	3年1組	日本語のしらべ ― 秋		塚本 和代	3年1組教室
		理 科	4年2組	ものの温度と体積		野村久美子	理 科 室
		算 数	6年1組	形が同じ図形を調べよう	中泉 悦子	秋葉 由美	6年1組教室
	並木小	特別活動	1年2組	ともだちじまん		加瀬菜穂子	1年2組教室
		道 徳	2年1組	ありがとうの気持ち		松本 京子	2年1組教室
		保健体育	3年2組	器械運動「マット運動」		金澤 相國	体 育 館
		音 楽	4年1組	水の旅の音楽をつくろう		青山 理絵	音 楽 室
		算 数	6年2組	拡大図と縮図		染谷 彬大	6年2組教室
公開授業	並木中	特別活動	並木中 7年生	学園ハートフルフォーラム (10:20～11:30)		桜南小 嶋山登美子	並 木 中 体 育 館
			桜南小 5年生	指導者 並木中 栗寄 藤夫 田村 俊介		樋口 諒	
			並木小 5年生	宮國 泰人 高田 明		並木小 島田 洋子	
			並木小 5年生	中山 一機 山中 桂		吉村 哲一	

桜南小学校

桜南小学校 校内配置図



・・・公開授業Ⅰ 9:40～10:25

・・・公開授業Ⅱ 10:45～11:30

公開授業Ⅰ

会場：桜南小学校 9:40～10:25

教 科	学年・学級	単 元 ・ 題 材 名	指 導 者	教 室
音 楽	1年1組	いろいろなおとをたのしもう	齋藤 静子	体 育 館
国 語	1年2組	おとうとねずみチロ	青木 智美	1年2組教室
図画工作	3年2組	伝え合おう わたしのストーリー	小野 清敬	3年2組教室
つくばスタイル	4年1組	マイ防災バッグをつくろう	小倉 桂子	4年1組教室
家 庭	6年2組	くふうしようおいしい食事	大曾根みのり	6年2組教室

第1学年1組 音楽科学習指導案

指導者 齋藤 静子

1 題材 いろいろなおとをたのしもう

2 目標

- 楽器の音色に関心を持ち、自分の思いにあった音を探しながら、音色を生かして音楽をつくる学習に楽しんで取り組もうとする。(音楽への関心・意欲・態度)
- どのような音楽をつくりたいかの思いや意図をもって、音の出し方を工夫したり音楽の仕組みを生かしたりする。(音楽表現の創意工夫)
- 楽器の音色の特徴に気付き、一つの楽器からいろいろな音の鳴らし方を見付けたり、音楽の仕組みを生かして音楽をつくったりする。(音楽表現の技能)
- 楽曲の気分を感じとり、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付く。(鑑賞の能力)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の A 表現 (3)「イ 音を音楽にしていけることを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること」に関わる学習である。打楽器の様々な演奏の仕方を体験し音色に対する関心を高める。そして、音色や強弱、反復や問いと答えなどの音楽の仕組みを基に星空の様子にあう表現を工夫し、自分の考えや願いをもって音楽づくりに取り組んでいく。その際、音を擬音語や図形楽譜に表し、それを反復したり変化を加えたりすることで、音楽の仕組みを考えながら簡単な音楽を構成していく。その過程で試行錯誤し、考えたり判断したりしながら創意工夫していくことは「音を音楽にしていける力」を高めることになると考える。そしてその力は中学年の「音や音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること」、高学年の「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること」につながっていく。

(2) 児童の実態 (27人)

調査結果(平成29年9月1日 26人実施)

①「音色の違いに気付いているか」を問う調査	正答 24人	誤答 2人
②「音の強弱に気付いているか」を問う調査	正答 26人	誤答 0人
③「表現に使われている音楽の仕組み、それを表す言葉を理解しているか」を問う調査		
「くりかえし(反復)」	正答 14人	誤答 12人
「くみあわせ(問いと答え)」	正答 19人	誤答 7人

実態調査から、児童は音色や音の強弱の違いに気付いていることが分かる。しかし、表現に使われている音楽の仕組みやそれを表す言葉については、まだ十分に身につけていないことが分かる。本単元では、場面にあった音色を探し、音楽の仕組みを基に表現の工夫をしていく。情景図や教師の演奏モデルを提示することによってつくりたい音楽に対するイメージをもたせたい。また、図形楽譜のモデルを提示したり、図形楽譜を見て演奏してみたりして、図形楽譜作成への意欲を高めると同時に、他者に伝えるための楽譜の有用性に気付かせていきたい。また、既習の音楽の仕組みを提示し、音楽をつくる時や説明するときに活用できるようにしていく。

(3) 研究テーマに迫るために

本題材では、音楽の仕組みを生かしながら、星空の様子を表す音楽をつくる活動を行う。その過程で言語活動を意図的に設定することで、自己肯定感を高められるようにする。星を表す音や音楽をつくり、そのよさについて音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みとの関係から説明する活動を通して、様々な要素を理解し表現に生かすことができる自分に自信をもてるようにする。さらに友達と互いの考えを伝え合い、共に試行錯誤しながら音楽をつくっていく活動を通して、友達のよさやがんばりがに気付くことができるようにする。また、友達の作品から、表現したいイメージがどの要素と結び付いているのかを見付けたり、そのよさを伝え合ったりする活動を通して、他者の様々な考えに気付いたり作品を完成させることができた達成感を味わったりして、自分への期待を高められるようにする。

4 指導計画 (9時間扱い)

時	学習内容	評価計画			
		関	創	技	鑑
1	・楽器の音色やリズムに気を付けながら、「シンコペーデッドクロック」を聴く。	○			◎
2	・「きらきらぼし」の歌詞から星空の様子を思い浮かべて、歌い方を工夫する。	○	◎	○	
3					
4					
5	・鉄琴や鍵盤ハーモニカで演奏して楽しむ。	○		◎	
6	・音色に気を付けながら、様々な鳴らし方を試し、一つの楽器からいろいろな音を見つめる。	◎	○		
7	・星空の様子に合った音を	○	◎	○	

評価計画
評価基準(評価方法)
・楽曲の気分を感じとり、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。
(ワークシート・発言内容)

・歌詞の表す様子や気持ちを想像して、それに合った歌い方を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。
(演奏聴取)
・身近な楽器に親しみ、自分の音に気を付けて旋律を演奏している。
(演奏聴取)

・打楽器の音色に興味をもち、音の鳴らし方を工夫しながら表現する学習に進んで取り組もうとしている。
(演奏観察・演奏聴取)

・場面に合う音や、反復、問いと答

8	選び、組合わせや重ね方を工夫しながら、星空の音楽をつくる。				えを生かした音楽の表現を工夫し、どのような音楽をつくるかについて思いをもっている。 (演奏聴取・発言内容)
9 (本時)	・つくった星空の音楽を発表し、その楽しさを味わう。	○	○	◎	・音色の工夫や音楽の仕組みのよさを感じて、つくった星空の音楽を演奏したり、友達のつくった音楽のよさを伝え合っている。 (演奏聴取・発言内容)

5 本時の指導

(1) 目 標

音色や強弱の変化、反復、問いと答えなどの音楽の仕組みを生かした音楽のよさを感じとりながら、つくった星空の音楽を演奏したり、よさを伝え合ったりする。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

前時までにグループでつくった星空の音楽のよさを、音楽の仕組みから説明できるようにする。また、作品を聴き合って音楽の仕組みを見つたり、そのよさを伝え合ったりすることで、友達のよさやがんばりに気づき、互いに認め合うことができるようにする。それらを通して、音楽をつくることができた自分に自信をもち、達成感や満足感を味わえるようにする。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
1 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 「ほしぞらのおんがく」をききあい、よさをつたえあおう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「きらきらぼし」を歌い、雰囲気づくりをする。 ・場面の設定を押さえ、星空に対するイメージを再確認する。 ・音楽の仕組みを確認する。 ・音楽の仕組みのカードを掲示することで、活動中にも確認したり、発表や意見交換にそれらの言葉を用いたりできるようにする。 ・手拍子を打ったり拍を数えたりして、拍の流れに乗っていつも同じ長さで演奏できるようにするように助言する。
2 グループごとに発表の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・つくった星空の音楽の練習をする。 ・説明することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのグループがイメージした星空と、表現で工夫したところを伝えてから発表するようにさせる。(自己理解) ・星空の音楽をつくる時に作成した図形楽譜や擬音語で表現したものを拡大掲示し、工夫点を視覚的に分かりやすくする。 ・音色や強弱の変化、反復、問いと答えという音楽の仕組みの使い方、工夫したよい点を見つけて聴けるよう助言する。
3 グループでつくった星空の音楽を発表し、聴き合う。 (1) 発表をする。 〈予想される児童の反応〉 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・音をだんだん強くしてみたよ。 ・強い音と弱い音を両方使ってみたよ。 ・星が話をしているように「くみあわせ(問いと答え)」を使ってみたよ。 </div> (2) 発表を聴き、意見を交換する。 〈予想される児童の反応〉 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・音がだんだん大きくなって、星がどんどん増えていく感じがしたよ。 ・優しい音色で、小さい星が光っているようだったよ。 ・くりかえし(反復)とくみあわせ(問いと答え)がはいついて、いろいろな星がある感じがしたよ。 ・「しゃらららん」が、流れ星みたいだったよ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・よさの伝え方のモデルを示し、できるだけ多くの児童が友達のグループのよさを伝えることができるようにする。 ・音楽の仕組みで気付いたことや、聴いて想像した星空の様子など、友達のグループの発表のよいところを伝えるようにさせる。(人とかかわりの中での気付き)
4 つくった星空の音楽をつなげて演奏し、学級全体で星空の音楽を楽しむ。	※音色や強弱の変化、反復、問いと答えなどを生かした星空の音楽を、拍の流れにのって演奏したりよさを伝え合ったりしている。 (演奏聴取・発言内容) <ul style="list-style-type: none"> ・場面図に合わせて星空の音楽をつなげて演奏し、夕方→夜→朝と移り変わっていく星空の変化の様子を楽しめるようにする。 ・音色や強弱の変化などによって、各場面の音楽の違いがあったことを押さえる。 ・音楽づくりで気付いたことや、感想、よくできたことを発表させる。
5 学習のまとめと振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・よくできたことやがんばったことを称賛し、一人一人が活動に達成感や満足感をもてるようにする。(自分への期待)

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	第1学年 音楽	単元 教材名		いろいろなおとをたのしもう	配当 時間	9時間
担任 名	齋藤 静子				教室	1年1組教室
学習 目標	身近な楽器の音色の特徴を感じ取り、演奏の仕方や楽器の音色の興味・関心をもって、演奏したり音楽をつくったりする。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	楽曲全体の気分を感じ とって聴いたり、歌った り、演奏したりする。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
II 情報収集 A B	楽器の音色に気を付けれ ながらいろいろな鳴らし方 を試し、一つの楽器から いろいろな音の出し方を 見つける。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
III 整理・分析	音楽の仕組みを生かして 星空の音楽をつくる。	個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	● K プレインストミング・話し合い活動
		個 一斉 協		● L グループワーク
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書面カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
IV まとめ・表現	つくった星空の音楽を演 奏発表する。 友達の演奏を聴き良いと ころを伝え合う。	個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● J ディスカッション・話し合い
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F バンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● K 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● L スキルアップ表
		個 一斉 協		● M いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● N 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● O 演示、(実験)
		個 一斉 協		● P 感想の交流

成果	
課題	

第1学年2組 国語科学習指導案

指導者 青木 智美

1 単元 いろいろなおはなしをよもう 「おとうとねずみチロ」

2 単元目標

- いろいろな物語に興味をもち、楽しんで読もうとしている。（国語への関心・意欲・態度）
- 物語を読んで好きな人物を見つけ、人物の好きなところをカードにまとめ伝え合うことができる。（読むこと）
- 感想を伝える言葉には、さまざまなものがあることに気付くことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

本単元では、小学校学習指導要領「C 読むこと」(1)オ「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表しあうこと」に重点を置く。これまでに「サラダでげんき」で誰がどんなことをしたかに着目して読むことを学習した。この学習をもとに、本単元では教材文やその他の物語を読んで好きな人物を見つけ、その行動や会話に着目して人物の好きなところという形で感想を書きまとめて伝え合う力を育てることをねらいとしている。好きな人物の紹介カードを見据えて、教材文と平行してさまざまな物語を読ませていく。平行読書“みんなのほんコーナー”を設け、児童が主体的に取り組めるようにしていく。

読んだ本を紹介する学習は、第2学年の「かさこじぞう」につながっていくが、「紹介カード」を掲示する「紹介コーナー」を設け、いろいろな本を読んでみようという意欲をもてるようにしたい。

(2) 児童の実態 (26人)

調査結果 (平成29年9月1日 26人実施)

○本を読むことは好きですか。 好き 12人 / どちらかといえば好き 5人 / どちらかといえば苦手 5人 / 苦手 4人
○読書が苦手な理由は何ですか。（※どちらかといえば苦手・苦手に回答した児童のみ） 読みたい本がない 2人 / 何を読めばいいかわからない 2人 / 文章を読むことが難しい 5人
○読書をするときは、どのようにして読みますか。 ひとりで読む 20人 / 家族と読む 3人 / 家族に読んでもらう 3人

調査から、本学級の児童は読書活動が好きな児童が大半であるが、苦手意識をもっている児童も多いことが分かる。苦手と感じる理由を問うと、文章を読むことが難しいと答える児童が半数いた。読書活動に苦手意識をもつ児童に対し、短い物語や絵本を薦めたり、読み聞かせをしたりしながら、自分で紹介する人物を見つけられるよう支援していく。

(3) 研究テーマに迫るために

教材文では、チロの行動や会話に着目して、チロの心情を読み取っていく。挿絵を手がかりにしたり、動作化したりして、チロの心情を考えさせたい。そして、ペアで話し合う活動を設定することで、自分の考えを広げるとともに、自他のよさに気付くことができるようにする。

更に、自分で選んだ物語の中の好きな人物を紹介する活動では、書いたカードを読み合い、よいところを伝え合うことで、自信をもつとともに今後も読書活動を広げていこうという意欲をもたせたい。これらを通して、本学級のテーマに迫っていきたい。

4 指導計画 (16時間扱い) ※本時は8時間目

時	学習内容	評価計画			
		関	読	言	評価規準 (評価方法)
1	教科書を読み、物語についての想像を膨らませ、学習の見通しを立てる。	◎	○	○	・物語を読むことを楽しみ、興味をもって学習に取り組もうとしている。（行動観察・発言）
2	・手紙が届いたときのチロの様子を想像しながら読む。		◎	○	・手紙が届いたときのチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像しながら読んでいる。（発言・音読）
3	・チロのチョッキはないと言われ、不安に思うチロの様子を想像しながら読む。		◎	○	・チロのチョッキはないと言われたときのチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像しながら読んでいる。（ワークシート・音読）
4	・「いいこと」を思いついたときのチロの様子を想像し読む。		◎	○	・「いいこと」を思いついたチロの行動や会話に着目し様子や気持ちを想像し読んでいる。（発言・音読）
5	・おばあちゃんに呼びかけ、お願いをしたときのチロの様子を想像しながら読む。		◎	○	・おばあちゃんにお願いしたときのチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像しながら読んでいる。（ワークシート・音読）
6	・チョッキが届いたときのチロの様子を想像しながら読む。		◎	○	・チョッキを見たときのチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像しながら読んでいる。（発言・音読）
7	・おばあちゃんにお礼を言うときのチロの様子を想像しながら読む。		◎	○	・おばあちゃんにお礼を言うときのチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像しながら読んでいる。（ワークシート・音読）
8	・チロの好きなところをカードに書いて、友達と伝え合う。		◎	○	・チロの好きなところをカードにまとめて紹介している。（カード・発言）
9	・本を選んで読み、自分の好きな人物を			○	・物語の中の好きな人物について、カードに書いて紹

14	見つけて、好きなところをカードに書く。			介したい好きなところを見つけている。 (カード・行動観察)
15	・書いてきたカードを使って、物語の好きな人物を紹介する。		◎	・書いたカードを読み合い、よいところを伝え合っている。 (発言・行動観察)

5 本時の指導

(1) 目標

おばあちゃんにお礼を言うときのチロの様子を想像しながら読むことができる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

登場人物の行動と会話から気持ちを考える際、自分に置き換えたり、自分の経験を重ね合わせたりすることを通して、自分の考えをもてるようにする。そして、ペアや全体での交流を通して、自他の考えのよさに気付いたり、自分の考えを広げられるようにする。更に、チロに手紙を書くことで、チロの気持ちにより共感できるようにし、チロの好きなところを書く次時の活動への意欲を高めていけるようにする。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確かめる。 チロは、なぜ「ありがとう」を2かいいったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに読んだ、おばあちゃんにチョッキをお願いし、それが届いたときのチロの様子や気持ちを振り返る。 ・挿絵や会話文を手がかりにして、考えさせる。
2 課題について考える。 (1) 本文を音読する。 (2) チロの様子が分かる本文に線を引く。 <ul style="list-style-type: none"> ・さっそくチョッキをきると、 ・かけのぼりました ・大ごえでさけびました ・こんどはゆっくりいいました (3) 線を引いたところに着目し、チロの気持ちを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題となる場面のチロの行動や会話に着目させ、おばあちゃんに感謝するチロの様子に関心をもてるようにする。 ・心情を表す行動は鉛筆線、気持ちが分かる会話や心情は青線を引く。 ・線を引いた箇所に着目させ、役割演技をする手がかりとなるようにする。
3 お礼を2回言ったチロの気持ちをワークシートにまとめる。 (1) 役割演技をし、音読する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループになり、チロ役、兄弟役、聞き役に分かれる。 ・2回目の「ありがとう」を言った時の気持ちをメモしておく。 ・2グループに発表をしてもらい、そのときの様子を全体で共有する。 (2) 「ありがとう」を2回言った後に続く、チロの言葉（つぶやき）を考え、ワークシートにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめる。 ・自分の考えをグループ間で伝え合い、意見交換する。 ・自分の考えと意見交換をして新たに気が付いたことをまとめ発表し、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作化して音読することで、そうしたときのチロの気持ちを考えることができるようにする。 ・ワークシートを使用し、自分の考えをまとめていけるようにする。 ・考えが浮かばない児童や言葉が見つからない児童には、自分がプレゼントをもらったときのことを思い起こさせ、チロのうれしさを想像したり、共感したりできるよう個別に支援する。 ・グループ間で意見交換することで、他者の多様な考えを知り、よさを認め合うことで、自分の考えを広げられるようにする。(自己理解) ・自分の考えとの違いについて質問をしたり、応答したりすることで、自他の考えのよさに気付く。(人とかかわりの中での気付き) ・自分の考えに自信をもてるようにする。また、友達の考えを聞くことでよりよい考えへと広げられるようにする。(自分への期待)
4 本時の課題をまとめる。	※おばあちゃんにお礼を言うときのチロの様子や気持ちを考えている。(ワークシート・観察)
5 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。	・本時までの学習を振り返り、次時の学習の予告をし、意欲をもてるようにする。

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	1年	単元 教材名	国語	おとうとねずみチロ	配当 時間	16時間
担任 名	青木 智美				教室	1年2組教室
学習 目標	人物の行動や様子に着目していろいろな物語を読み、好きな人物を紹介することができる。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	① 学習課題の把握 ・チロの行動や会話に着目し、チロの心情を読みとる。 ・自分で選んだ物語の中の好きな人物を紹介する。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● (B) 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● (E) キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		(個) 一斉 協	(ケ) 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 (一斉) 協	(コ) 学習への興味喚起	● J ウェビング
II 情報収集 A B	② 情報収集と資料分析 ・挿絵や文章をもとに、チロの心情を考える。 ・教科書 ・挿絵 ・ワークシート ・物語を読み進める。 ・紹介コーナーの設置	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		(個) 一斉 協	(ウ) 気付きの集約	● (C) 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● (I) ワークシート
		(個) 一斉 協	(コ) 学習計画	● J スタディノート
III 整理・分析	③ 情報の整理とまとめ ・チロの気持ちについて、自分の考えをもち、ペアで意見交換し、考えを深める。 ・ワークシート ・役割演技をし、チロの気持ちについて考える。 ・紹介したい本を選ぶ。 ・好きな登場人物をカードにまとめる。	個 一斉 協	ア 比較・分析する	● (A) ワークシート
		(個) 一斉 協	(イ) 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD、書面カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 (協)	(カ) 意見交換	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		(個) 一斉 協	(ク) 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● (I) ロールプレイ
		個 一斉 協		● (J) ディスカッション・話し合い
IV まとめ・表現	④ グループによる発表会 ・チロの気持ちについて、ペアで意見交換したり、全体で共有する。 ・選んだ本の中の好きな人物を紹介する。 ・カード	個 一斉 協	ア まとめる	● (A) ワークシート・学習カード(紹介カード)
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 (一斉) 協	(オ) 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F バンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		(個) 一斉 協	(ク) 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● L 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● M スキルアップ表
		個 一斉 協		● N いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● O 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● P 演示(実験)
		個 一斉 協		

成果	
課題	

第3学年2組 図画工作科学習指導案

指導者 小野 清敬

1 題 材 名

伝え合おう わたしだけのストーリー（ふしぎな乗りもの・中学生の絵を通して）

2 目 標

- 身近なもののから想像を膨らませ、自分の思いを表すことを楽しむ。
(造形への関心・意欲・態度)
- 身近なもののから得たイメージをもとに、自分の描きたい思いや構想をもつ。
(発想や構想の能力)
- 自分の思いに合わせて、今までに経験した表し方を生かしたり、材料や用具を工夫したりして描く。
(創造的な技能)
- 友達の作品や中学生の絵を見て、形や色の組み合わせの面白さや感じの違いを捉え、その絵に込められた思いを自分なりの物語に表すことができる。
(鑑賞の能力)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 題材について

本題材は、身近なものを乗り物に見立てることから発想を広げ、自分の表したいことを見つけて描くことを通して、材料や用具の特徴を生かしながら表す楽しさを味わう内容である。本時は、第3・4学年の内容「B 鑑賞（1）ア自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。イ感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。」を受けて設定したものである。今回は2つの作品を扱い、それぞれの絵の物語をつくる。1つ目は、自分たちの描いた空想画である。自分の絵だけでなく、友達の絵の中に描かれた乗り物や風景などを手掛かりに、想像を膨らませ物語をつくる。2つ目は、並木中7年生が描いた空想画で、生徒が決めたテーマをもとに描かれた作品である。自分たちの絵画に比べ、抽象的な絵であるため、描かれている形や色の組み合わせから自由に想像を膨らませて鑑賞し、物語をつくる。これらの物語をつくる過程で、絵のもつよさや面白さ、感じの違いに気付かせたい。

(2) 児童の実態（33人）

調査結果（平成29年9月1日 33人実施）

1 図工の授業の中で何が好きですか。（複数回答可）	
・画用紙や折り紙を使って工作すること	27名
・粘土で作品を作ること	23名
・絵を描くこと	15名
・自分や友達の作品を鑑賞すること	13名
（鑑賞すること：8人 5月19日実施）	
2 これまでに美術館に行ったことがありますか。	
行ったことがある	7名
行ったことがない	26名

結果から、多くの児童が図画工作の授業に興味・関心をもって取り組んでいることがわかる。好きな理由として、工作や造形などのものづくりの学習に対して楽しさを感じている児童が多い一方で、他人の作品を味わう楽しさを感じている児童も少なくない。しかしながら、美術館に行くことや有名な美術作品にふれ、作品のよさや面白さを感じ、伝え合う機会にはなかなかめぐり合えない。そこで、今回は絵から感じたことを物語にして伝え合う活動を取り入れることにした。

(3) 研究テーマに迫るために

今回は鑑賞の作品として、並木中学校の生徒が描いた作品を鑑賞する。普段の授業では、同じ学年の作品を鑑賞することが多い。中学生の絵を見ることで、中学生の表現力に対する驚きや、自分もこんな風に描いてみたいという気持ちをもって、よさや面白さを味わわせたい。また、空想画がもつ様々な表現に触れることで、絵から自由にイメージを膨らませたい。児童それぞれに感じることは違うため、感じ方に不正解はない。そこで、なぜそう感じたのか理由も考えることで自分の見方に根拠をもたせ、主体的に作品を味わい、作品のよさや面白さを感じることができるようにしていく。そして、自分の見方や感じ方を広げて物語にするとともに、ペアでの交流や全体での発表を通して友達の様々な見方に触れることで、作品を鑑賞する楽しさを感じることができるようにしていく。

4 指導計画（5時間扱い）

時	学習内容	評価計画			
		関	発	技	鑑
1～3	・身近なものを乗り物に見立て、イメージを膨らませ、工夫しながら作品を仕上げる。	○	◎	◎	
4	・自分達の作品を見て、物語をつくる。	○			◎
5（本時）	・中学生の作品をグループで鑑賞し、物語をつくる。	○			◎

評価計画	
評価規準（評価方法）	
・身近なもののから得たイメージをもとに、自分の描きたい思いや構想をもっている。	（観察・作品）
・自分の思いに合わせて、今までに経験した表し方を生かしたり、工夫したりして描いている。	（鑑賞すること）
・自分や友達の作品を見合ったり、物語をつくったりしながら、形や色の組み合わせの面白さや感じの違いを捉えることができる。	（発言・物語）
・中学生が描いた作品のよさや面白さを感じ取り、物語をつくることができる。	（ワークシート・物語）

5 本時の指導

(1) 目標

中学生の作品を見合う中で、その絵のよさや形や色の組み合わせの面白さ、感じの違いを味わい、想像を膨らませ、物語をつくることができる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

中学生の絵を見て個人で考えたり、グループで話し合ったりする中で、感じ取ったよさや面白さなどから想像を膨らませ、物語の形で表現することで、自分の考えを深められるようにさせたい。また、グループや全体でお互いの物語を伝え合い、それぞれの感じ方には共通点や相違点があり、様々な見方があることに気付かせる。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">伝えあおう わたしだけのストーリー</div> <p>2 中学生の空想画を鑑賞する。</p> <p>(1) 中学生の絵から気付いたことや感じたこと、想像したことをワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 赤や黄色をたくさん使って、秋の感じがするね。 三角形が海にうかぶヨットを表しているように見えるね。 向きを変えると葉っぱになったり鳥になったりするね。 </div> <p>(2) 3人グループになり、それぞれが気付いたことや感じたこと、想像したことを交流する。</p> <p>3 絵のタイトルと物語を考え、発表する。</p> <p>(1) 鑑賞した絵について、ワークシートに記入したことを参考にしながら、物語の構想を考える。</p> <p>(2) 絵と構想したことをもとに、タイトルと物語文をつくる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「夏のおわり」</p> <p>ぼくは夏休みに海に行った。海で泳いだり、ヨットに乗ったり、大きな花火を見たりした。大きな大きな入道雲がやってきて、雷がすごくてこわかった。そのとき、もみじが遠くからとんできた。「もう少しで秋だなあ」とぼくは思った。</p> </div> <p>(3) グループの中で、自分のつくった物語を発表し、感想を交流し合う。</p> <p>4 本時を振り返る。</p> <p>(1) 物語をつくって感じたことや友達の物語を聞いて思ったことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今回の授業では、前時の「ふしぎな乗りもの」の鑑賞で行った物語づくりを中学生の描いた絵で行い、絵を見て気付いたり感じたりしたことを、他の人に伝えることが目的であると伝える。 鑑賞ヒントカードを用いて、色の使い方や形など絵を鑑賞するときに着目する観点を示すことで、絵から抱く自分のイメージを広げられるようにする。(自分への期待) 気付いたことや感じたことに理由や根拠も合わせて書けるとさらによいことを伝える。 絵の向きを自由に変えながら鑑賞することで、それぞれの向きで印象が変わる様子を楽しめるようにする。 自分で絵の特徴に気付けない児童には、「どうしてこの色を使ったのかな」や「この模様は何に見えるかな」と問いかけ、色や形の面白さに目を向けられるようにする。 交流したことも含めてワークシートに記入することで、自分では気付かなかったことも自分のイメージを膨らませるために使うことができるようにする。 国語で物語文を書いたことをふり返り、登場人物や背景など物語に必要な設定を一つ一つ決められるようにする。 想像したことや考えた物語の構想からイメージを広げ、自由に物語をつくれるようにする。 書き出せない児童には、作文と同じように「始め・中・終わり」を意識させ、3文程度の短い文でも書けるように促す。 交流の中で様々な感想が出るように、異なる絵を鑑賞した児童同士でグループを作る。 友達の感想を聞くことで、鑑賞した絵について自分の中のイメージを高めるきっかけとする。(人とのかかわりの中での気付き) ※絵のよさや面白さを味わい、自分のイメージをもち、それを物語として表現することができる。(ワークシート・物語) 見る機会の少ない中学生の絵について感じたことや友達との関わりの中で気付いたことについてふり返ることで、絵にはいろいろなイメージの捉え方があることに気付けるようにする。(自己理解)

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	3年・図画工作科	単元 教材名	伝え合おう わたしだけのストーリー	配当 時間	5時間
担任 氏名	小野 清敬			教室	3年2組教室
学習 目標	・身近のものから想像を膨らませ、自分のかきたい思いや構想をもち、工夫して描くことができる。 ・自分達や中学生の描いた作品から形や色の組み合わせのおもしろさや感じの違いをとらえ、物語をつくらることができる。				

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
Ⅰ 課題設定 A	・身近なものを乗り物に見立て想像を膨らませ、表し方を考えて、工夫	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
Ⅱ 情報収集 A B	・友達の作品を見て気付いたことから、物語をつくる。	個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
Ⅲ 整理・分析	・中学生の作品を見て、気付いたこと、感じたこと、想像したことを個人・グループで交流する。	個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
Ⅳ まとめ・表現	・交流したことから物語の構想を考え、物語をつくる。 ・グループ内でつくった物語を発表し、感想を交流する。	個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
		個 一斉 協	サ 現状把握	
		個 一斉 協	シ 絵を描く	
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
		個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	● K プレインストミグ・話し合い活動
		個 一斉 協		● L グループワーク
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書面カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協	コ 作品等鑑賞・読み合い	● J ディスカッション・話し合い
		個 一斉 協		● K 思考ツール
		個 一斉 協		● L 絵画
		個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D 物語(レポート)作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F ハンフット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● K 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● L スキルアップ表
		個 一斉 協		● M いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● N 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● O 演示、(実験)
		個 一斉 協		P 感想の交流

成果	
課題	

第4学年 つくばスタイル科学習指導案

指導者 小倉 桂子

1 単元 マイ防災バッグをつくろう

2 単元目標

- 災害のための日常の取組や備え、災害時の集団の一員としての行動について考える活動をととして、防災意識を高め、自分の生活に生かそうとすることができる。(A1, B2)
- ◎ 災害時の備えとしての防災バッグづくりを行い活用できるようにすると共に、避難場所や食料の備蓄等にも目を向けようとする。(C2, D2)
- 作成した防災バッグを児童や保護者、地域に発信する。(E2, F2)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

本単元では、災害が発生することを想定して、自分たちは非常時にどのような行動をとる必要があるのか、また、自分たちの安全のためにどのようなことができるのかを考えて行動することを目的としている。

東日本大震災以降、日本では防災に対する意識は高まっており、メディアでも取り上げられていることから、児童は「防災」について関心をもっていると思われる。しかし、ニュースで取り上げられている自然災害と自分たちの暮らしとはかけ離れたところにあり、自然災害に対する備えや日頃の訓練の大切さは実感として捉えられていないようにも思える。自然災害を起こりうる身近な問題としてとらえ、命を守る防災について学習することは、大変重要な課題であると考ええる。

そこで、今後災害が発生することを想定して、非常時の行動や持ち出し品について準備しておくことは、命を守る上で大切なことである。児童が一人で家に居て、家族と連絡が取れない状況や避難しなければならないことも考えられる。そのような状況の中でも、自分の命を守ることができるマイ防災バッグを作成することを通して、防災意識を高められるようにしたい。

(2) 児童の実態 (35人)

調査結果 (平成29年9月1日 35人)

- | |
|--|
| 1 「自然災害」にはどんなものがあるか知っていますか。(複数回答) |
| ①地震 31人 ②台風 21人 ③竜巻 14人 ④津波 14人 ⑤土砂災害 7人
⑥火災 6人 ⑦川の決壊 5人 ⑧雷 2人 ⑨大雨 2人 ⑩火山の噴火 4人 ⑪山火事 1人 |
| 2 自然災害は、私たちが住んでいるいる地域に起こることがあると思いますか。 |
| ア起こる 32人 理由 (地震は起きたことがあるから いつどこで何があるか分からない)
イ起こらない 3人 |
| 3 家族で災害について話し合ったことがありますか。 |
| アある 22人 (避難場所を決めた 10人 どう避難するか 4人 何を持って行くか 3人
防災バッグの中身 3人 食べ物はどうするか 2人)
イない 13人 |
| 4 災害に対しての備えをしていますか。 |
| アしている 20人 物が落ちたり倒れたりしない工夫 非常用の飲み物や食料 地図 懐中電灯 防災バッグ
イしていない 15人 |

児童は自然災害とはどんなものがあるかは、おおよそ理解はしていると思われる。しかし、個人差がありいくつかの災害を挙げられた児童とそうでない児童とに大きな差が見られた。また、災害に対して危機意識を持っている児童が多いが、起こらないと思っている児童もいる。家庭では、避難場所や避難の仕方などを話し合ったり、持ち物を準備したりしている家庭もあるが、全体の半数が何もしていないと回答している。

このことから、防災バッグの中身を考える活動を通して、災害は何時起こるか分からないという危機意識を高め、家庭や地域での自分の命を守る方法を考えていくことが大事であると考ええる。

(3) 発信型プロジェクト学習の構想

これまでの自然災害や避難訓練を振り返ることから、日頃から様々な準備をしておくことの必要性を認識する。非常時に持ち出しする用品をマイ防災バッグとして準備する活動を通して、日頃から心がけていなければならないことを再認識していく。また、調べてまとめたことを保護者や地域の人へ発信したり意見交換をしたりすることで、地域の人と関わる大切さや地域の一員であることに気付くと共に、地域全体の防災意識を高めていく。

(4) 研究テーマにせまるために

防災バッグを作ることは、災害が起こった時にそれが機能し、役に立つことが求められる。自分で考えた防災バッグが本当に機能するものであるために、自分自身をより深く見つめ、バッグに入れる必要なものを選択することを通して自己理解を深めさせたい。

ゲストティチャーや9年生、他のグループ等、様々な人の話を聞くことで、より良いバッグにするためのヒントを見出すことができるのではないかと考える。また、自分が考えたバッグが様々な場面で役に立つことを感じることで自己肯定感が高まるようにしたい。

4 学習活動と評価計画（11 時間扱い）

流れ		学習活動	評価規準（評価方法） ○課題解決のプロセス【高まりが期待できる観点】
IN	課題 発見	1 災害時に自分たちはどんな行動をとる必要があるだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の被害状況を知り，問題や課題について考える。 ・災害時に対応するには，自分たちはどのようなことを準備しておかなければならないかを考える。 	A1:客観的思考力 <ul style="list-style-type: none"> ・地震や竜巻，水害の資料や話から，自然災害について考えることができる。（観察） A2:問題発見力 <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の経験や被害の様子から，自分なりに課題をもつことができる。
ABOUT	課題 調査 ①	2～3 自分たちの安全のためにはどんなことが必要だろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時になければならないものについて考えよう。 ・校庭に設置してある防災倉庫に備蓄してあるものを知ろう。 	A1:客観的思考力 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な考え方や経験を元に災害時の必需品について考えることができる。
	課題 調査 ②	4～7 防災バッグの中身について考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えをまとめる。 ・グループ毎に分かれて活動する。 ・バッグに入れるものの種類ばかりでなく，持ち運びのしやすさ，量についても検討する。（本時） 	C2:革新性 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に必要な物を考えたり，取捨選択したりする活動を通して，自分の生活に生かすことができる。
	交流 協働	8～9 マイ防災バッグをつくろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに意見交換をし，自分たちの考えになかったところを取り入れてマイ防災バッグを修正する。 ・修正した非常持ち出し品を量や重さを考えながら実際にバッグにつめる。 	B2:自律的修正力 <ul style="list-style-type: none"> ・調べた結果を整理しながら，必要な物を選択することができる。 D2:協働力 <ul style="list-style-type: none"> ・防災バッグの中身を決定する際に，周りの人と協働してより良い方向性を見つけ解決することができる。
FOR	提案 発信 ①	10 防災バッグについてまとめ，発信しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・スタディノートにまとめて，校内や保護者，地域へ発信する。 	E2:ICT活用力 <ul style="list-style-type: none"> ・スタディノートを活用して，プレゼンテーションを作成する。 D1:言語活用力 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの考えを分かりやすく正確に伝えることができる。
	新たな課題 設定	11 これからの生活について考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・防災バッグの発信を機会に地域の人から防災に関する情報を収集し，マイ防災バッグを修正していく。 ・自らの安全を守るために，お互いがどのように生活していけばよいか話し合い，共通の課題をもつ。 	B2:自律的修正力 <ul style="list-style-type: none"> ・活動の進め方の良い点や改善点に気付くことができる。 F2:キャリア設計力 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に自分のできることを理解し，安全に行動しようとすることができる。

5 本時の学習

- (1) 目標 他のグループやゲストティーチャー、中学生等の話を聞いて、防災バッグの中身を見直し、持ち運びのし易さや重さ、量等も考慮してより良い防災バッグを考えることができる。

- (2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

防災バッグの中身について、お互いの考えを交流し合ったり、ゲストティーチャーや中学生のアドバイスを聞くことで、自分の考えとの相違点や新たな観点到に気付けるようにしていく。さらに、新しい観点を取り入れてバッグの中身を再考することで、より良いものにしていく活動を通して、災害時に役に立つバッグを作ろうとする意欲を高めていくようにする。

(3) 展開

学習活動及び内容 (太字は、研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導支援と評価 (太字は自己肯定感を高める3つの観点到との関連) ※は本時の評価
<p>1 本時の活動の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本気で使える「最強の防災バッグ」を作ろう。</p> </div> <p>2 グループごとに考えた防災バッグを発表し合う。</p> <p>【発表グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これで安心バッグ ・便利なバッグ ・軽くて便利バッグ <p>【手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①発表 ②メモを取る ③質問や感想 <p>3 ゲストティーチャーや中学生からのアドバイスの話を聞く。</p> <p>4 どのようなことに気を付けて中身を決めれば良いかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重さ ・大きさ ・バッグ ・数量 <p>5 グループの防災バッグを見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯を用意したけれど大きすぎた。小さいものがない。 ・食べ物もカップ麺を考えただけれどこれでいいかな。 <p>6 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バッグは、背負うものが良いことが分かった。 ・重いと持ち運びが大変だ。 ・水は必要だが、量も考えなければならぬ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に作成した防災バッグについて発表することを確認する。 ・防災バッグに入りたいものの実物を見せて、大きさや重さ等を可視化し実感として捉えやすくしておく。 <p>・他者の考えを聞いて、相違点到に気付くことで、自分が考えつかなかった新たな観点到に気付かせる。 (人との関わりの中での気づき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループへの質問や感想は付箋に記入しそれぞれのグループへ渡す。 ・「中に入れるもの」について重さや大きさ使用頻度、数量等も考えて、何を優先すべきかをもとに考えて作ることが大切だということに気付くようにする。 <p>◎中学生には、電子掲示板を通して自身の経験からのアドバイスをもらっておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に被災した体験談、困ったことなどのインタビューも参考にするようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループの人と協働して、必要性や重さ、大きさ等を考慮して、より良い方向性を見つけるようにしたうえで、グループで大事にした「最強」ポイントを明確にするようにする。 <p>・新しい観点到や他のグループからの付箋でのアドバイスを取り入れて再考することで、自分や身近な人たちにとって、役に立てるものになることに気付くようにする。 (自分への期待)</p> <p>※自分や他者の考えを取り入れ、より良い防災バッグを考えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人と協働して、必要なものを考え、取捨選択をする活動を通して、自分の考えを深められるようにする。 <p>(自己理解)</p>

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	4学年	単元 教材名	つくばスタ イル科	マイ防災バッグをつくろう	配当 時間	11時間
担任 名	小倉 桂子				教室	教室
学習 目標	他のグループやゲストティチャー中学生の話を聞いて、防災バッグの中身を見直し、より良い防災バッグを考えることができる。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	①課題発見 災害時に自分たちはどんな行動を取る必要があるのだろうか。 ・自然災害に対応するためには、自分たちが準備しておくことを考える。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
II 情報収集 A B	②課題調査 自分たちの安全のためにはどんなことが必要だろう。 ・防災バッグの中には、何をしたらよいか調べる。	個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
III 整理・分析	③交流・協働 自分が考えた防災バッグの中身について、再考し修正する。	個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
IV まとめ・表現	④提案・発信 校内や地域へ発信する。 ⑤振り返り	個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェブで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェブング
		個 一斉 協	サ 現状把握	
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 話し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ラークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
		個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	● K グレインストミグ・話し合い活動
		個 一斉 協		● L グループワーク
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書面カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● J ディスカッション・話し合い
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F バンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● L 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● M スキルアップ表
		個 一斉 協		● N いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● O 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● P 演示(実験)
		個 一斉 協		

成果	
課題	

第6学年2組 家庭科学習指導案

指導者 T1 大曾根 みのり
T2 齊 藤 佐知子

1 題 材 くふうしようおいしい食事

2 題材の目標

- 日常の食事の大切さに気付き、よりよい食生活について考えることができる。
(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 栄養のバランスを考え、食品を組み合わせながら、自分なりに工夫して1食分の献立を考えることができる。
(生活を創意工夫する能力)
- 身近な食品を用いて調理計画を立て、簡単なおかずを作ることができる。
(生活の技能)
- 食事の役割や大切さについて理解することができる。
(家庭生活についての知識・理解)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 題材について

本題材では、日常の食事と調理の学習を通して、日常の食事への関心を高め、食事の大切さに気付くとともに、調和のよい食事と調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、食生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。児童は5学年からこれまでに、体に必要な栄養素について学び、基本の調理としてごはんのみそ汁の調理、ゆでる、いためるといった調理を行っている。これまでに学んだ知識やできるようになった料理を生かし、1食分の献立を立てることで、自分の家庭で食事を整えていく意識を高めていくとともに、基礎的な技能と知識の定着を図り、より発展的な中学校「食生活と自立」の内容へとつなげていきたい。

(2) 児童の実態 (38人)

調査結果 (平成29年9月1日37人実施)

1 自分の家で1食分の献立を立てたことはありますか。	ある 15人	ない 22人
2 調理実習で作った料理を家庭で実践したことはありますか。	ある 20人	ない 17人

調査によると、自分の家庭で1食分の献立を立てたことのある児童は約4割で、食事は毎日のことであっても、その内容については家族に頼る児童が多いといえる。また、約半数の児童が調理実習で調理した料理を家庭でも実践したことがあり、特に卵料理や野菜炒め、みそ汁作りを実践した児童が多い。

4月に学習した「朝食づくりの計画」では、そのための条件として「栄養のバランスがとれていること」が大切であると理解できている児童は多く、栄養バランスを意識した朝食のおかずを考えることができた。しかし、栄養的に満たしていればバランスがとれていると考え、食品の組み合わせを意識できなかったり、1種類の食品を使ったおかずをたくさん並べればいいと考えたりする児童が多かった。献立作りのポイントを示し、1食分の食事としてバランスがとれていることを意識させることで、学んだことを実生活に生かそうとする態度を育てていきたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本題材では、栄養バランスを考えた1食分の献立を作成し、身近な食品を使って簡単なおかずの調理を行う。毎日の食事の内容は家庭によって異なるため、児童のイメージする「食事」はそれぞれ異なる。今回は各自が作成した献立をグループで発表しあい、お互いに良い点やアドバイスをし合う。自分の献立の良い点を認められたり、自分では気付かなかった点を改善してよりよい献立にしたりするなかで、自分の考えを広げ、自他の良さを見つけることができるようにしたい。また、調理実習を家庭で生かすことにより、家族とのふれあいのなかで自分のよさを感じられるようにしたい。

4 指導計画 (10時間扱い)

時	学習内容	評価の観点				
		関	工	技	知	評価規準 (評価方法)
1 2 3 (本時)	・栄養のバランスを考えた1食分の献立をつくる。	○	◎			・栄養のバランスのよい1食分の献立を考えることができる。 (観察・ワークシート)
4～9	・身近な食品を使ったおかずの計画を立ててつくる。			◎	○	・調理の特性と材料や目的に応じたゆで方やいためかたができる。 (観察)
10	・これまでの学習を生かして、家庭での食事の計画・実践をする。		◎		○	・楽しく食事をするについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (発表・ワークシート)

5 本時の指導

(1) 目 標

栄養バランスのよい1食分の献立を自分なりに工夫して考えることができる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

各自が作成した1食分の献立をグループで発表し合い、良い点を評価したりアドバイスをももらったりすることで、自分の考えに自信をもつことができるようにする。また、他の人のよい部分を認め、参考にするすることで、より自分の考えを広げることができるようにする。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 家族のための健康メニューを工夫しよう。 </div> <p>2 課題を解決する。</p> <p>(1) 自分が立てた献立に使用した食品を3つの食品のグループに分類し、栄養バランスを確認する。</p> <p>(2) 4人グループになり、自分が立てた献立を発表し、アドバイスをもらう。 ○自分の立てた献立 ○この献立のおすすめポイント 発表を聞く側は、付箋に友達の献立のよかった点やアドバイスを書き、発表者に渡す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 〈友達からのアドバイス〉 <ul style="list-style-type: none"> ・色どりがきれい。 ・簡単に作れそう。 ・野菜をもっと使ったほうがいい。 ・この主食にこのおかずは合うのかな。 </div> <p>(3) アドバイスをもとに、個人で献立をアレンジする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜が少ないから、このおかずに○○を付け加えよう。 ・似た味付けが多いから、味付けを少し変えてみよう。 ・こんなおかずもこの食事には合うかもしれない。 </div> <p>(4) 全体でアレンジした献立を発表する。</p> <p>3 本時の振り返りをする。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"> T 1 T 2 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えた献立を使って、献立をよりよくしていくことを知らせる。 ・食品の分類のしかたを忘れてしまった場合は、教科書p110を参考に分類させる。(ワークシート) ・食品の分類表を提示し、3つの食品のグループを確認する。 ・自分で分類できない児童の支援を行う。 ・献立を見直す際のポイント(栄養バランス、色どり、調理法、味付け、食品の種類、組み合わせ、旬、地産地消など)を示し、それをもとに発表を聞くようにさせる。 ・グループ内で発表を聞き合うことで、自他の考えのよさに気付くようにする。 (人とかかわりの中での気づき) ・発表中は各グループをまわり、献立作成のポイントを意識して具体的なアドバイスが考えられているかを確認し、難しい場合には献立を見直すポイントを再度確認させながら助言する。 ・食品を変える、調理の方法を変える、味付けを変えるなど、献立を変えるための具体的な例を挙げ提示する。 ・机間をまわり、友達からのアドバイスを参考にして、改善やアレンジを考えるよう助言する。 ・工夫のしかたにも様々なやり方があることに気付くことができるようにする。 ・足りない栄養があった場合には食品を追加したり、料理の品数を増やしてみるよう助言する。 ・思い浮かばない児童には教科書p99のおかずの例を参考にするよう助言する。 ・どのような工夫や修正をしたのかを発表させ、他の児童の参考にすることで、他者の多様な考えを知り、自分の考えを広げることができるようにする。 (自己理解) ※栄養バランスのよい1食分の献立を自分なりに工夫して考えようとしている。 (観察・ワークシート) ・本時の学習で分かったことを振り返り、これからの生活に生かしていきたいことをまとめる。 (ワークシート)

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	6年	単元 教材名	家庭	くふうしようおいしい食事	配当 時間	10時間
活動 内容					教室	教室・家庭科室
学習 目標	日常の食事に関心を持ち、1食分の献立づくりや簡単なおかずづくりを通して、よりよい食生活について考えようとする					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
Ⅰ 課題設定 A	①学習課題の把握 ・自分の家庭での食生活や、これまでに調理実習などでできるようになった料理を振り返る ・1食分の献立を考えるとときに必要な条件を知る	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
Ⅱ 情報収集 A B	②家族の健康を考えた献立を作成する ・ワークシート、教科書、インターネット、食品カード	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
Ⅲ 整理・分析	③献立の検討 ・自分の立てた献立を発表するグループ内でアドバイスをもらう ↓ ・献立の改善・アレンジ	個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD、書面カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● J ディスカッション・話し合い
Ⅳ まとめ・表現	・アレンジした献立の発表 ・学習の振り返り おかずづくりの調理実習や家庭での実践につなげる	個 一斉 協	ア まとめ	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F バンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● L 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● M スキルアップ表
		個 一斉 協		● N いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● O 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● P 演示、(実験)
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		

成果	
課題	

公開授業Ⅱ

会場：桜南小学校 10:45～11:30

教 科	学年・学級	単 元 ・ 題 材 名		指 導 者	教 室
道 徳	2年1組	ありがとうの気持ち		坂本 千秋	2年1組教室
算 数	2年2組	三角形と四角形		岡崎 千晶	2年2組教室
国 語	3年1組	日本語のしらべ ― 秋		塚本 和代	3年1組教室
理 科	4年2組	ものの温度と体積		野村久美子	理 科 室
算 数	6年1組	形が同じ図形を調べよう	中泉 悦子 秋葉 由美		6年1組教室

第2学年1組 道徳学習指導案

指導者 坂本 千秋

1 主題名 ありがたい気持ち 2-(4)尊敬・感謝

2 ねらいとする価値について

内容項目2-(4)は、「日ごろお世話になっている人々に感謝する」ことを主なねらいとしている。より良い人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切であるが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてくるのである。

低学年の段階では、日ごろお世話になっている人々の存在に気付き、それらの人々の善意に感謝する気持ちを具体的な言葉に表し、行動に表すことが大切である。そこで、昨年1年生の時に世話になった6年生の思いや行動について考える場を設定することで、尊敬と感謝の気持ちを育てたい。

3 授業で大切にしたいこと

(1) 資料について

本資料は、児童の誰もが知っているアンパンマンが、困っているストーンマンや泣いているペンギン坊やなどを様々な場面で助け、自分は力が出なくなってしまうお話である。このアンパンマンの姿と助けてくれた上級生を重ねて考えさせたい。資料の中では、アンパンマンの気持ちについて書かれていないが、上級生の気持ちにも気づかせていきたいので、並木中7年生からのビデオレターを視聴する。資料では、アンパンマンに感謝の気持ちを絵で描いて渡すが、本授業では、昨年世話になった現在並木中7年生に「ありがとうカード」を渡し、感謝の気持ちを表すようにしたい。

(2) 児童の実態 (32人)

調査結果(平成29年7月18日 32人実施)

今までに、誰にどんな時に「ありがとう」を言いましたか。(複数回答可)			
・友達に何かをしてもらったとき。	27	・先生に助けてもらったとき。	4
・親に何かを買ってもらったとき。	16	・友達に優しくしてもらったとき。	4
・親に宿題を教えてもらったとき。	5	・兄弟におもちゃをかしてもらったとき。	3
・友達に遊びにいらしてもらったとき。	4	・姉妹に譲ってもらったとき。	2

○調査から、本学級のすべての児童は、「ありがとう」を伝えた経験があることが分かった。学校生活において、児童はいろいろな面で周りに支えられて助けられて生活している。しかし、そのことをきちんと意識していない児童も多い。そこで、本資料では、学校生活において世話になっている人の存在に気付かせたい。特に、昨年の6年生(現在7年生)が自分たちに寄せてくれた善意について考え、感謝の気持ちを具体的な言葉に表し、感謝の念について改めて考え、気付かせていくようにしたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本時は、桜南小学校のアンパンマンはどんな人がいるかを考えさせ、並木中7年生からのビデオレターを見る。1年生の時に「ハートフルサポート」など、いろいろな面で6年生に支えられ、助けられて生活していたことを思い出し、上級生が自分たちを大切に思ってくれていたことや1年生のことを最優先に考えて行動してくれていたことを考え、話し合うことで、尊敬と感謝の気持ちに気付かせ「人とかかわりの中での気付き」を高めたい。そして、その思いを「ありがとうカード」に書き、7年生に伝えたい。このような活動を通して、自分たちが上級生になった時に、同じように下級生を優しく支え助けてあげる、そして下級生に尊敬、感謝される上級生になろうとする「自分への期待」を育て、自己肯定感を高めていけるようにしたい。また、並木小の2年生とテレビ会議で交流し、同じ学園内の2年生児童の考えを聞き、交流することでさらに考えを深め合いたい。これらの活動を通して、周りの人たちに支えられ助けられていたことに気付き、自分を見つめる「自己理解」を深めたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

学校生活でお世話になった上級生に感謝の気持ちを伝えようとする心情を育てる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

「桜南小学校のアンパンマンは、どんな人がいるか。」について考えることで、今年の6年生は自分たちのことを優しく支え助けてくれていたことを思い出していく。並木中7年生からのビデオレターを見ることで、上級生の気持ちを知り、感謝の気持ちをもつとともに自分たちも下級生に慕われ感謝される上級生になりたいという自分への期待をもたせる。同時に、同じ活動で授業を行っている並木小学校の2年生と交流することで考えを深めたり共感したりする場を設ける。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連 ※は本時の評価)
1 「ありがとう」と言った経験について話し合う。	・「ありがとう」という言葉に触れて、ねらいとする価値に焦点をあてる。
2 資料「だいすきアンパンマン！」を読む。	・資料は、児童が理解しやすいように絵を中心に読み聞かせをする。
(1) アンパンマンは、どんなことをしたかを考える。 ・困っているとき助けた。 ・自分の顔を分けてあげた。	・吹き出しを使うことで、気持ちを考えやすいようにする。
(2) 子どもたちは、アンパンマンにどんな気持ちをもっているかを考える。 ・アンパンマン大好き。 ・帰ってこないで心配。	・アンパンマンや周りの子どもの気持ちを考えさせる。
3 上級生について話し合う。	
(1) 桜南小学校のアンパンマンは、どんな人がいるでしょう。 ・1年生のとき6年生が朝自習や給食掃除のときに手伝いに来てくれた。 ・縦割り班のときに6年生が迎えに来てくれた。	・1年生をお世話している今年の6年生の写真を見せ、6年生に助けてもらっていたことを想起させる。
(2) 7年生からのビデオレターを見て話し合う。 ・いつも僕たちのことを考えてくれてたんだね。ありがとう。 ・もっと好きになった。	・7年生からのビデオレターを見ることで、7年生の気持ちに気付くようにする。 ・友達の 上級生に対する様々な考えを知り、周りの人に支えられていたことに気付くようにする (人とのかわりの中での気付き)
4 上級生に感謝の手紙を書く。	・「ありがとうカード」を書くことで、上級生へ感謝の気持ちを表せるようにする。
・おたしちをいろいろな時に助けてくれてありがとう。 ・自分たちも下級生に優しい上級生になりたい。	・記述に困っている児童には、困っているときに6年生に助けてもらったとき、どんな気持ちになったかを考えさせる。 ・1年生にとって自分たちは上級生であることに気付かせ、どんな上級生になりたいかも考えさせるようにする。
※上級生に感謝の気持ちを伝えようとしている。(ありがとうカード)	
5 本時の学習を振り返る。	
(1) 今日の学習で感じたこと、自分にできることを書きましよう。 ・7年生にたくさんお世話になっていたんだな。 ・1年生に優しくしてあげたいな。	・自分たちも下級生を優しく助けてあげる上級生になろうとする意欲をもたせる。 (自分への期待)
(2) 振り返りを発表し合う。 ・上級生は私たちのことをいつも見守ってくれていたことに気付いた。 ・ありがとうの気持ちを伝えるカードが書けてよかったな。 ・並木小の2年生も同じことを感じたんだな。	・並木小学校の2年生とテレビ会議システムを使って振り返りを発表し合い、自分が気付かなかった気持ちや考えを知り、考えを深める。 ・自分自身について見つめなおし、尊敬・感謝について考えさせる。 (自己理解)

だいすき アンパンマン！

アンパンマンは、きょうもこまったひとやおなかをすかせているこがないか、パトロールにでかけます。

「いってらっしゃーい！」

「きをつけていくんだよ！」

「アンアーン！」

さばくでは、ストーンマンがひとりぼっちでたおれていました。

「あ、アンパンマン！あそんでいるうちにみちにまよっちゃって……。」

「そうだったのか！さあ、これをたべて、げんきをだして！」

アンパンマンはそういうと、じぶんのかおをちぎって、ストーンマンにあげました。

こおりのうみではペンギンぼうやがなっていました。

「おうちにかえれないよう！うえーん！」

そのときです。ドドドッ！おおきなひょうざんがくずれてきました。

「わあっ！」

でもだいじょうぶ。

アンパンマンがすくいあげました。

うみのなかでは、くずれたいわのあいだにちびマリンがとじこめられていました。

「ちびマリン、だいじょうぶかい。いまたすけるからね！」

こどもたちにかおをちぎってあげたアンパンマンは、ちからがでなくてうまくとべません。

おまけにあめもふりだしました。

アンパンマンはあめでかおがぬれると、ちからがぬけてますますとべなくなってしまう。

「あめがやむまでここであまやどりしていこう。」

そのころこどもたちは、アンパンマンにかんしゃのてがみをかいていました。

「アンパンマン、おそいなあ。」

「アンパンマンのことがとつてもしんぱいどうぞ！」

パンこうじょうでは、かえりのおそいアンパンマンをしんぱいして、こどもたちがあつまっていました。

「だいじょうぶだよ。みんなのアンパンマンをおもうきもちがきつととどいているよ。」

ジャムおじさんはいいました。

アンパンマンはジャムおじさんにあたらしいかおをやいてもらってげんきになりました。

「ねえねえアンパンマン、ぼくたちかんしゃのきもちをこめて、えをかいたんだぞう！」

「みんなのきもちがぼくにゆうきをあたえてくれたんだね。ありがとう！」

第2学年2組 算数科学習指導案

指導者 岡崎 千晶

1 単元 三角形と四角形

2 単元の見通し

- 身の回りにある図形に興味・関心をもち、図形の性質について考えようとしている。
(算数への関心・意欲・態度)
- 図形を構成する要素に着目し、筋道立てて考えている。
(数学的な考え方)
- 辺の数や長さ、頂点の個数に着目して、図形を分類することができる。
(数量や図形についての技能)
- 算数的活動を通して、三角形と四角形、正方形と長方形の定義を理解することができる。
(数量や図形についての知識・理解)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

児童は1学年で、色板や数え棒を並べたり、点と点を線でつないだりして平面図形についての基礎的な経験をしてきている。また、日常生活のなかで図形を感覚的にとらえ、「さんかく」「しかく」などの言葉で表現してきている。

本単元では、これまでに培った図形についての初歩的な理解に基づいて、「三角形」「四角形」などの図形を構成する要素やその数に着目するといった、基本的な平面図形を分別する観点を明確に与え、これに基づいて「三角形」「四角形」の定義を理解させることをねらいとしている。定義を記憶することにとどまらず、どんな形でも、定義に基づけば、三角形や四角形であるというように、児童の図形概念を拡張させたり、図形への関心を高めたりしたい。ここで行う三角形の学習は、第3学年の「二等辺三角形と正三角形」に、四角形の学習は、第4学年の「垂直、平行と四角形」につながっていく。

(2) 児童の実態 (30人) 調査結果 (平成29年9月1日30人実施)

・直線を知っている。	29人	・△の形の名前がわかる。	25人
・点と点を結んで形をつくることができる。	11人		
直線になっていない。	15人	点を通っていない。	4人

本学級は、算数の学習に楽しんで取り組む児童が多い。「直線」については、ほとんどの児童が理解している。「三角形」については、普段の生活の中で、形を見ると「さんかく」と認識しているだけである。点を結んで形を作る問題では、直線になっていなかったり、点を通っていなかったりしている。本時では、動物を囲んだ形を分類する活動を通して「三角形」や「四角形」の定義や性質について理解させていく。

(3) 研究テーマに迫るために

本時では、三角形や四角形に似た形を定義に基づいて分類する。自分の考えをもち、ペア、全体で話し合いを進めていく。このような活動を通して、自分の考えに自信をもち、自己肯定感を高めていけるようにしたい。ここで「三角形」や「四角形」の定義を理解し、図形を作図したり弁別したりする様々な算数的活動を通して、図形についての理解を深め、興味関心をもち、次学年の学習へとつなげるようにしたい。

4 指導計画 (11時間扱い)

時	学習内容	評価計画				
		関	思	技	知	評価規準 (評価方法)
1	・動物を直線で囲む活動を通して、図形への関心を高める。	◎		○		・図形に関心をもっている。 (ワークシート)
2	・図形を分類し、「三角形」と「四角形」の定義を知る。		○		◎	・「三角形」や「四角形」について用語と定義を理解している。(観察・ワークシート)
3	・「へん」「ちょう点」に着目し、三角形や四角形を分別する。		◎		○	・「三角形」「四角形」の辺や頂点について理解している。(観察・ノート)
4	・「直角」の用語や意味を知り、身のまわりから直角をさがす。	○			◎	・直角の用語や意味を理解している。(観察・ノート)
5	・長方形を作る活動を通して、「長方形」の定義や性質を知る。		○		◎	・「長方形」の用語と、その定義を理解している。(観察・ノート)
6	・長方形の紙を使って、正方形を作る。		○		◎	・「正方形」の用語と定義を理解している。(観察・ノート)
7	・方眼を使って、長方形や正方形をかく。			◎	○	・方眼を使って、長方形や正方形を作図することができる。(観察・ワークシート)
8	・長方形や正方形から直角三角形を作る。		○		◎	・「直角三角形」の用語と定義を理解している。(観察・ノート)
9	・直角三角形を作図する。三角定規を使って三角形や四角形を作る。			◎	○	・方眼を使って、直角三角形を作図することができる。(観察・ノート)
10	・模様づくりや身の回りから三角形や四角形を見つける活動を通して、図形への関心と理解を深める。	◎			○	・図形に関心をもち、模様の美しさや平面の広がりについて気づいている。(観察・ワークシート)
11	・基本的な内容を理解しているか確認				◎	・正方形、長方形、直角三角形の用語、構成

	認し、習熟を図る。					要素、定義、性質について理解している。 (観察・ノート)
--	-----------	--	--	--	--	---------------------------------

5 本時の指導

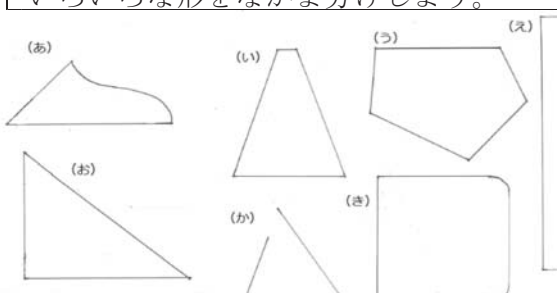
(1) 目標

三角形や四角形の定義や特徴を利用して、図形を分類することができる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

比較検討の場面で、ペアでの活動を入れ、他者の考えと自分の考えの類似性を発見する中で、自分の考えに自信をもてるようにしたい。その後、全体で話し合うことで、自分の考えにさらに自信をもったり、より良い考えへと広げられたりできるようにする。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
<p>1 問題を知る。 いろいろな形をなかま分けしよう。</p>  <p>2 本時の課題を確認する。 なかま分けの方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・へんの数に注目する。 ・ちょう点の数に注目する。 ・線に注目する。 <p>3 自力解決をする。</p> <p>(A) へんの数で分ける 三角形… (あ), お, (か) 四角形… い, え, その他… う, (き)</p> <p>(B) ちょう点の数で分ける 三角形… あ, お, 四角形… い, え, (か) その他… う, き</p> <p>(C) 線が直線かどうかで注目する 三角形… お, か 四角形… い, え その他… あ, き</p> <p>4 隣の人と考えを話し合う。</p> <p>5 全体で一つ一つの形について発表し合い、仲間分けのポイントを押さえる。</p> <p>6 本時のまとめをする。</p> <p>7 練習問題を解く。</p> <p>8 本時を振り返り、これからの学習に見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線が曲がっていると、三角形でも四角形でもなくなってしまうことが分かった。 ・(き)は、四角形だと思ったけれど、頂点が2つしかないので四角形ではない。 ・三角形をかくときは、辺や頂点に気を付けようと思った。 ・三角形や四角形についてもっと知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を声に出して読むことによって、しっかり捉えられるようにする。 ・三角形と四角形の定義や「へん」「ちょう点」という言葉について復習し、確認したのち、本時で扱う形を提示する。 ・三角形と四角形の定義を黒板に掲示することによって、問題を解く際に定義に立ち返れるようにする。 ・「へん」や「ちょう点」という言葉を使って説明するよう助言する。 ・既習用語を使って説明しようとすることで、既習用語の理解と定着を図る。 ・形の違いを言語で表現することで、自分の考えを明確にし、思考を深められるようにする。 ・分類できない形があった場合には、できるものだけを分類してもよいことを伝える。 ・自分の考えを書けない児童には、「三角形である」、「四角形である」、「三角形でも四角形でもない」から選ぶよう伝える。 ・早くできた児童には、別の観点から仲間分けの理由を考えさせたい。 ・何に注目して判断したのかを伝えるように助言する。 ・隣の人に考えを説明したり、考えを聞いたりすることを通して、自分の考えを補ったり、自分の考えに自信をもったりできるようにする。 ・ペアや全体で行うことで、自分とは異なる考えや理由があることに気づき、自分の考えを広げられるようにする。また、自他の考えのよさに気付くようにする。 (人とのかかわりの中での気づき) <p>※辺や頂点に着目して、図形を三角形と四角、その他に弁別している。(観察・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形を描く際は、「へん」や「ちょう点」に気を付けることに触れ、次回の学習につながるようにする。 ・上学年では、三角形や四角形を辺の長さや角の大きさに注目してさらに仲間分けすることに触れ、学習に対する期待を高めたい。

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	2年	単元 教材名	算数	三角形と四角形	配当 時間	11時間
担任 氏名	岡崎 千晶				教室	2年2組の教室
学習 目標	三角形と四角形についてその定義を理解し、図形を構成する要素に着目し、図形の性質を考えることができる。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題 設定 A	①本時の問題を知る。 ②本時の課題を確認する。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
II 情報 収集 A B	③自力解決をする。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
III 整理 ・ 分析	④隣の人と考えを話し合う。 ⑤全体で発表し合い、仲間分けのポイントを押さえる。	個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書面カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● J ディスカッション・話し合い
IV まとめ ・ 表現	⑥本時のまとめをする。 ⑦本時を振り返り、これからの学習に見通しをもつ。	個 一斉 協	ア まとめ	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F ハンフレッツ・リーフレッツ作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● L 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● M スキルアップ表
		個 一斉 協		● N いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● O 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● P 演示、(実験)

成果	
課題	

第3学年1組 国語科学習指導案

指導者 塚本 和代

1 単元 日本語のしらべ ―― 秋

2 単元目標

- 気に入った俳句を見つけ、進んで音読したり暗唱したりして、親しもうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- 季語や様子を表す言葉に気を付けて、想像した情景を思い浮かべながら音読・暗唱している。
(読むこと)
- 俳句の五音七音を中心としたリズムを創作することで、国語の美しい響きを感じとることができ
る。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

7月「俳句に親しもう」で児童は初めてまとまった俳句の学習をし、季語や五七調のリズムを学んだ。また、教科書の俳句以外にも、並木中9年生が創作した俳句を読み、その情景を想像して絵を描き中学生に見てもらった経験をした。身近な先輩の俳句は児童の関心が高く、少ない文字の中に隠れた世界を絵に表す活動から、俳句の面白さも体感することができた。今回は秋の句であり、より文語調で秋の情景が強くイメージされる句が紹介されている。古くから受け継がれてきた表現のリズムや響きの良さ、指し示す意味内容の面白さなどを児童に実感させたい。本単元では、日本人として大切にしたい四季の感覚を、季語に通ずる言葉集めの学習で味わい、さらには集めた言葉で俳句を作る学習へ発展させる試みをする。300年以上前に盛んだった俳句を、中学生や友だちと共に創作していくことで、より親しみを感じ、楽しさや満足感を味わえることをねらいとした。

(2) 児童(生徒)の実態(30人) ※2桁以上の数字は半角 調査結果(平成29年9月1日30人実施)

・俳句はどういうものか。	わかる24人	わからない6人
・「秋」というと、どんな言葉が思い浮かぶか。 もみじ25人 栗23人 いも17人 柿12人 赤トンボ12人 イチョウ・銀杏10人 その他 落ち葉、紅葉、木の実、ハロウィン、お月見、十五夜、読書の秋、まつたけ 等		

俳句が五・七・五でできていることや、季語があることを覚えている児童は多かった。また、季節を表す言葉についての設問では、児童にとって具体的な体験や様子を思いつきやすい「夏」や「冬」ではないので、イメージの広がりは大きいとは言えない。季節の移ろいを敏感に感じた昔の人の俳句の世界を味わうには、幼さや現代とのずれを補うため写真や映像資料などが必要であり、[NHK for school]も活用する。また、文語調の表現に多少違和感を感じることもあるかもしれないが、教科書を繰り返し音読することで、俳句のもつリズムや響きの良さが味わえるようにしたい。

(3) 研究テーマに迫るために

俳句に親しむために、単元の終わりに俳句を作る活動を加えた。親しむことがねらいなので字あまりであっても大丈夫であることや、季語と季節の多少のずれは気にしないこととした。経験の少ない児童にとって、季節をイメージすることは難しいので、前もって「秋」を探し、写真撮影をさせておく。その画像を見ながら「秋」に関わる言葉探しの学習を設定した。7月と9月には中学生と俳句や詩を通して交流し、身近な人が選ぶ言葉や綴る文章の良さに触れた。本単元では、中学生との交流を生かしながら、友だちと協力して俳句の形式に言葉を当てはめる活動から、一人では気づかない言葉の広がりを楽しませたい。

4 指導計画(4時間扱い)

時	学習内容	評価の観点				
		関	読	書	言	評価規準(評価方法)
1	・学習の見通しを立てる。 ・音読する。	○	◎			・俳句の特徴やリズムを感じながら、繰り返し音読している。 (観察)
2 3	・季節を表す言葉やその様子を感じる言葉を探す。	○			◎	・「秋」からイメージされる事柄やその様子を表現する言葉を進んで見つけている。 (発言・ノート)
4 (本時)	・集めた言葉から自分の思う「秋」を五七五の音で表現する。	◎		○		・「秋」の言葉を使って俳句を作り、友達と伝え合っている。 (ノート・発言)

5 本時の指導

(1) 目 標

集めた「秋」の言葉を使って、自分が思う「秋」を五七五のリズムで俳句に表現する。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

友だちと協力して俳句の形式に言葉を当てはめる活動から、一人では思いつかない言葉の組み合わせや広がりを楽しませたい。また、できた俳句を読み合うなかで、互いの俳句の良さを言葉で伝え合う活動をする。相手の良さに気づくことは、人と関わりながら生きていく上で大切であり、それを言葉にすることに意味がある。友だちからの言葉で、俳句への親しみや意欲が高まることを期待したい。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
1 これまで学習した俳句を暗唱する。	・俳句カードを提示し、五・七・五のリズムを意識しながら暗唱できるようにする。
2 本時の課題を確認する。 「秋」の俳句を作ってみよう	・本時の課題を知らせる。 ・俳句の特徴について、再確認する。 ・作った俳句は「伊藤園新俳句大賞小学生低学年の部」に応募することを伝える。
3 俳句を作る手順を知る。	・事前に「秋探し」で児童が撮影しておいた写真をスライドショーで見せ、言葉を思い浮かべやすくする。
(1)「秋」の季節を思い浮かべる言葉を選ぶ。 例・鈴虫 七五三 お月見 イチョウ	・前時にグループで書きためた付箋の「秋」の言葉と、その言葉に付随する様子や気持ちの言葉とを組み合わせることを、全体で一緒にやってみせることでわかりやすくする。
(2)どんな気持ちがするか、どんな様子を表す言葉を考える。 例・リンリン きれいな着物 真っ赤に	・一音二音増やす方法も紹介し、五音にも七音にも変わることを気づかせた上で、言葉を当てはめながら児童と俳句を作る。
(3)五音・七音の音数に当てはめ、組み合わせる。 例・すずむしが→すずむしのこえ	・3人の小グループになり、今日の学習リーダーが司会となって進めさせる。
4 手順に沿って、グループで協力して俳句を作る練習をする。	・話合うことで、1人の学習よりもより良い考えになることを伝え、意欲が高まるようにする。
(1)好きな言葉を選び、それに合わせて言葉をつなげていく。	・書き直しやすいホワイトボードを使う。隣のマスに小学生の手本の俳句を載せておく。
・もう一つの五音には何を入れよう。 ・二音足りない。 ・最後に「や」をつけて五音にしようか	・行き詰ったら初めの言葉を選び直し、出来上がったらもう一つ作るよう助言する。もう一つ作る場合は、できた俳句を自分の句帳に書いておくように指示する。
(2)作った俳句を紹介する。	・お互いの俳句の良さを見つけながら聞き合うよう指導する。
5 自分の一番読みたい言葉で俳句を作る。	・机を戻し、自分のイメージと向き合わせ、自由に創作させる。
(1)創作する。	※五七五のリズムで秋の俳句を作る楽しさを感じている。(発言・ノート)
(2)何人かの俳句を聞き、鑑賞する。	・互いの俳句を聞き、表現したかった思いや良さに気づくようにする。また、友達と協力することや友達に認められる良さを味わえるようにする。 (人との関わりの中での気づき)
・〇〇さんの～の言葉が秋らしい。 ・〇〇さんの～の言葉は～にぴったり。 ・～という言葉に色の感じが表れている。 ・虫の鳴き声が面白い。	
6 学習計画表で本時の振り返りをする。	

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	3年・国語	単元 教材名	日本語のしらべー秋	配当 時間	4時間
教師名	塚本 和代			教室	3年1組教室
学習 目標	俳句のもつ美しい響きを感じ取ったり、創作したりして俳句に親しむ。				

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
Ⅰ 課題設定 A	○学習課題の把握 ・好きな秋の俳句を見つける。 ・俳句を作り、中学生に読んでももらったり、俳句大賞に応募したりする。	個	一斉 協 ア 資料に着目する	<ul style="list-style-type: none"> ● A ワークシート ● B 発問・補助発問の工夫 ● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等) ● D 学習カード・短冊 ● E キーワード提示 ● F 動作化・デモンストレーション ● G グッドモデル・模範作品・演技の提示 ● H 曲を流す ● I KJ法 ● J ウェビング
		個	一斉 協 イ 資料を比較する	
		個	一斉 協 ウ 体験活動前に予想する	
		個	一斉 協 エ 複数の資料に着目する	
		個	一斉 協 オ 体験活動を振り返る	
		個	一斉 協 カ 資料の推移を推測する	
		個	一斉 協 キ 問題を焦点化	
		個	一斉 協 ク 学習問題をウェビングで類推する	
		個	一斉 協 ケ 学習の見通しを持つ	
		個	一斉 協 コ 学習への興味喚起	
Ⅱ 情報収集 A B	○情報収集と資料分析 ・秋の俳句を音読練習する。 ・校庭の秋さがしをする。 ・教科書 ・NHKfor school「お話のくにクラシック」 ・デジタルカメラ	個	一斉 協 ア データ収集	<ul style="list-style-type: none"> ● A アンケート調査(シートの工夫) ● B インターネット検索(記録シートの工夫等) ● C 図書資料で対照する・選択する ● D 思考ツール ● E 付箋 ● F カード類(絵、言葉、意思表示等) ● G 実験・実演・動作化 ● H 見学 ● I ワークシート ● J スタディノート ● K プレインストミグ・話し合い活動 ● L グループワーク ● M NHK教材
		個	一斉 協 イ 根拠の収集	
		個	一斉 協 ウ 気付きの集約	
		個	一斉 協 エ 情報等の選択する	
		個	一斉 協 オ 実験・観察記録	
		個	一斉 協 カ 話し(練習等)	
		個	一斉 協 キ 活動記録(発表の録画)	
		個	一斉 協 ク 文章等の構成を考える	
		個	一斉 協 ケ 要約・あらすじの理解	
		個	一斉 協 コ 学習計画	
Ⅲ 整理・分析	○資料の整理とまとめ ・「秋」をイメージする言葉と様子を表す言葉を集める。	個	一斉 協 ア 比較・分析する	<ul style="list-style-type: none"> ● A ワークシート ● B 発表ボード(BIG PAD, 書面カメラ等も含む) ● C 付箋・構成メモ・短冊 ● D タブレット ● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード) ● F 動画・録画機能 ● G 構成的板書 ● H データベース活用 ● I ロールプレイ ● J ディスカッション・話し合い ● K 学ボード
		個	一斉 協 イ 情報を整理し選択する	
		個	一斉 協 ウ 質疑応答	
		個	一斉 協 エ 検討・考察	
		個	一斉 協 オ 推敲	
		個	一斉 協 カ 意見交換	
		個	一斉 協 キ 自己評価・他者評価	
		個	一斉 協 ク 再考	
		個	一斉 協 ケ 問題解決(自力・協働)	
		個	一斉 協	
Ⅳ まとめ・表現	○俳句作り・交流 ・3人で五七五 ・自分の俳句 ・中学校との交流・応募	個	一斉 協 ア まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ● A ワークシート・学習カード ● B プレゼンテーション ● C 新聞作成 ● D 紹介文(レポート)作成 ● E PCでまとめる・スタディノート ● F ハンフレッツ・リーフレッツ作り ● G ポスター作成 ● H パネルディスカッション ● I ディベート ● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD ● K 自己評価カード・振り返りカード ● L スキルアップ表 ● M いいねカード・相互評価カード(付箋等) ● N 動作化・ロールプレイング ● O 演示、(実験) ● P 学ボード
		個	一斉 協 イ プレゼンテーション	
		個	一斉 協 ウ 加工・構成・編集する	
		個	一斉 協 エ 考察する	
		個	一斉 協 オ 伝え合う・共有する	
		個	一斉 協 カ スピーチ	
		個	一斉 協 キ 発展させる	
		個	一斉 協 ク 主張する・発表する・説明	
		個	一斉 協 ケ 感想を持つ	
		個	一斉 協 コ 振り返る	

成果	
課題	

第4学年2組 理科学習指導案

指導者 野村 久美子

1 単元 ものの温度と体積

2 単元の見通し

- 金属、水及び空気を温めたり冷やしたりしたときの現象に興味・関心をもち、進んでそれらの性質を調べようとしている。(自然事象への関心・意欲・態度)
- 金属、水及び空気の体積の変化と温度を関係付けて予想をもち、表現できると共に、結果から体積の変化と温度を関係付けて考察し、表現している。(科学的な思考・表現)
- 加熱器具などを安全に操作し、金属、水及び空気の体積の変化を調べる実験をし、その過程や結果を記録している。(観察・実験の技能)
- 金属、水及び空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わることを理解している。(自然事象についての知識・理解)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

本単元では、金属、水及び空気の性質について興味・関心をもち、追究する活動を通して、温度の変化と金属、水及び空気の体積の変化とを関係付ける能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、金属、水及び空気の性質についての見方や考え方をもち、表現することができるようにすることがねらいである。金属、水及び空気を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化を比較しながら追究していく活動を通して、「現象の変化とその要因を関係付ける能力」を育てていきたい。

(2) 児童の実態 (37人)

調査結果(平成29年7月19日 37人実施)

①空気を温めると体積はどうなるか。	増える 13人	変わらない 15人	減る 4人
②水を温めると体積はどうなるか。	増える 7人	変わらない 17人	減る 6人
③金属を温めると体積はどうなるか。	増える 4人	変わらない 22人	減る 8人

調査では、約半数の児童が金属、水及び空気を温めると冷やしても体積は変わらないと思っていることが分かった。温度の変化によって体積が変わるという現象を目にする機会は、生活経験によって大きな差異が見られる。この学習では、実験・観察場面を多く取り入れることで現象を経験として蓄積させるようにしたい。温度と体積変化を関係付けてとらえさせるために、イメージ図やモデル図をかかせ、視覚的に分かりやすい方法へと工夫させる。温度による体積変化の最も大きい空気から実験を行い、水と金属の体積変化については、空気の体積変化をもとにイメージしながら追究させていく。

(3) 研究テーマに迫るために

これまでに、「空気と水」の単元で、閉じ込めた空気や水をおすと空気の体積は減り、おし返す力は大きくなるが、水はおし縮められないことを学習している。この学習は、6年「燃焼の仕組み」、7年「物質のすがた」、8年「物質の成り立ち」、9年「水溶液とイオン」につながる粒子についての重要な単元である。実験を進めていくときは、グループで考えを共有したり、全体で友達の考察を確認したりすることで、自他のよさを認め、人とのかかわりの中での気付きを高めていきたい。空気と水の温度による体積変化を調べる方法を自分で考えて検討していくことで自分への期待をもち、追究するための実験を実行することで自己への理解が深まるようにしていく。これらの観点から自己肯定感を高めていけるよう指導していきたい。

4 指導計画 (8時間扱い)

次	時	学習内容	評価計画			
			関	思	技	知
第一次	1	・栓をしりシャボン液をつけたりのペットボトルを湯の中に入れたときの様子について調べる。	◎	○		
	2	・空気の体積と温度の関係について予想をもち、実験方法を考える。		◎	○	
	3 本時	・考えた実験方法で空気の体積と温度の関係について調べる。		◎	○	
第二次	4 5	・水の体積と温度の関係を調べる。		○	◎	
第三次	6	・金属の体積と温度の関係を調べる。			○	◎
	7	・身の周りから、ものの温度による体積変化を見つける。	◎			○

5 本時の指導

(1) 目 標

空気の体積変化と温度の関係について調べる実験をして結果を記録し、自分の考えを表現している。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

実験は、同じような課題を設定・計画した人同士でグループを作って進めていく。結果をまとめる際、グループでの交流を取り入れることで、他者の意見を参考にしながら自分の考えをもち、より良い考察ができたことが感じられるようにする。その後、全体で考察を確認することで、自分の考察に自信をもったり、より良い考察へと広げたりできるようにする。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <p>空気を温めたり冷やしたりすると、体積はどうなるのだろうか。</p> <p>2 前時に考えた予想を発表する。</p> <p>・空気を温めるとふくらんで、体積は大きくなる。 ・温めるのをやめると空気は元の大きさに戻らと思う。</p> <p>3 どのような方法で実験を行うかグループごとに発表し、全体で確認する。</p> <p>〈予想される実験方法〉 ①試験管の口にシャボン液をつけて、膜の変化を見る。 ②ペットボトルの口に風船をつけて、膨らんだりしぼんだりするか見る。 ③マヨネーズなどの容器の形の变化を見る。など</p>	<p>・ペットボトルの中の空気を温めると栓が飛んだり、膜がふくらんだりするという演示実験を見せることで、実験への興味を高めさせたい。</p> <p>・既習の「閉じ込めた空気や水」での学習を思い出させることで、予想を立てやすくする。</p> <p>・予想を立てるときには、言葉だけでなく絵やイメージ図に描いて表すなど、自分なりに予想をもち、考えを説明できるようにする。</p> <p>・予想をたてにくい児童には、課題の言葉を用いるとよいことを伝える。</p> <p>・前時にグループごとに考えた実験方法を発表させ、全員が他の実験方法を共有できるようにする。</p> <p>・空気を温めて、どうなったら体積が大きくなることと同義か確認することで予想と実験結果を対応させ、実験の見通しがもてるようにする。</p> <p>・空気を加熱する際は、50～60度の湯を使い、取り扱い方に注意して安全に実験できるようにする。</p> <p>・マヨネーズの容器等は少しへこませてから湯で温めるよう確認する。</p>
<p>4 実験をして、結果から考察する。</p> <p>〈結果〉 ・試験管の口のシャボン液は、温めると膨らみ、冷やすとへこんだ。 ・ペットボトルを温めたり冷やしたりすると、つけた風船は膨らんだりしぼんだりした。 ・マヨネーズの容器を温めると、容器はふくらんだ。</p>	<p>・結果をまとめる際には、実験を通して実感したことを絵やイメージ図で表現させ、視覚的に分かりやすくまとめるよう机間指導をする。</p> <p>・①常温のとき②温めたとき③冷やしたときの3つを比較して考えさせ、温度変化による体積変化について考察できるよう助言する。</p> <p>・一人で考えることが難しい場合には、グループで一緒に考えるよう助言し、自分なりの考えや意見をもてるようにする。</p> <p>・グループで結果をまとめることで、他者の多様な考えを知り、よさを認め合い、自分の考えを広げられるようにする。</p>
<p>5 結果と考察を発表する。</p> <p>〈考察〉 ・試験管の中の空気をあたためると、中の空気がふくらんで体積が増えたと考えられる。 ・中の空気を冷やすと、空気が縮んだから体積が小さくなったのだと思う。</p>	<p>(人とかかわりの中での気づき)</p> <p>・結果と考察をグループごとにホワイトボードにまとめて発表させる。</p> <p>※体積変化と温度の関係について結果を記録し、自分の考えを表現することができる。 (観察・ノート)</p> <p>・考察を発表させ、自分の考察に自信がもてるようにする。また、友達の考察を聞くことでよりよい考察へと広げられるようにする。 (自分への期待)</p>
<p>6 本時の振り返りをする。</p> <p>・学習したことをまとめ、本時の活動の感想を書く。</p>	<p>・本時の学習で自分ができるようになったことや分かったことを中心に振り返りをさせる。</p>

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	4年・理科	単元 教材名	ものの温度と体積	配当 時間	7時間
教師名	野村 久美子			教室	4年2組教室
学習 目標	金属、水及び空気を温めたり冷やしたりして、それらの変化の様子を調べ、金属、水及び空気の性質について考えようとする。				

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て		
Ⅰ 課題設定 A	○学習課題の把握 ・空気をあたためると、空気の体積がどうなるかに興味をもち、金属・水・空気の体積と	個	一斉 協 ア 資料に着目する	●	● A ワークシート	
		個	一斉 協 イ 資料を比較する	●	● B 発問・補助発問の工夫	
		個	一斉 協 ウ 体験活動前に予想する	●	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)	
		個	一斉 協 エ 複数の資料に着目する	●	● D 学習カード・短冊	
		個	一斉 協 オ 体験活動を振り返る	●	● E キーワード提示	
		個	一斉 協 カ 資料の推移を推測する	●	● F 動作化・デモンストレーション	
		個	一斉 協 キ 問題を焦点化	●	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示	
		個	一斉 協 ク 学習問題をウェビングで類推する	●	● H 曲を流す	
		個	一斉 協 ケ 学習の見通しを持つ	●	● I KJ法	
		個	一斉 協 コ 学習への興味喚起	●	● J ウェビング	
		個	一斉 協 サ 現状把握	●		
		個	一斉 協 シ 絵を描く	●		
		個	一斉 協			
Ⅱ 情報収集 A B	○情報収集、実験 ・教科書 ・ノート ・ワークシート	個	一斉 協 ア データ収集	●	● A アンケート調査(シートの工夫)	
		個	一斉 協 イ 根拠の収集	●	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)	
		個	一斉 協 ウ 気付きの集約	●	● C 図書資料で対照する・選択する	
		個	一斉 協 エ 情報等の選択する	●	● D 思考ツール	
		個	一斉 協 オ 実験・観察記録	●	● E 付箋	
		個	一斉 協 カ 試し(練習等)	●	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)	
		個	一斉 協 キ 活動記録(発表の録画)	●	● G 実験・実演・動作化	
		個	一斉 協 ク 文章等の構成を考える	●	● H 見学	
		個	一斉 協 ケ 要約・あらすじの理解	●	● I ワークシート	
		個	一斉 協 コ 学習計画	●	● J スタディノート	
		個	一斉 協 サ 作品等鑑賞・読み合い	●	● K プレインストミング・話し合い活動	
		個	一斉 協		● L グループワーク	
		個	一斉 協		● M NHK教材	
個	一斉 協					
Ⅲ 整理・分析	○考察 ・実験の結果から金属、水及び空気の性質について考察する。	個	一斉 協 ア 比較・分析する	●	● A ワークシート	
		個	一斉 協 イ 情報を整理し選択する	●	● B 発表ボード(BIG PAD,書面カメラ等も含む)	
		個	一斉 協 ウ 質疑応答	●	● C 付箋・構成メモ・短冊	
		個	一斉 協 エ 検討・考察	●	● D タブレット	
		個	一斉 協 オ 推敲	●	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)	
		個	一斉 協 カ 意見交換	●	● F 動画・録画機能	
		個	一斉 協 キ 自己評価・他者評価	●	● G 構成的板書	
		個	一斉 協 ク 再考	●	● H データベース活用	
		個	一斉 協 ケ 問題解決(自力・協働)	●	● I ロールプレイ	
		個	一斉 協	●	● J ディスカッション・話し合い	
		個	一斉 協		● K 学ボード	
		個	一斉 協			
		Ⅳ まとめ・表現	○まとめ・振り返り ・金属、水及び空気の性質のついてまとめる。 ・身の周りの温度による体積	個	一斉 協 ア まとめる	●
個	一斉 協 イ プレゼンテーション			●	● B プレゼンテーション	
個	一斉 協 ウ 加工・構成・編集する			●	● C 新聞作成	
個	一斉 協 エ 考察する			●	● D 紹介文(レポート)作成	
個	一斉 協 オ 伝え合う・共有する			●	● E PCでまとめる・スタディノート	
個	一斉 協 カ スピーチ			●	● F ハンフレッツ・リーフレッツ作り	
個	一斉 協 キ 発展させる			●	● G ポスター作成	
個	一斉 協 ク 主張する・発表する・説明			●	● H パネルディスカッション	
個	一斉 協 ケ 感想を持つ			●	● I ディベート	
個	一斉 協 コ 振り返る			●	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD	
個	一斉 協				● K 自己評価カード・振り返りカード	
個	一斉 協				● L スキルアップ表	
個	一斉 協				● M いいねカード・相互評価カード(付箋等)	
個	一斉 協				● N 動作化・ロールプレイング	
					● O 演示、(実験)	
					● P 学ボード	

成果	
課題	

第6学年1組 算数学習指導案

指導者 T 1 中泉 悦子
T 2 秋葉 由美
T 3 菊池 厚子

1 単元 形が同じ図形を調べよう

2 単元目標

- 身のまわりの拡大図や縮図に興味・関心をもち、それらについて積極的に調べようとする。
(算数への関心・意欲・態度)
- 対応する辺や角について調べ、拡大図や縮図になるかどうかを説明したり、拡大図・縮図のかき方を考えたりすることができる。
(数学的な考え方)
- 拡大図や縮図を正しく作図したり、縮図を利用して実際の長さや測定困難な場所の長さを求めたりすることができる。
(数量や図形についての技能)
- 「拡大図」や「縮図」の用語とその意味、「縮尺」の用語とその意味や表し方を理解している。
(数量や図形についての知識・理解)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

5年生では、平面図形の性質、合同な図形の意味やかき方について学習してきている。6年生の図形領域では、身の回りから、縮図や拡大図、対称な図形を見付ける活動を通して、平面図形についての理解を深める。本単元では、拡大図、縮図の用語と意味、かき方、活用について学習する。図形の対応する辺の長さの比が等しく、対応する角の大きさがそれぞれ等しいとき、拡大図や縮図になることを理解し、拡大したり縮めたりした三角形を作図することができるようにする。拡大図、縮図は中学校で学習する「相似」の基礎となるので、作図や縮図を利用した問題などを経験させ、中学校での学習につなげたい。

(2) 児童の実態 (40人)

調査結果(平成29年7月18日 40人実施)

① 合同な四角形で対応する頂点分かる	分かる 40人	分からない 0人	
② 合同な四角形で対応する辺分かる	対応順に答えられる 22人	対応順に書けない 8人	分からない 2人
③ 合同な四角形で対応する角分かる	分かる 27人	分からない 13人	
④ 合同な三角形がかけれる。	正確にかけれる 32人	図形の向きが反対 2人	かけない 6人

図形の学習は、意欲的に取り組む児童が多い。合同で向きの異なる1組の四角形の図から、対応する辺を答える問題では、分かっているが、対応する順に記入することが出来ず、アルファベット順に書いている。対応する頂点を答える問題では、ほとんどの児童が分かっているが、対応する角の問題になると、間違える児童が多い。図を見て同じ場所にある角を選んでしまい、頂点と角とのつながりを理解していないようである。合同な三角形をかく問題では、辺の長さの測り方やコンパスの使い方で戸惑っている様子が見られた。本時では、実測が困難な木の高さを縮図を利用して求めることで、縮図の良さに気付くようにしたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本時では、桜並木学園の3校のシンボルの木の高さを求める問題に取り組む。写真から木の高さを予想し、木の高さを求める方法を話し合ってから自力解決する。自力解決の場面では、個別で取り組んでから小グループで話し合う。自力解決に自信がない児童は、T2が中心となって求め方や手順を相談しながら解決していく。解決方法が決まらない児童は、T3がヒントカードを使って一緒に求めていくように支援し、全員が自力解決できるようにする。比較検討の場面では、学級全体で発表し、話し合う。このような活動を通して、自己への理解を深め、自己肯定感を高めていけるよう指導していきたい。

「拡大図と縮図」の学習は、中学校3年「相似な図形」へとつながる。9年生では相似な図形を利用して、実測が困難な校舎や木の高さを求めたり、離れた位置にある木の間の距離を求めたりする。6年生では、縮図を利用して問題を解決することができることを実感させ、縮図を利用するよさにふれる。同じ問題を、それぞれ既習事項をもとにして求めることで、中学校の学習につなげるようにしたい。

4 指導計画(8時間扱い)

時	学習内容	評価計画			
		関	考	技	知
1	・写真を見て、対応する角の大きさや対応する辺の長さを調べ、拡大と縮小を知る。	○	◎		
2	・2つの図形を調べて、拡大図・縮図の関係を理解する。		◎		○
3	・拡大図や縮図のかき方を理解し、方眼を使って作図する。	○		◎	
4	・三角形の辺の長さや角の大きさを使って拡大図や縮図を作図する。		◎		
5	・相似の中心を利用して、拡大図や縮図をかく。			◎	
6	・縮図から実際の長さを求める。			◎	○

評価計画
評価規準(評価方法)

・対応する辺の長さや角の大きさをもとに、同じ形と言えるかどうかを考え、説明している。(観察・ノート)

・対応する辺の長さや角の大きさを調べている。(観察・ノート)

・方眼を活用し、拡大図・縮図を作図することができる。(観察・ノート)

・三角形の拡大図や縮図のかき方を考え、説明している。(観察・ノート)

・相似の中心を利用して、拡大図と縮図をかくことができる。(観察・ノート)

・縮図を利用して、実際の長さを求めることができる。(観察・ノート)

7 (本時)	・縮図を利用して、実際に測定することが困難な場所の長さを求める。	○	◎	・縮図を利用して、実際に測定することが困難な場所の長さを、計算で求めることができる。(観察・ノート)
8	・まとめの問題や発展問題を行う。		◎	・拡大図や縮図を弁別したり、作図したり、縮図から実際の長さを求めたりすることができる。(観察・ノート)

5 本時の指導

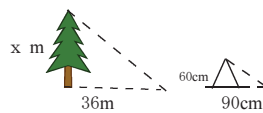
(1) 目標

縮図や比を利用して、実際に測定することが困難な木の高さを求められることを理解し、学校のシンボルの木の高さを求める。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

自力解決の場面で、小グループで考えたり話し合ったりすることで、他者の意見を参考にしながら自分の考えをもち、より深めることができたということを実感できるようにする。比較検討の場面では、全体で話し合うことで、自分の考えに自信をもったり、より良い考えへと広げたりできるようにする。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)																				
<p>1 本時の問題を知る。</p> <div data-bbox="183 734 750 929">  <p>桜並木学園の3校のシンボル木の高さを求めてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーン 高さ60cm 影90cm ・桜南小の木 影 36m </div> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div data-bbox="183 985 750 1041"> <p>木の高さを求める方法を考えよう。</p> </div> <div data-bbox="183 1064 750 1131"> <p>・縮図 ・拡大図 ・比 ・何倍か</p> </div> <p>3 自力解決をする。</p> <div data-bbox="183 1176 750 1489"> <p>【予想される考え方】</p> <p>ア 比を使う 木の影：木の高さ＝コーンの影：コーンの高さ 3600：x＝90：60 2400cm</p> <p>イ 木の影は、コーンの影の何倍か 3600÷90×60 2400cm</p> <p>ウ コーンの影は、木の影の何倍か 60÷(90÷3600) 2400cm</p> </div> <p>4 グループで考えを話し合う。 木の高さを求めた方法を相談し合う。</p> <p>5 全体で考えを発表し合う。 木の高さを求めた方法を比べる。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p> <div data-bbox="183 1680 750 1803"> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に測定できないものでも縮図を利用すると求められることができたことが分かった。 ・比の関係を使うとよいことが分かった。 </div> <p>7 適用問題を解く。 並木小と並木中の木の高さを求めよう。 並木小720cm 並木中 1710 cm</p> <p>8 本時の振り返りを行い、次時の見通しをもつ。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>T 1</th><th>T 2</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・桜南小のシンボル木の写真を見て、高さを予想し、実際の高さを求める方法を考えるようにする。 </td><td> <ul style="list-style-type: none"> ・木とコーンの写真を提示し、イメージできるようにする。 </td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・分かっていること、求めること、木とコーンの関係を押さえる。 </td><td></td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・答えを求めるために、何を使って考えるかを話し合い、自力解決できるようにする。 </td><td> <ul style="list-style-type: none"> ・小黒板を使用して、説明をする。 ・比の意味や表し方について確認をする。 </td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・木の高さを求めることができた児童には、別の方法でも考えるように声を掛ける。 </td><td> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の途中で戸惑っている児童は、小グループで説明を受けながら解決できるように支援する。 ・どの方法で解決するか迷っている児童には、ヒントカードを渡す。(T 3) </td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・計算を苦手とする児童には電卓を使用して計算するようにする。 </td><td></td></tr> <tr> <td> <p>※問題を解決する方法を考え、答えを求めようとしている。</p> </td><td> <p>(観察・ノート)</p> </td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・小グループで、話し合うときは、発表順番を決めておき、話し合いがスムーズにできるようにする。 ・全体では解答の求め方を中心に発表し合う。 ・それぞれの解決方法の相違点やよさを考える。 ・他者の多様な考えを知り、よさを認め合い、自分の考えを広げられるようにする。(人とのかわりの中での気づき) </td><td> <p>※実測が困難な高さの求め方を理解することができたか。(観察・ノート)</p> </td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに自信がもてるようにする。また、友達の考えを聞くことでよりよい考えへと広げられるようにする。(自分への期待) </td><td></td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で自分ができるようになったことや分かったことを中心に振り返りをさせる。 ・中学校で「相似な図形」の学習で、実測できない物の高さや距離を求める学習があることを話し、中学校へのつながりを感じさせる。 </td><td></td></tr> </tbody> </table>	T 1	T 2	<ul style="list-style-type: none"> ・桜南小のシンボル木の写真を見て、高さを予想し、実際の高さを求める方法を考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木とコーンの写真を提示し、イメージできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かっていること、求めること、木とコーンの関係を押さえる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・答えを求めるために、何を使って考えるかを話し合い、自力解決できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小黒板を使用して、説明をする。 ・比の意味や表し方について確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木の高さを求めることができた児童には、別の方法でも考えるように声を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の途中で戸惑っている児童は、小グループで説明を受けながら解決できるように支援する。 ・どの方法で解決するか迷っている児童には、ヒントカードを渡す。(T 3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算を苦手とする児童には電卓を使用して計算するようにする。 		<p>※問題を解決する方法を考え、答えを求めようとしている。</p>	<p>(観察・ノート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループで、話し合うときは、発表順番を決めておき、話し合いがスムーズにできるようにする。 ・全体では解答の求め方を中心に発表し合う。 ・それぞれの解決方法の相違点やよさを考える。 ・他者の多様な考えを知り、よさを認め合い、自分の考えを広げられるようにする。(人とのかわりの中での気づき) 	<p>※実測が困難な高さの求め方を理解することができたか。(観察・ノート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに自信がもてるようにする。また、友達の考えを聞くことでよりよい考えへと広げられるようにする。(自分への期待) 		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で自分ができるようになったことや分かったことを中心に振り返りをさせる。 ・中学校で「相似な図形」の学習で、実測できない物の高さや距離を求める学習があることを話し、中学校へのつながりを感じさせる。 	
T 1	T 2																				
<ul style="list-style-type: none"> ・桜南小のシンボル木の写真を見て、高さを予想し、実際の高さを求める方法を考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木とコーンの写真を提示し、イメージできるようにする。 																				
<ul style="list-style-type: none"> ・分かっていること、求めること、木とコーンの関係を押さえる。 																					
<ul style="list-style-type: none"> ・答えを求めるために、何を使って考えるかを話し合い、自力解決できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小黒板を使用して、説明をする。 ・比の意味や表し方について確認をする。 																				
<ul style="list-style-type: none"> ・木の高さを求めることができた児童には、別の方法でも考えるように声を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の途中で戸惑っている児童は、小グループで説明を受けながら解決できるように支援する。 ・どの方法で解決するか迷っている児童には、ヒントカードを渡す。(T 3) 																				
<ul style="list-style-type: none"> ・計算を苦手とする児童には電卓を使用して計算するようにする。 																					
<p>※問題を解決する方法を考え、答えを求めようとしている。</p>	<p>(観察・ノート)</p>																				
<ul style="list-style-type: none"> ・小グループで、話し合うときは、発表順番を決めておき、話し合いがスムーズにできるようにする。 ・全体では解答の求め方を中心に発表し合う。 ・それぞれの解決方法の相違点やよさを考える。 ・他者の多様な考えを知り、よさを認め合い、自分の考えを広げられるようにする。(人とのかわりの中での気づき) 	<p>※実測が困難な高さの求め方を理解することができたか。(観察・ノート)</p>																				
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに自信がもてるようにする。また、友達の考えを聞くことでよりよい考えへと広げられるようにする。(自分への期待) 																					
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で自分ができるようになったことや分かったことを中心に振り返りをさせる。 ・中学校で「相似な図形」の学習で、実測できない物の高さや距離を求める学習があることを話し、中学校へのつながりを感じさせる。 																					

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	6年・算数科	単元 教材名	形が同じ図形を調べよう	配当 時間	8時間
担任 名	T1中泉 悦子 T2秋葉 由美 T3菊池 厚子			教室	6年1組教室
学習 目標	・拡大図や縮図の概念や性質について理解し、図形の理解を深めることができるようにする				

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	・ 本時の問題を知り、課題を確認する。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
II 情報収集 A B	・ 自力解決をする。 ・ グループで木の高さの求め方を話し合う。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
III 整理・分析	・ 全体で木の高さの求め方を比べる。 ・ 学習のまとめをする。	個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	● K プレインストミング・話し合い活動
		個 一斉 協		● L グループワーク
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書面カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
IV まとめ・表現	・ 本時の学習でできるようになったことや分かったことの振り返りをする。	個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協	コ 作品等鑑賞・読み合い	● J ディスカッション・話し合い
		個 一斉 協		● K 思考ツール
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D 紹介文(レポート)作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F バンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● K 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● L スキルアップ表
		個 一斉 協		● M いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● N 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● O 演示、(実験)
		個 一斉 協		● P 感想の交流

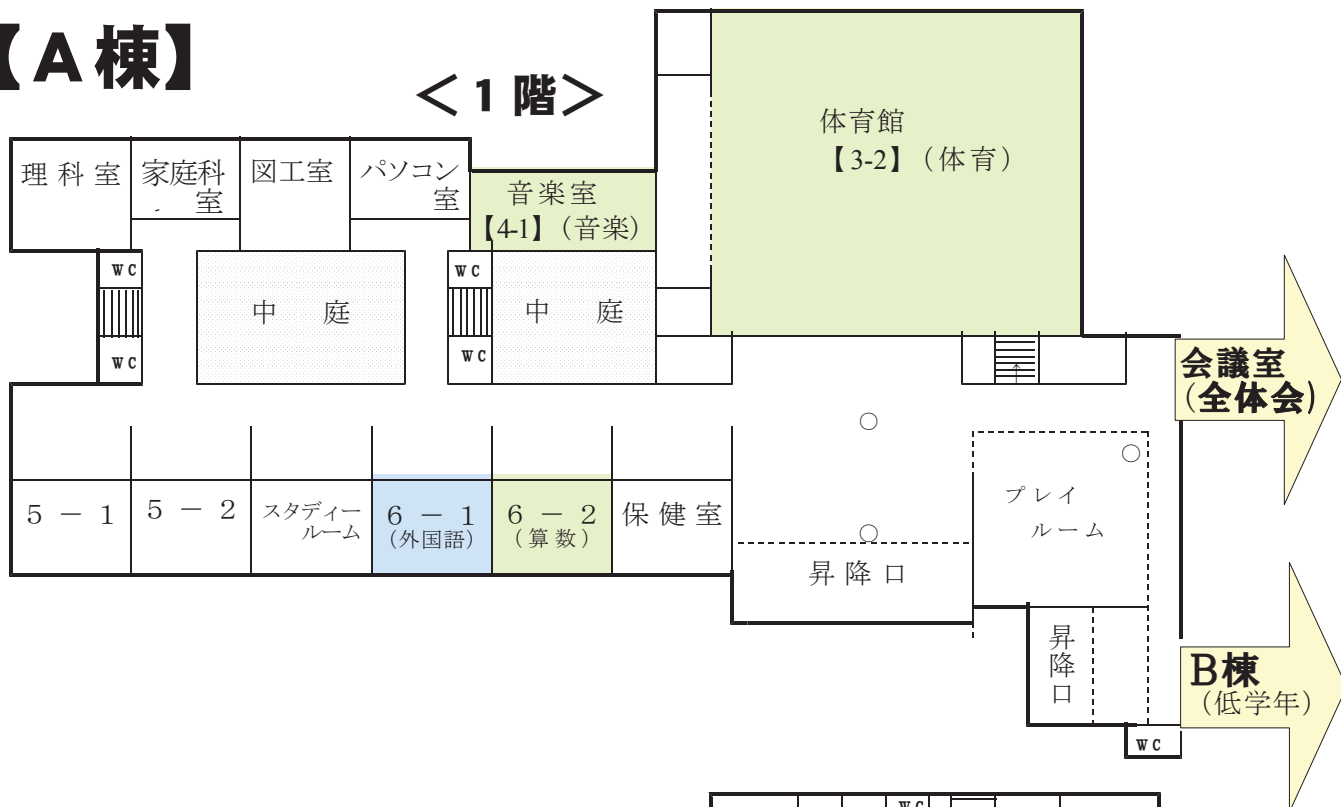
成果	
課題	

並木小学校

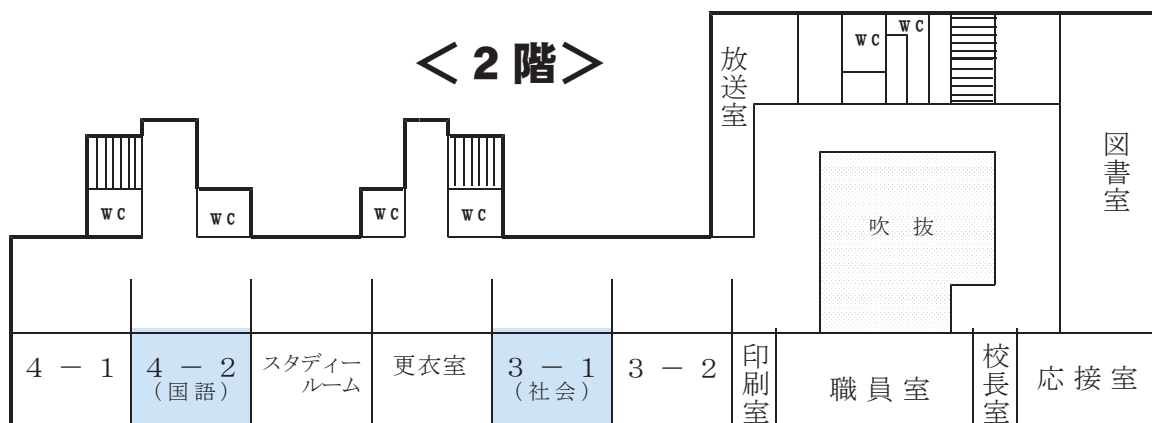
並木小学校 校内配置図

【A棟】

< 1 階 >

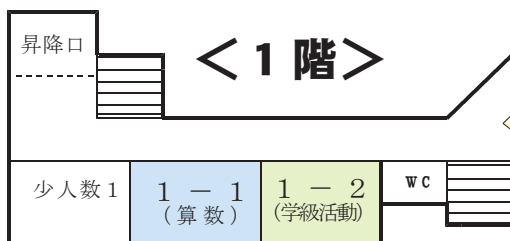


< 2 階 >

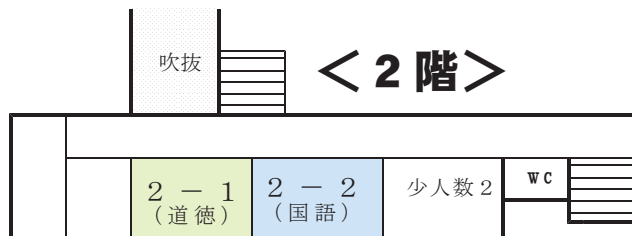


【B棟】

< 1 階 >



< 2 階 >



公開授業Ⅰ
(9:40~10:25)

公開授業Ⅱ
(10:45~11:30)

公開授業Ⅰ

会場：並木小学校 9:40～10:25

教 科	学年・学級	単 元 ・ 題 材 名	指 導 者	教 室
算 数	1年1組	いろいろなかたち	八木 智子	1年1組教室
国 語	2年2組	むかし話のおもしろさをさぐろう！	宮田 夏海	2年2組教室
社 会	3年1組	はたらく人とわたしたちの暮らし	横田 隆子	3年1組教室
国 語	4年2組	ごんぎつね	菱沼 文乃	4年2組教室
外国語活動	6年1組	Lesson 5 Let's go to Italy.	石津 保子 照山 真生 (並木中) Huang Yun Wen	6年1組教室

1 単元 いろいろななかたち

2 単元目標

- 身のまわりにあるいろいろな立体図形や平面図形について、観察や構成、分解などの活動を通して、その形状や特徴を進んで明らかにしようとしている。(算数への関心・意欲・態度)
- 身のまわりにあるいろいろな立体図形や平面図形について、形以外の属性を捨象して形の特徴をとらえることができる。(数学的な考え方)
- 身のまわりにあるいろいろな立体図形や平面図形について、その形状や機能性などの特徴を生かして、具体物を構成したり、絵をかいたりすることができる。(数量や図形についての技能)
- 基本的な立体図形や平面図形について、形状や特徴を理解することができる。(数量や図形についての知識・理解)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領解説の第1学年の内容C(1)「身の回りにあるものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにすること」を受け、形の特徴をとらえていく。身の回りにある箱や茶筒や積み木等の具体物の面を観察し、箱から「しかく」、茶筒から「まる」、積み木から「さんかく」の形を見つける算数的活動を大切にする。1年生での図形を観察する活動は、2年生の三角形・四角形の学習につながり、9年間の図形領域における基礎となっていくものである。

(2) 児童の実態 (31人)

調査結果(平成29年7月20日31人実施)

○積み木やブロックで遊んだ経験				
よくある	16人	あまりない	12人	ない 3人
○平面図形についての名前を問う調査				
・円	「まる」	31人	・三角形	「さんかく」29人 無答 2人
・正方形	「しかく」	30人 無答 1人		
・長方形	「ながしかく」	15人	「ほそしかく」	2人
	「よこしかく」	2人	「よこながしかく」	2人 無答 7人 誤答 2人
○似ている立体図形を見つける調査				
・直方体	正答	17人 誤答 14人	・円柱	正答 20人 誤答 11人
・立方体	正答	23人 誤答 8人	・球	正答 24人 誤答 7人

実態調査から、ほとんどの児童は、就学以前から立体図形に触れる経験があることがわかった。平面図形の名前については、表現方法は違うものの自分の言葉で表すことができていた。一方、立体図形については、見た目や向きで認識にずれがあったと考えられる。そこで、立体図形を識別する時に、用途、材質、色や大きさなどの属性を捨象して、形を認め、形の特徴をとらえることができるようにしていきたい。そのために、身のまわりにある具体物を観察し比較することを通して、分類する活動を取り入れる。そして、分類する観点を児童が自らの言葉で表現し見つけ出す力を育てていきたい。その際、実態調査において、長方形についての表現にばらつきがあったので、それぞれの言い方を認めながら共通の言葉をおさえていくようにしたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本単元では、身のまわりの具体物から、いろいろな形を見つけたり形作ったりする活動を体験的に行う。形の特徴をとらえていく場面において、その観点を児童が自らの言葉で表現する言語活動を取り入れたい。いろいろな表現方法が予想されるので、話し合いを通して、友達の良さに気づき、お互いを認め合いながら、自分の良さにも気付くことができるようにすることで、自己肯定感を高めていきたい。

4 指導計画(5時間扱い)

時	学習内容	評価の観点			
		関	思	技	知
1・2	・いろいろな箱を用いて、身のまわりにある具体物を作る活動を通して、形の特徴をとらえる。	◎	○		
3 (本時)	・箱や缶などの仲間集めの活動を通して、立体の形の特徴をとらえる。		◎		○
4・5	・立体の面の形を写し取ったり、同じ形に色を塗ったりして、平面図形の特徴をとらえる。		○		◎
		評価規準(評価方法)			
		・具体物を構成し、立体図形の特徴をとらえようとしている。 (行動観察・発言)			
		・立体図形进行分类し、その形の特徴をとらえている。 (行動観察・ワークシート)			
		・立体図形の構成要素である平面図形の特徴を理解している。 (発言・ワークシート)			

5 本時の指導

(1) 目 標

- ・ 立体図形について、形以外の属性を捨象して、立体図形の形の特徴をとらえることができる。
- ・ 分類整理の活動を通して、基本的な立体図形の特徴を理解できる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

仲間集めの活動では、自分の言葉で簡潔に説明できるように観点をしっかりおさえ、言語活動の充実を図る。また、グループでの交流を取り入れることで、他者の意見を認め、参考にしながら、自分の考えをもてるようにする。

また、ユニバーサルデザインの視点から、「思考ツール」を活用し、視覚化・焦点化を図りながら仲間集めを行い、他者と協働することでよりよい解決ができたことが感じられるようにする。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
1 本時の問題を知る。 なかまごとに、はこをあつめよう。	・ 前時の具体物を作る活動で使った箱を見せながら、きちんと片付けたいことを伝え、動機付けとする。
2 本時の課題を確認する。 はこのなかまあつめをするには、どのようにしたらいいだろう。	・ 立体の形に着目して、分類する学習であることを確認する。
3 課題を解決する。 ・ いくつぐらいに仲間集めができるか見通しをもつ。(個人)	・ おおよその分類の数を予想し、理由は次の活動で考えることを伝える。
4 どんなところが似ているか考えて、仲間集めをする。(グループ)	・ 用途、材質、色や大きさなどに関係なく、形を認め、形の特徴をとらえることが重要であることを確認する。
	・ 仲間集めの観点を意識させ、分類した理由を説明できるようにワークシート（思考ツール）に記入するよう促す。
	・ 分類することが難しい場合には、立体を実際に手に持ち、持ってみた特徴を言葉で表現するよう助言し、自分たちの考えや意見をもてるようにする。
	・ グループで話し合うことで、他者の多様な考えを知り、よさを認め合うことで、自分の考えを広げられるようにする。(自己理解)
5 仲間集めのポイントについて、全体で話し合う。 ・ 平らなものとまるのものに分けた。 ・ 転がるものと転がらないものに分けた。 ・ どこから見てもしかくのものとしかくとながしかくからできているものに分けた。	・ 仲間集めの観点をはっきりさせて、説明するように助言する。
	・ 自分の考えとの相違点や共通点を比較し、違いについて、質問をしたり、応答したりすることで、自他の考えのよさに気付くようにする。(人とかかわりの中での気付き)
	※立体図形の形の特徴をとらえ、理解しようとしている。 (観察・ワークシート)
6 本時の課題に対するまとめをする。 さいころの形、箱の形、筒（缶ジュース）の形、ボールの形に分けられる。	・ 児童の言葉を大切にしながら、学級の実態に合った名前を付けて、分類を確認する。
7 適用問題を解く。	・ 他の立体図形を分類する中で、話し合っ考えた名前を使うことにより、立体図形に対する理解を深める。
8 本時の振り返りを行い、次時の見通しをもつ。	・ 次回は、円や三角形、四角形を使って、形作りの学習をすることを伝える。
	・ 上学年では、それぞれの図形にも別の名前があることにも触れて意欲をもたせたい。

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	1年 算数	単元 教材名		いろいろなかたち	配当 時間	5時間
担任 氏名	八木 智子				教室	1-1教室
学習 目標	身のまわりにあるものの形について、観察や構成、分解などの算数的活動を通して、ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすることができる。					

場面		構想メモ		学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て	
I 課題設定 A	・学習課題の把握	個	一斉	協	ア 資料に着目する	●	● A ワークシート
		個	一斉	協	イ 資料を比較する	●	● B 発問・補助発問の工夫
		個	一斉	協	ウ 体験活動前に予想する	●	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個	一斉	協	エ 複数の資料に着目する	●	● D 学習カード・短冊
		個	一斉	協	オ 体験活動を振り返る	●	● E キーワード提示
		個	一斉	協	カ 資料の推移を推測する	●	● F 動作化・デモンストレーション
		個	一斉	協	キ 問題を焦点化	●	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個	一斉	協	ク 学習問題をウェビングで類推する	●	● H 曲を流す
		個	一斉	協	ケ 学習の見通しを持つ	●	● I KJ法
		個	一斉	協	コ 学習への興味喚起	●	● J ウェビング
		個	一斉	協	サ 現状把握	●	
		個	一斉	協			
II 情報収集 A B	・自力解決(個人・グループ) 箱を分類する。	個	一斉	協	ア データ収集	●	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個	一斉	協	イ 根拠の収集	●	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個	一斉	協	ウ 気付きの集約	●	● C 図書資料で対照する・選択する
		個	一斉	協	エ 情報等の選択する	●	● D 思考ツール
		個	一斉	協	オ 実験・観察記録	●	● E 付箋
		個	一斉	協	カ 試し(練習等)	●	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個	一斉	協	キ 活動記録(発表の録画)	●	● G 実験・実演・動作化
		個	一斉	協	ク 文章等の構成を考える	●	● H 見学
		個	一斉	協	ケ 要約・あらすじの理解	●	● I ワークシート
		個	一斉	協	コ 学習計画	●	● J スタディノート
		個	一斉	協	サ 作品等鑑賞・読み合い	●	● K 「ブレインストミング」・話し合い活動
		個	一斉	協			● L グループワーク
III 整理・分析	・全体での話し合い 仲間集めのポイントについて、話し合う。	個	一斉	協	ア 比較・分析する	●	● A ワークシート
		個	一斉	協	イ 情報を整理し選択する	●	● B 発表ボード(BIG PAD,書画カメラ等も含む)
		個	一斉	協	ウ 質疑応答	●	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個	一斉	協	エ 検討・考察	●	● D タブレット
		個	一斉	協	オ 推敲	●	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個	一斉	協	カ 意見交換	●	● F 動画・録画機能
		個	一斉	協	キ 自己評価・他者評価	●	● G 構成的板書
		個	一斉	協	ク 再考	●	● H データベース活用
		個	一斉	協	ケ 問題解決(自力・協働)	●	● I ロールプレイ
		個	一斉	協			● J ディスカッション・話し合い
		個	一斉	協			
		IV まとめ・表現	・発表 , まとめ クラス全員で共通の言葉を考える。 ・振り返り 何がわかったか。	個	一斉	協	ア まとめる
個	一斉			協	イ プレゼンテーション	●	● B プレゼンテーション
個	一斉			協	ウ 加工・構成・編集する	●	● C 新聞作成
個	一斉			協	エ 考察する	●	● D レポート作成
個	一斉			協	オ 伝え合う・共有する	●	● E PCでまとめる・スタディノート
個	一斉			協	カ スピーチ	●	● F パンフレット・リーフレット作り
個	一斉			協	キ 発展させる	●	● G ポスター作成
個	一斉			協	ク 主張する・発表する・説明	●	● H パネルディスカッション
個	一斉			協	ケ 感想を持つ	●	● I ディベート
個	一斉			協	コ 振り返る	●	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
個	一斉			協			● L 自己評価カード・振り返りカード
個	一斉			協			● M スキルアップ表
個	一斉	協			● N いいねカード・相互評価カード(付箋等)		
個	一斉	協			● O 動作化・ロールプレイング		
個	一斉	協			● P 演示、(実験)		
成果							
課題							

第2学年2組 国語科学習指導案

指導者 宮田 夏海

1 単元 昔話の面白さを探ろう！（かさこじぞう・したきりすずめ）

2 単元の見どころ

- 昔話を読んで面白さを見つけ、楽しく読み味わおうとしている。（国語への関心・意欲・態度）
- 行動や会話に着目して読み、中心人物の変化や人柄について考えることができる。（読むこと）
- 昔話の読み聞かせを聞いたり自分で読んだりして独特の語り口調や言い回しに気づき、伝統的な言語文化に親しむことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

昔話には、「世の中は、楽しいこともあるが苦しいこともたくさんあり、人は、その中で希望を見いだしたり生きていく知恵を身につけたりするもの」「人間とは…」がおもしろおかしく描かれている。児童は、時に突拍子もない表現に面白さを感じ、昔話の読み聞かせを楽しんでいる。しかし、本単元では、ただ面白いで終わらず、「なぜ、そういう結末になったか」「昔話に仕掛けられている不思議やメッセージ」を2年生なりに考えながら読むことをねらいとする。昔話の魅力を知って今後も読み続け、読んだ時期によって感じ方が違うことに気づいてほしいと考えた。

そこで、児童が初読で見つけた昔話の面白さを基に、読みの視点を学習する。その1つに「中心人物の変化を想像しながら読む」という視点がある。これは、中学年「中心人物の変化を心情や行動から捉えて読む」、高学年「登場人物の相互関係の変化に着目して読む」中学校「登場人物の役割や言動の意味に着目して読む」へとつながる基礎的部分である。中心人物の変化を追うことは、読みを深める手立ての1つであり、本単元では、昔話からのメッセージを読み解くことにつながるため、学習用語と共に、中心人物の変化が確実に捉えられるようにしていきたい。

そして、3つの視点を基に、面白さや不思議、昔話に込められたメッセージについて、他との対話を通して考えを広げたり深めたりできるようにする。また、昔話を他に紹介することで学習したことを活用し、昔話にさらに親しみ、読書をする幅を広げたり意欲を高めたりできるようにしたい。

(2) 児童の実態 (34人)

調査結果（平成29年7月19日 32人実施）

・本を読むことは好きですか。	とても好き 20人	好き 11人	あまり好きでない 1人	きらい 2人
・昔話を読むことは好きですか。	とても好き 7人	好き 14人	あまり好きでない 9人	きらい 2人
・舌切り雀を読んで面白いと思った所はどこですか。わけも書きましょう。				
読んだ感想を理由として入れて書く	10人	面白いところのみ書く	23人	書けない 1人
・舌切り雀のじさまとばさまは、最初と最後でどうなりましたか。それは、なぜだと思いますか。（中心人物の変化）				
変化と理由がわかる	6人	変化がわかる	3人	どちらもわからない 23人

○本学級は、読書を好む児童が多い。また、社会科学系の読み物・図鑑をよく読むと答えた児童が全体の75%、物語20%であるが、昔話は、全くいなかった。そこで、かさこじぞうで3つの視点（中心人物の変化・人柄・昔話特有の語り口調）を学習した後、舌切り雀と比較しながら、3つの視点で面白さを見つける練習と面白さのバージョンアップを図る。そして、最後には自分で選んだ昔話の面白さを自力で発見できるよう段階的に指導する。その際、根拠を基に話し合うことを重視し、面白さを深く読み取れるようにしたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本単元では、面白さを発見するための読みの力を児童に明示する。それをもとに、「習得→活用→振り返り」という授業の流れを作り「できるようになった」という実感を持たせたい。習得では、児童自ら中心人物の変化に気付けるようにするため、視覚的な教材のしかけを作ったり児童の発表を基に構成的な板書を行ったりする。そして、自分の選んだ本でも変化を探して付箋をつけることで学んだことをすぐに活用できるようにする。振り返り際には、振り返るポイントを明確に示したり時間を確実に確保したりして、できるようになったこと、できるレベルがあがっていることを自分で認識できるようにしたい。

単元全体を通して、話合いの着眼点、資料の提示の仕方、グループ構成など、交流の仕方を工夫すると共に、困ったときの「友達パワー」を意識して使うようにし、友達と一緒に分かるようになった、友達のおかげで意見が深まったと感じられるようにしていきたい。

4 指導計画 (12時間扱い)

時	学習内容	評価計画				
		関	話	書	読	言
1	・言語活動について知り、学習の見通しをもつ。	◎				
2	・既習教材を基に、中心人物の変化や重要語句、昔話の構造について知る。				◎	
3	・お話の大体をつかみ、初	○			○	

評価規準（評価方法）

・昔話に興味をもち、いろいろな昔話を読もうとしている。（読書記録カード）

・物語は、中心人物に変化があること、登場人物・中心人物などの重要語句、昔話の構造について理解している。（ノート）

・昔話の面白さを探しながら、読んでいる。（ノート）

	発の感想を書く。						
4～7	・初発の感想を生かしてかさこじぞうを3つの観点で読み取り、昔話の面白さを探る。				◎	◎	・特有の語り口調に気づき、声に出したり他の本で探すなどして、親しんでいる。(観察) ・会話や行動などを基に中心人物の変化を読み取り、人物の人物を考察することができる。(ワークシート・発表)
8 (本時)	・2つの昔話を読み比べ、3つの視点で、共通点と相違点を探し、新たな昔話の面白さを考える。				◎	○	・共通点や相違点を探すことを通して、3つの視点が他の昔話にも当てはまることに気づき、新たな昔話の面白さを発見することができる。(ワークシート・発表)
9～12	・自分の選んだ昔話の面白さを紹介する。	○			◎		・3つの視点を活用して選んだ昔話を読み、昔話の面白さを紹介している。(発表・作品)

5 本時の指導

□(1) 目標

二つの昔話の共通点や相違点を探すことを通して、3つの視点が他の昔話にも当てはまることに気づき、新たな昔話の面白さを発見することができる。

(2) 本時のポイント(自己肯定感を高めるための手立て)

比べ読みの際、自力で共通点や相違点が発見できるよう友達パワーを使ってヒントをもらうようにするペアやグループでの話し合いでは、目的とゴール、話し合いの方法を示すことで、一人一人が必要感を感じながら話し合えるようにする。振り返りでは、ポイントを提示することで、自分ができるようになったこと・友達のおかげでできるようになったことを自ら認識できるようにする。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
1 既習事項を確認し、課題を知る。 「クラスのはっけん！1・2・3」をバージョンアップさせて、むかし話のおもしろさをもっと見つけよう！	・三つの視点を確認した後、舌切り雀とかさこじぞうを比べることで何か見えてこないかを問い、共通点や相違点があるかもしれないと気付かせ、問題意識をもって課題に取り組めるようにする。
2 かさこじぞうと舌切り雀との共通点と相違点を探す。＜バージョンアップ1＞ ① 3つの視点を基に2つの昔話を読み、気が付いたことをワークシートへ書き込む。(個人・ペア) ② 見つけた共通点・相違点を発表する。(グループ・一斉)	・話の内容が把握できていない児童には、絵カードを用意して一緒に操作しながら3つの視点に迫るようにする。 ・困った時には、友達パワーを使っていいことを助言する。(人とかかわりの中での気づき) ・3つの視点を基に、線を引く・考えたことを書き込む・人物の気持ちを書き込むなど、自由に気が付いたことを書くよう助言する。 ・話し合いによって意見が広がり深まったりするよう、「どこが似ているか、ちがうか」「なぜ、そう思ったか」「どこからそう思ったか」を話し合う(内容)と、昔話の面白さがバージョンアップできること(ゴール・目的)を確認する。(人とかかわりの中での気づき)
3 共通点と相違点を基に、昔話から受け取ったメッセージについて話し合う。 ＜バージョンアップ2＞ (個人→ペア→一斉)	・2つ以上の根拠をあげている児童を称賛し、物語全体から根拠を基に考えられるようにする。 ※二つの昔話の共通点や相違点を探すことを通して、3つの視点が他の昔話にも当てはまることに気づき、新たな昔話の面白さを発見しようとしている。(ワークシート・発表)
4 交流して新しく発見したことを自分の言葉で書き、振り返りをする。	・メッセージが考えることが難しい児童には、書き出しを例示し、じさまとばさまの変化や人柄に注目して、書くよう助言する。 ・メッセージがイメージしやすいように、昔話の本が話している絵に吹き出しを書いたワークシートを用意する。 ・3つの視点を使うと、今まで見えなかった新たな昔話からのメッセージが見えてくることを確認する。 ・本時で自分ができたことを認識できるようにするため、3つの視点を基に振り返りを書くようにする。(自己理解)

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	2年 国語	単元 教材名	単元	昔話の面白さを探ろう！（かさこじぞう・したきりすずめ）	配当 時間	12時間
指導者名	宮田 夏海				教室	教室
学習 目標	3つの視点（昔話特有の語り口調・中心人物の変化・人柄）で昔話を読むことの面白さに気づき、3つの視点を他の本で確かめたり3つの視点をバージョンアップさせたりすることができるようにする。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	昔話の読み聞かせなどを聞き、教師のグッドモデルから課題を把握し、学習の見通しをもつ。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
		個 一斉 協	サ 現状把握	● K読み聞かせ
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
II 情報収集 A B	学習用語・昔話の構造・物語では、中心人物に変化が起きることを、既習の教材から理解する。 かさこじぞうを三つの視点で読み取り、昔話の面白さを探る。 ①昔話特有の語り口調 ②中心人物の変化 ③中心人物の人柄から変化の要因を考える。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
		個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	● K “ブレインストーミング”・話し合い活動
		個 一斉 協		● L グループワーク
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
III 整理・分析	かさこじぞう・したきりすずめを読み比べ、IIで学習したことを確かめたり、バージョンアップさせたりする。	個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● J ディスカッション・話し合い
		個 一斉 協		● K三つの視点で読む
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
IV まとめ・表現	自分で選んだ昔話について、3つの視点で読み、面白さを紹介する。	個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F パンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● L 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● M スキルアップ表
		個 一斉 協		● N いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● O 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● P 演示、(実験)

成果	
課題	

第3学年1組 社会科学習指導案

指導者 横田 隆子

1 単元 はたらく人とわたしたちの暮らし～店ではたらく人～

2 単元目標

- 地域の人々の販売の仕事の様子に関心をもち、意欲的に調べようとするとともに、これらの仕事と自分たちの生活とのかかわりについて進んで考えようとしている。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 地域の人々の販売の仕事の様子について、学習問題や予想、学習計画を考えたり、販売の仕事の工夫と自分たちの生活に関連づけながら、見学メモや図説プリントなどに適切に表現したりしている。(社会的な思考・判断・表現)
- 観点に基づいて見学したり、資料を活用したりして、必要な情報を読み取ることができるとともに、調べてわかったことをグラフや白地図等にまとめている。(観察・資料活用技能)
- 地域には販売にかかわる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、販売の仕事に見られる特色や他地域とのかかわりを理解している。(社会的な事象についての知識・理解)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

本小単元は、学習指導要領解説の第3学年及び第4学年の内容(2)を受けて、地域の産業や消費生活の様子について理解できるようにすることがねらいである。消費者の多様なニーズに合わせて流通業界の競争が激化する中、スーパーマーケット業界は、消費者の安全意識や健康志向の高まりなどの新たな要求に応えるサービスの提供を行いながら、消費者の要求に合わせたさらなるサービスの向上と販売の拡大に努めている。このような販売者の工夫は、商品の品質や価格などを考えて店や商品を選んで購入している消費者の工夫にも結び付いていることを理解させることで、地域の人々の消費生活の特色をより多面的にとらえさせることができる。そして、商品の産地を調べる際結びつきのある県や国の名称と位置を地図で確認する活動が、やがては5学年の食料自給率の問題や、中学校での地理的な見方や考え方の基礎となる学習に結び付いていく。

(2) 児童の実態 (32人)

調査結果 (平成29年7月20日32人実施)

- ①あなたの家でよく買い物に行く店はどこですか。(複数回答)
 - ・たいらや (28人) ・コンビニ (16人) ・イオン (13人) ・カスミ (12人) ・ウェルシア (7人)
- ②どうしてその店に行くと思いますか。(複数回答)
 - ・家から近いから (18人) ・いろいろな物がそろってるから (14人) ・安いから (8人)
- ③品物を買う時、どんなことを気にしますか。(複数回答)
 - ・値段 (14人) ・賞味期限 (5人) ・新鮮、安全 (5人)

実態調査から近くのスーパーマーケットで買い物する児童が圧倒的に多いことがわかる。中には日常生活における経験から買い物の知恵を身に付けている児童が見られるが、家族が店を選択して利用する様々な理由まではあまり見えていない。このような結果から、なぜスーパーマーケットに多くの客が集まるのかを買い物調べや聞き取り調査、店の見学などを通して調べ、スーパーマーケットで働く人が、私たち消費者が店に行く理由に応えるための販売の工夫をしていることを理解させる。また、スーパーマーケット以外の様々な店の特色を調べ、地域の人々は生活に合わせてそれらの店を利用していることを理解させる。そして、単元の終末では理想のスーパーマーケットを考える活動を通して、社会参画につながる態度を養っていきたい。

(3) 研究テーマに迫るために

社会的経験の格差や社会的事象に関する知識量に関係なく、誰もが自由に話せる雰囲気をつくるために、ペアやグループ学習を多く取り入れる。学習問題についての「予想」「価値判断」「仮定」の場面を設定し、自分の考えを表現したり、友達と意見を吟味したりする面白さを実感できるようにする。

4 指導計画 (14時間扱い)

時	学習内容	評価の観点				評価規準 (評価方法)
		関	思	技	知	
1	・買い物に行く店を紹介し合い、分布図を作る	◎				・分布図をもとに話し合い、身近な人の買い物に関心をもつ。 <small>(白地図・ワークシート)</small>
2～4	・スーパーがなぜよく利用されているかを話し合う。		◎			・スーパーがよく利用されている理由を仕事の工夫面から予想し、学習問題を考えている。 <small>(見学・ワークシート)</small>
5～7	・スーパー見学の計画を立て、見学する。	○	◎	◎		・見学メモを作成し、お店の工夫点や疑問点をメモしている。 <small>(見学メモ)</small>
8	・見学してわかったことを話し合い、整理する。			◎		・見学してわかった売り場や働く人の工夫を的確にまとめている。 <small>(ワークシート)</small>
9	・品物のふるさとを地図に表し、話し合う。				◎	・商品を通して、自分たちの地域と他地域とのつながりがわかる。 <small>(ワークシート)</small>
10	・消費者の願いと店の工夫とのつながりについて考え、話し合う。		◎			・店では消費者の願いに応えるサービスをしていることを話し合っている。 <small>(観望・ワークシート)</small>
11	・販売以外の様々な取り組みを調べる。		◎			・店では品物を売るだけでなく、地域の人々に役立つことを考えていることを話し合っている。 <small>(観望・ワークシート)</small>
12 (組)	・スーパーとコンビニの共通点を考える。				◎	・地域の店がそれぞれの特色を生かして仕事を工夫していること、店の様々な取り組みが人々の生活と結びついていることに気付く。 <small>(ワークシート)</small>
13	・スーパーとコンビニの違いを調べ、まとめる。				◎	
14	・理想のスーパーマーケットを考える。	◎				・理想のスーパーに必要な条件を考えることができる。 <small>(オープンチャット)</small>

5 本時の指導

(1) 目標

コンビニエンスストアでは、消費者の信頼に応えようとする店長の願いを基に、消費者の需要を予測し、商品の発注を工夫していることがわかる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

誰でも自由に話せる雰囲気をつくるために予想場面を多く設定し、ペアでの交流を取り入れることで、他者の意見を参考にしながら自分の考えをもてるようにする。さらに、話し合いの中でのなほと思ふ意見を言った隣の人を推薦し合うことで、自分の意見に自信をもったり、全員に考えを広げられるようにする。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連 ※は本時の評価)
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <p>(1) コンビニの売り上げベスト3を予想する</p> <p>(2) コンビニの売り上げに一番貢献している工夫は何かを予想する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも買えるから24時間営業かな。 ・まとめて買える商品の並べ方かな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>スーパーとコンビニの「にているところ」をさがそう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドサインで意思表示をさせることで、全員が授業に参加できるようにする。 ・予想した理由を問うことで、店内の様子や働く人の様子を想起させる。 ・予想意見が出たら、「スーパーではどうだったか」と補助発問し、コンビニとの共通点なのか相違点なのかを分類することで、コンビニの特色に気付かせる。 ・商品陳列の工夫の意見が出た場合は、見学時の写真で確認できるようにする。
<p>2 おにぎりの数と、曜日や季節などとの関連を予想し、話し合う。</p> <p>(1) 平日と土日</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・土日は出かける人が多いから。 ・平日の方が仕事する人が多いから。 </div> <p>(2) イベント</p> <p>(3) 季節</p> <p>(4) おにぎりの廃棄数</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄数が0の日は、損はしないから仕入れはうまくいったと思う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでの活動を取り入れ、話しやすい雰囲気の中で、友達から新たな気づきを得られるようにする。 (人とかかわりの中での気づき) ・隣の人からなるほと思ふ意見を聞いた人は、挙手して推薦させることで、いい意見をつぶやいた児童が自信をもてるようにする。 (自己理解) ・イベントの内容によって仕入れの数を調整することや、店長が仕入れのために情報を得る努力をしていることにも気付かせる。 ・直巻きおにぎりが冬に増える理由を、写真だけでなく実物を観察しながら考えさせたい。 ・夏休みに数を増やすおにぎりの種類を予想させることを通して、客の年齢層を考慮した工夫にも気付かせる。 ・「おにぎり販売・廃棄数表」を提示し、「廃棄0の日の仕入れは一番の失敗である」という店長の言葉の真意を考えさせる。
<p>3 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニもスーパーマーケットも、お客さんがほしい物が買えるように仕入れの数をかえている。 ・コンビニも、スーパーマーケットもお客さんが買いたい物を予想して、品物を仕入れている。 </div>	<p>※コンビニもスーパーと同じで、お客さんが買いたい物が買えるように、商品を工夫して仕入れていることを理解しようとしている。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仕入れ」というキーワードと「コンビニもスーパーも、お客さんが(の)…」という定型文を提示し、考える視点を明確にする。 ・コンビニの売り上げに貢献している工夫のベスト3を紹介し、仕入れ以外の工夫を知らせる。
<p>4 もし自分が店長なら、どんな場所に出店するかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の先生からの動画を視聴し、クイズにチャレンジさせることを通して、中学校の学習内容に関心をもたせたい。

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	第3学年 社会	単元 教材名	はたらく人とわたしたちの生活～店で働く人～	配 当 時	14時間
担任	横田 陸子			教室	3年1組
学習 目標	コンビニエンスストアでは、消費者の信頼に応えようとする店長の願いを基に、消費者の需要を予測し、商品の発注を工夫していることがわかる。				

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	①つかむ ・買い物に行く店を紹介し合い、分布図を作る。 ・スーパーマーケットがなぜよく利用されているのかを予想し、学習問題を考える。 ・スーパーマーケットで確かめたいことを出し合い、見学の計画を立てる。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
II 情報収集 A B	②調べる ・スーパーマーケットの売り場を見学し、店内の工夫に気付いたり、疑問点を見つめたりする。 ・スーパーマーケットで働く人にインタビューし、仕事の内容や工夫を調べる。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 話し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
III 整理・分析	・見学で見つけた働く人の工夫をカードにまとめ、発表する。 ・スーパーマーケットで売られている野菜や果物などは、どこから運ばれてくるのかを調べる。 ・お客さんの願いとスーパーマーケットの工夫とのつながりについて考える。 ・スーパーマーケットの販売以外の取り組みや、誰もが利用しやすい工夫について調べ、様々な工夫が地域の人々の生活と結びついていることを考える。 ・コンビニエンスストアとスーパーマーケットとの共通点を考える。 ・コンビニエンスストアとスーパーマーケットとのちがいを考える。	個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD、書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協	コ 体験活動を振り返る	● J ディスカッション・話し合い
IV まとめ・表現	③まとめる・いかす ・店長の立場になって、理想のスーパーマーケットを考え、オープンチラシを作成する。 ・学習を振り返り、まとめる。	個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F バンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD

成果	
課題	

第4学年2組 国語科学習指導案

指導者 菱沼 文乃
楽しく学ぶ学級づくり 高崎 智恵子

1 単元 ごんぎつね

2 単元目標

- 物語を読むことに興味を持ち、中心となる人物の気持ちの変化を考えようとしている。
(関心・意欲・態度)
- 中心となる人物とほかの人物とのかかわりをとらえ、それぞれの気持ちの変化を想像して読むことができる。また、中心となる人物とほかの人物とのかかわりについて考え、続き話を書くことができる。
(読むこと)
- 表現したり理解したりするために必要な語句を増やすことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

本単元の重点指導事項は、学習指導要領C読む(1)ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」である。児童は、これまでに低学年で、「登場人物の気持ちの変化を想像しながら読むこと」を学習し、中学年で「登場人物の心情の変化を捉えて読むこと」の学習を進めてきている。これまでの学習をふまえ、叙述を基に、ほかの人物との関わりを通して変化していく、中心人物の気持ちを読み取る力を付けたい。そのために、叙述に線を引きながら読み進めていく。そして、高学年「登場人物の相互関係の変化に着目して読むこと」や中学校「登場人物の役割や言動の意味に着目して読むこと」に繋げていく。

(2) 児童の実態 (40人)

調査結果 (平成29年7月14日38人実施)

・中心人物を見つけることができる。	できる	29人	できない	9人
・人物の気持ちの変化を読み取ることができる。	できる	27人	できない	11人
・叙述をもとに場面の様子を読み取ることができる。	できる	25人	できない	13人

本学級の児童は、中心人物を見つけることに比べて、人物の気持ちの変化や場面の様子などの読み取りを、苦手と感じている児童がいる。その理由として、言葉の意味が分からなかったり、気持ちの変化の理由を考えられなかったりする。そこで、物語に出てくる児童にとって難解の言葉は、調べさせると共に写真や絵図などで示していく。また、人物の気持ちの変化に気付けるように断片的に場面ごとに読むのではなく、全体を捉えた読み方ができるように工夫する。これらのことを通して、他の人物との関わりを通して変化していく、中心人物の気持ちを読み取る力を育てていきたい。また、物語を通して登場人物の気持ちの変化を読み取ったことを生かし、物語の続きを書くことで物語を読む楽しさを味わわせたり、友達との感じ方に違いがあることに気付けるようにしたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本単元では、ごんと兵十の関係を読み取り、物語の続きを書く活動を行う。物語を書くためには、二人の関係や気持ちの変化を読み取る力が必要である。そこで、叙述を基に中心人物の人物や気持ちを読み取るために、叙述に線を引いたり言葉を付け加えたりしていくことで、自分の考えを可視化する。その考えを基に、グループで話し合い自分の考えを広げ、自他の良さに気付けるようにし、本学園の研究テーマに迫っていく。

4 指導計画 (11時間扱い)

時	学習内容	評価の観点				
		関	話	書	読	言
評価規準（評価方法）						
1	・新美南吉について知り、作品に触れる。	◎				・新美南吉について知り、作品に興味をもったり、進んで読んだりしようとしている。（観察・読書記録カード）
2	・物語を読み、初発の感想から学習の見通しをたてる。	◎		○		・物語を読むことに興味を持ち、中心となる人物の気持ちの変化を考えようとしている。（ノート・観察）
4(本時)	・文全体を読み、ごんがどんなきつねか読み取る。			◎	○	・叙述をもとにごんの境遇や行動を読み取っている。（ワークシート・発言）
5	・文章全体を読み、兵十がどんな人物か読み取る。			◎	○	・叙述をもとに兵十の境遇や行動を読み取っている。（ワークシート・発言）
8	・ごんと兵十、その他の登場人物の関係を確かめる。	○		◎		・ごんと兵十の関わりを確かめ、気持ちの変化を読み取っている。（ワークシート）
9～11	・物語の続きを書いて読み合い、感想を伝え合う。			◎	○	・書いた文章を読み合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことができる。（ワークシート）

5 本時の指導

(1) 目 標

叙述を基に中心人物の境遇や行動を読み取ることができる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

本時は、ユニバーサルデザインの視点から中心人物の気持ちの変化に焦点をあてる授業とする。その際、自己肯定感を高めるための手立てとして、グループ活動を取り入れ、友達の考えに共感したり、考えのよさに気付いたりできるようにする。まずは、自分の考えをもつために、教材文に線を引いたり、付箋を活用したりして、自分の考えを整理する。次に、付箋を出し合い自分が出した考えを認めてもらっていることや友達の影響の良さを感ぜられるようにする。最後に、友達の考えや全体の考えを参考にして、自分の考えを広げ課題に前向きな気持ちで取り組むことができるようにする。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ごんは、どんなきつねかな？</p> </div> <p>2 課題を解決する。</p> <p>(1) ごんがどんなきつねかが分かる文に線を引く。</p> <p>(2) 文から分かるごんについて一言で付箋に書く。(個人)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・いたずらが好き ・いじわる ・優しい ・親切 ・ひとりぼっち</p> </div> <p>(3) 線を引いた文を基に、付箋に書いた内容を出し合う。(グループ)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・いたずらが好き→夜でも、昼でも、いたずらばかりしているから。 ・優しい→栗や松たけを兵十に持って行っているから。</p> </div> <p>3 全体でどんなきつねか話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・いたずら好き ・いじわる ・優しい ・親切 ・反省している ・大人のきつね ・ひとりぼっち ・後悔するきつね ・正直者</p> </div> <p>4 「〇〇きつね」のように、ごんについて表す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ずっと優しいきつね・反省したきつね ・いたずらきつね・親切になったきつね ・いたずらが好きなきつね ・優しくなったきつね・意地悪きつね</p> </div> <p>5 ごんの変化を図で表し、本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を提示し、本時はごんの境遇や行動について読んでいくことを意識させる。 ・挿絵からごんについて質問し、数名の児童を指名して発表させる。 ・本当にそうなのか 問い活動2につなげる。 ・教材文に線を引かせることで、自分の考えを可視化する。 ・行動、情景、心情と3つの視点から読み取り、引く線の種類を分け視覚的に分かりやすくする。 ・付箋の書き方が分からない児童がいた時には一緒に書く。 ・付箋にごんについて書かせることで、自分の考えを整理し(3)の活動に繋がるように助言する。 ・時間内に終わらなかった児童には、同じ考えが出た時に書き足していいことを伝える。 ・理由をつけて、付箋を出し合うように助言する。 ・自分の考えと友達の考えを比べ、共感しながら聞き合うことで自他の考えのよさに気付けるようにする。(人とかかわりの中での気付き) ・付箋の考えがまとまらなかったり、進まなかったりするグループは、助言をしながら一緒に活動する。 ・児童から出たごんについて、あとでごんの変化が分かるように板書をする。 <p>※叙述を基にごんの境遇や行動を読み取ろうとする。(ワークシート・付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめ、きっかけ、終わりのキーワードを掲示し、いつのごんなのか確認する。 ・全体で話し合うことで、他者の考えを知り、よさ認め合うことで自分の考えを広げたりまとめられるようにする。(自己理解) ・物語を通して、どんなきつねだったかを問い、全体で話し合ったことを参考にしてよいことを伝える。また、自分が考えるごんを表せるようにする。 ・「〇〇きつね」や「〇〇なきつね」という文型を提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の考えを基にごんが変化したことが分かるように板書をする。 ・ごんがなぜ変わったのか読んでいくことを伝え、次時への意欲をもたせる。

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	4年	単元 教材名	国語	ごんぎつね	配当 時間	11
児童名	菱沼 文乃				教室	4年2組教室
学習 目標	叙述をもとにごんの境遇や行動を読み取ることができる。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	・新美南吉を知り、作品にふれる。 ・初発の感想を書く。 ・分からない語句を調べる。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	<ul style="list-style-type: none"> ● A ワークシート ● B 発問・補助発問の工夫 ● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等) ● D 学習カード・短冊 ● E キーワード提示 ● F 動作化・デモンストレーション ● G グッドモデル・模範作品・演技の提示 ● H 曲を流す ● I KJ法 ● J ウェビング ● K 読み聞かせ・ブックトーク
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	
		個 一斉 協	サ 現状把握	
		個 一斉 協		
II 情報収集 A B	・ごんについて読み取る。 ・兵十について読み取る。	個 一斉 協	ア データ収集	<ul style="list-style-type: none"> ● A アンケート調査(シートの工夫) ● B インターネット検索(記録シートの工夫等) ● C 図書資料で対照する・選択する ● D 思考ツール ● E 付箋 ● F カード類(絵、言葉、意思表示等) ● G 実験・実演・動作化 ● H 見学 ● I ワークシート ● J スタディノート ● K 「ブレインストミング」・話し合い活動 ● L グループワーク ● L 一枚教材文
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	
		個 一斉 協	コ 学習計画	
		個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	
		個 一斉 協	サ 物語文からの読み取り	
III 整理・分析	・2人の関係を考える。	個 一斉 協	ア 比較・分析する	<ul style="list-style-type: none"> ● A ワークシート ● B 発表ボード(BIG PAD, 書画カメラ等も含む) ● C 付箋・構成メモ・短冊 ● D タブレット ● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード) ● F 動画・録画機能 ● G 構成的板書 ● H データベース活用 ● I ロールプレイ ● J ディスカッション・話し合い ● K 心情曲線
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	
		個 一斉 協	エ 検討・考察	
		個 一斉 協	オ 推敲	
		個 一斉 協	カ 意見交換	
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	
		個 一斉 協	ク 再考	
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
IV まとめ・表現	・物語の続きを書く。 ・物語の続きを読み合う。	個 一斉 協	ア まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ● A ワークシート・学習カード ● B プレゼンテーション ● C 新聞作成 ● D レポート作成 ● E PCでまとめる・スタディノート ● F パンフレット・リーフレット作り ● G ポスター作成 ● H パネルディスカッション ● I ディベート ● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD ● L 自己評価カード・振り返りカード ● M スキルアップ表 ● N いいねカード・相互評価カード(付箋等) ● O 動作化・ロールプレイング ● P 演示、(実験)
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	
		個 一斉 協	エ 考察する	
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	
		個 一斉 協	カ スピーチ	
		個 一斉 協	キ 発展させる	
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	
		個 一斉 協	コ 振り返る	
		個 一斉 協	サ 物語を書く。	
		個 一斉 協		

成果	
課題	

第6学年1組 つくばスタイル科外国語活動指導案

並木小 石津 保子 (T1) 並木中 照山 真生 (T2)

AET Wen 楽しく学ぶ学級づくり 横山 美紀

1 単元 Lesson 5 「Let's go to Italy.」

2 単元の目標

- 自分の思いがはっきり伝わるように、おすすめの国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)
- 世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。(言語や文化に関する気付き)

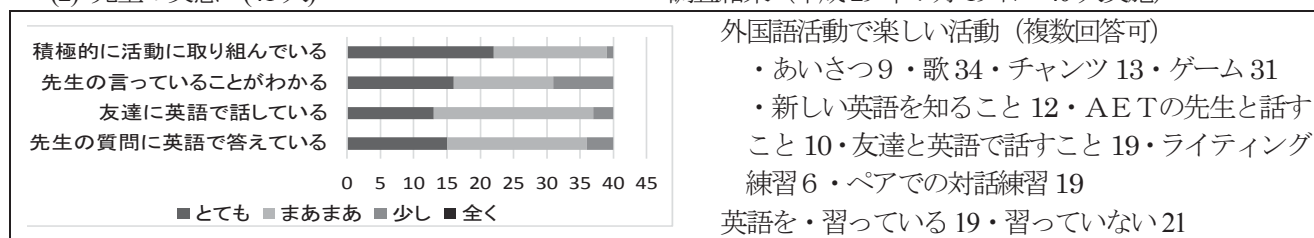
3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

本単元では、「Let's go to 〜」「Where do you want to go 〜?」「I want to go to 〜」やLesson3で学習した「You can eat / see 〜」などの表現を使うように場面が設定されている。これらの表現を使って互いのおすすめの国について、国旗や名所、食べ物、文化などを紹介し合う活動を行う。児童に知っている国や名所を出させた後、英語での言い方を紹介し、日本語とは違った発音やアクセントに気付かせる。New Horizon2のUnit3では行きたい国やそこでしたいことについてインタビューをし、聞いた情報をまとめる活動がある。本単元の活動が中学校の学習にもつながっていることを意識しながら、ゲームなどを通して楽しく活動に取り組みせ、英語を積極的に使わせたい。さらに、世界にはたくさんの国々があり、それぞれ様々な文化があることに気付く、世界の国々への興味・関心を高めるとともに日本文化の良さも認識させたい。

(2) 児童の実態 (41人)

調査結果 (平成29年7月19日 40人実施)



本児童は歌やゲームなど楽しい活動の他、ペアでの対話練習など話す活動を好んでいる。一方でライティング練習が好きだと答えた児童は6人で、書くことには抵抗感をもっている。英語を習っている児童は19人とクラスの半数が英語を習っている。そのためか、英語で言われていることの大体が分かり、活動に積極的に取り組む児童が多い。しかし、自分からの発話を苦手と感じる児童もあり、英語を話すことに関する問いでは「まあまあ」の回答が増えている。英語での国名や名所の言い方が日本語と違うので、ゲームやクイズ活動を取り入れ、くり返し練習し定着を図る。「おすすめ旅行プラン発表」では、グループで協力して活動することで自信をもって発話できるように支援していきたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本単元では、Let's 〜 や Where do you want to go? / I want to go to 〜 などの表現を用いて行きたい国について尋ねたり、言ったりしながら、おすすめの国を紹介し合う活動を行う。グループで国を1つ選び、名所や食べ物などをおすすめ旅行プランとして紹介する。国名や名所、食べ物などは日本語の言い方と違うので、その違いに気付かせ、様々な活動を通して自信をもって発音できるようにしたい。英語を用いて、1つのプロジェクトを成し遂げる達成感を味わうことで、友達の良さや自分の頑張りに気付けるようにする。

4 学習活動と評価計画 (4時間扱い)

時	ね ら い	主 な 活 動 名	評 価 計 画			
			コ	慣	気	評 価 規 準 (方法)
1	・国や国旗、世界遺産について知る。	・国名を書こう。 ・国旗クイズ			○	・国や名所の日本語の言い方との違いに気付いている。(観察)
2	・行きたい国を尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。	・行きたい国をインタビューしよう。 ・"Let's go to Italy."	○	○		・行きたい国について尋ねたり、答えたりする表現を聞いて、理解している。(観察・振り返りカード)
3	・行きたい国を尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・行きたい国とその理由を相手に伝える。	・"Let's go to Italy." ・Let's Listen 2 ・おすすめ旅行プランを紹介しよう	○	○		・行きたい国について尋ねたり言ったりしている。(観察) ・自分の思いを伝えようとしている。(観察)
4 (本時)	・行きたい国とその理由を伝えたり、得た情報から世界の多様性に気付いたりする。	・おすすめ旅行プランを紹介しよう。 ・振り返りカード	○	○	○	・おすすめの国について発表したり、友達の発表を積極的にきいている。(観察・振り返りカード)

5 本時の活動

(1) 目 標

- ・おすすめ旅行プランについて、すすめる理由をはっきり伝えたり、友達の発表を積極的に聞いたりする。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高める手立て）

本時の活動に必要な単語やフレーズを十分に練習することで、自信をもって活動に参加できるようにする。
グループで協力して旅行プランを作る達成感を味わうことで、自分たちの頑張りや良さに気付かせる。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)	
	T 1 の指導・支援	T 2・AET の指導・支援
1 Greetings 2 Warm-up (Routine) (1) Song (2) Phonics Alphabet (3) Super Input 3 Review—Countries 4 Today's Target <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">つくば市 AET におすすめ旅行プランを紹介しよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よく挨拶をし、外国語活動への意欲を高める。 ・チャンツに合わせながら文字を書かせ、口慣らしをさせる。 ・時間を制限して練習する。 ・国名を練習する。 ・実態に応じて発音やアクセントに気を付けるように助言する。 ・T2, AET と行きたい国について問答し、必要な表現を振り返る。 ・市の AET に自分達の作った旅行プランを紹介することを知らせ、活動への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よく挨拶をし、外国語活動への意欲を高める。 ・音に慣れ親しむように、リズムカルに単語を発音し、楽しく取り組ませる。 ・AET は児童が理解しやすいように、ゆっくりはっきりした声で発音する。 ・T1, AET と行きたい国について問答し、必要な表現を振り返る。
(1) 中学生のモデルプランを見る。 (2) Presentation ・2つのブースに分かれ、 班ごとにおすすめの旅行プランを発表し、感想を話し合う。 ・必ず1人1回は発表する。 ・聞いている人は、もし聞き取れなかったら、"One more time, please."と言う。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に中学生が作った旅行プランの例を大型モニターで示し、発表のイメージをつかませる。 ・気付いたことを発表させ、自分たちの発表に生かすように伝える。 ・協力しながら活動するように助言する。 ・ブース1を担当する。 ・戸惑っている児童がいたら、一緒に言うなど支援する。 ・聞いている人を意識していたり、積極的に活動に取り組んでいた児童を称賛する。 ・聞き取れないときは、聞き返すように助言する。 ・発表者を労う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校でも同じような活動があり、現在の学習とつながっていることに触れる。 ・T2 はブース2を担当する。 ・AET は2か所を行き来し、発音や英語表現に関する支援をする。 ・戸惑っている児童がいたら、一緒に言うなど支援する。 ・聞いている人を意識していたり、積極的に活動に取り組んでいた児童を称賛する。 ・聞き取れないときは、聞き返すように助言する。 ・発表者を労う。
5 Comments	※おすすめの国について自分の思いを伝えたり、友達の発表を積極的に聞こうとしているか。(観察) ・ プレゼンに向けて、考えて努力したことによりできるようになったことを実感する。 (自己理解) ・ 活動をふり振り返り、考えたこと・感じたことを発表させ、自分たちの成果を認め合う。 (人とかかわりの中での気付き)	
6 Closing ・Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ・この単元で気付いたことや友達の良かった点を中心に振り返りカードに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この単元で学習したことが中学校の学習につながっていくことを示し、外国語活動・学習への意欲につなげる。

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	6年 外国語活動	単元 教材名	Lesson 5	Let's go to Italy.	配当 時間	4時間
担任 氏名	石津 保子				教室	6年1組
学習 目標	おすすめ旅行プランについて、すすめる理由をはっきり伝えたり、友達の発表を積極的に聞いたりする。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか		言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	学習課題の把握 ・旅行プランを紹介する。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	●	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	●	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	●	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	●	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	●	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	●	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	●	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	●	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	●	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	●	● J ウェビング
II 情報収集 A B	必要な情報を収集する ・国名の言い方の練習 ・その国の名所・食べ物の言い方 ・行きたい国の尋ね方と答え方	個 一斉 協	ア データ収集	●	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	●	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	●	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	●	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	●	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	●	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	●	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	●	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	●	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	●	● J スタディノート
III 整理・分析	旅行プラン作り ・中学生の作ったモデルプランを見てイメージをつかみ、気付いたことを発表する。 ・気付いたことを基にグループで話し合い、旅行プラン作りに生かす。	個 一斉 協	ア 比較・分析する	●	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	●	● B 発表ボード(BIG PAD, 書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	●	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	●	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	●	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	●	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	●	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	●	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	●	● I ロールプレイ
		個 一斉 協			● J ディスカッション・話し合い
IV まとめ・表現	プレゼンテーション ・班ごとに旅行プランを発表する。 ・学習のふり返り	個 一斉 協	ア まとめる	●	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	●	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	●	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	●	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	●	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	●	● F パンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	●	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	●	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	●	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	●	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協			● L 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協			● M スキルアップ表
		個 一斉 協			● N いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協			● O 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協			● P 演示、(実験)

成果	
課題	

公開授業Ⅱ

会場：並木小学校 10:45～11:30

教 科	学年・学級	単 元 ・ 題 材 名	指 導 者	教 室
特別活動	1年2組	ともだちじまん	加瀬菜穂子	1年2組教室
道 徳	2年1組	ありがとうの気持ち	松本 京子	2年1組教室
保健体育	3年2組	器械運動「マット運動」	金澤 相國	体 育 館
音 楽	4年1組	水の旅の音楽をつくろう	青山 理絵	音 楽 室
算 数	6年2組	拡大図と縮図	染谷 彬大	6年2組教室

第1学年2組 学級活動指導案

指導者 加瀬 菜穂子

1 題材 ともだちじまん

2 授業で大切にしたいこと

(1) 題材について

本議題は小学校学習指導要領の特別活動の内容A学級活動(2)ウで求められている「望ましい人間関係の育成」を目指すものである。望ましい人間関係とは、楽しく豊かな学級生活づくりのために、互いに尊重し、よさを認め合えるような人間関係である。本学園では、年に3回(5月、10月、3月)エンカウンターを用いて自己肯定感を高める取り組みをしている。今回は10月に行った構成的グループエンカウターの発展として「ともだちじまん」を行い、互いによさを認め合えるようにする。「友達を自慢する」という方法をとることにより、自分の自慢には抵抗がある児童も抵抗なく活動に取り組めると考えた。また、この活動を通し、他者理解ができるとともに、新たな自己理解へもつながり、自己肯定感を高めることができると考えた。

(2) 児童の実態 (33人)

調査結果(平成29年7月14日 33人実施)

調 査 内 容	調 査 結 果			
	よく当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
・私には、よいところがあります。	22人	6人	2人	3人
・私には、得意なことがあります。	32人	1人	0人	0人
・私は、自分のことが好きです。	25人	2人	2人	4人
・私は、友達から「がんばったね。」「すごいね。」と褒められたことがあります。	19人	8人	3人	3人

調査では、ほとんどの児童が「得意なことがある」と答えているにもかかわらず、それをよさと捉えられず、自分のよさを見つけられない児童もいることがわかる。また、自分のことを好きになれない児童もいる。そこで、「友達自慢」という方法を取り、自分のよいところを友達に紹介してもらう活動を通して、自分では気付かなかった自分のよさに気付くようにしたいと考えた。さらに友達のよさにも気付くことを通して、互いのよさを認め合えるようなよりよい人間関係づくりをしたいと考えた。

(3) 研究テーマにせまるために

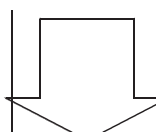
本題材では自己肯定感を高めるために次の3つの手立てを行う。まず、友達のよさを発見するためにインタビューメモを用意し、様々な視点からよさを発見できるようにする。次に、インタビュー以外でも自分が知っているその友達のよさを書き加えてよいことを伝える。さらに、小グループで「ともだちじまん」を行うことで、互いの顔を見ながら友達のよさを伝え合うようにする。このような手立てにより、自分のよさを友達に認めてもらい、よさに気付く(「人とかかわりの中での気付き」)ことで「自己理解」につながり、自己肯定感を高められると考えた。

3 評価基準

観 点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
評 価 規 準	進んで友達や自分のよさを見つけようとするしている。	自分や友達のよさを知り、互いに認め合いながら、仲よく助け合おうとしている。	自分や友達にはそれぞれよさがあるということを理解している。

4 指導計画

常時活動	活動名 メインエクササイズ	時期	活動内容	目指す児童の姿と 評価方法
<div> <div></div> <div>帰りの会「ハッピータイム」</div> <div>すてきカード</div> </div>	この指とまれ	5月	遊びや食べ物について自分と同じ好みの友達を集め、その理由を聞き合うことで、他者理解を深める。	(関) 友達のよさを進んで見付けようとしている。(観察・発表)
	サイコロトークン	10月	グループで出た目のテーマに沿って発表し合い、他者理解を深める。	(思) 自分や友達について知り、肯定的に受け止めている。(観察、発表)
	友達自慢	11/11 (本時)	友達のよいところを聞き合い、自己理解、他者理解を深める。	

	自分を好きになろう	3月	グループで自分と友達のよさを書き合うことで、自己理解，他者理解を深める。	(知) 友達の話を聞き，自分や友達について理解を深めている。 (観察，発表)
---	-----------	----	--------------------------------------	---

5 本時の授業

(1) 目標

友達のよさを伝え合い，自己理解，他者理解を深めることができる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

インタビューメモを活用し，友達のよさを発見することで，誰もが友達にインタビューできるようにする。そして，インタビューした内容に自分が知っている友達のよさを取り入れて紹介し合うことで，発表を聞いている人だけでなく，自慢されている本人も自分のよさに気付けるようにする。このことにより，自己肯定感が高まると考える。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連 ※は本時の評価)
<p>1 アイスブレイキング 「指立てゲーム」</p> <p>2 本時の課題を確認する。 「ともだちじまん」をして，みんなのことをしろう。</p> <p>3 メインエクササイズ 「友達紹介」 (1) ペアとなり，インタビューし合う。 児童1「得意なことは何ですか。」 児童2「走ることです。運動会のリレーの選手になりました。」 児童1「習っていることはありますか。」 児童2「水泳を習っています。」 児童1「どんな泳ぎ方ができますか。」 児童2「クロールができます。」</p> <p>(2) 8人(9人)グループで友達紹介をする。</p> <p>・○○さんは，運動が得意です。走るのがとても速くて，リレーの選手にもなりました。休み時間にはいつも元気に鬼ごっこをしています。 ・△△さんは，読書が好きで，本をたくさん読んでいます。係の仕事をがんばっていて，毎日，健康観察表を取りに行ったり置きに行ったりしています。 ・□□さんは，優しいです。私が給食をこぼしてしまったときに，一緒にふいてくれました。</p> <p>4 シェアリング</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時活動のウォーミングアップとして楽しい雰囲気作りをする。 ・言葉を使わず指示した数の指が立つよう，グループで相談する時間を取ってから指立てゲームを行うことで，目を見て話を聞くことの大切さを実感できるようにする。 ・「みんな」とは，友達だけでなく自分も含んでいることを伝え，活動への意欲を高める。 ・友達のよさを伝える活動に意欲的に取り組めるよう，予めペアを伝えておくようにする。 ・聞く項目を設定しておき，誰もがインタビューできるようにする。 ・上手く答えられない児童へは，答えられる項目だけでよいことを伝えたり，内容を例示したりする。 ・インタビューした内容だけでなく，自分が知っている友達のよさを書きたしてもよいことを伝え，様々な視点から友達のよさを見付けることができるようにする。 ・8人(9人)グループを編成することで，顔を見ながら集中して友達の話を聞けるようにする。 ・発表するペアだけ立つようにし，発表者に集中できるようにする。 ・一人1分と時間を設定することで，その間はいくつでもほめていいことを伝え，たくさんのよさを友達に伝えられるようにする。 ・友達自慢という形でよさを認め合うことで，自分や友達のよさに気付くようにする。 (自己理解，人とのかわりの中での気づき) <p>※自己理解，他者理解を深めている。 (観察，ふり返しカード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返しカードには，自己理解，他者理解につながるような項目を設定しておく。

第2学年1組 道徳学習指導案

指導者 松本 京子

1 主題名 ありがとうの気持ち 2－（４）尊敬・感謝

2 ねらいとする価値について

内容項目2－（４）は、日ごろ世話になっている人々に尊敬と感謝の念をもった児童を育てることをねらいとしている。よりよい人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切であり、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ、助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。

低学年の発達段階においては、日常の指導において、身近で日ごろお世話になっている人々の存在に気づき、それらの人々の善意に感謝する気持ちを具体的な言葉に表し、行動に表すことが求められる。その際、その人々が自分に寄せてくれた善意について考え、そのときに自分が感じた感謝の念について改めて考えることができるようにすることが大切である。

3 授業で大切にしたいこと

(1) 資料について

本資料「だいすきアンパンマン！」に登場するアンパンマンは、児童の誰もが知っている人物である。内容は、アンパンマンが、困っているトーンマンや泣いているペンギン坊やなどを様々な場面で助け、自分は力が出なくなってしまうお話である。このアンパンの姿と学校生活や行事等で助けてくれている上級生を重ねて考えさせたい。上級生の気持ちに気付かせるために、本学年の児童が1年生の時に4年生だった現在の5年生からの手紙を副教材として使用する。資料では、アンパンマンに感謝の気持ちを絵で描いて渡したように、昨年お世話になった5年生に「ありがとうカード」を渡し、感謝の気持ちを表したい。

(2) 児童の実態（36人） 調査結果（平成29年9月1日 36人実施）

今までに、誰にどんな時に「ありがとう」を言いましたか。（複数回答可）			
・友達に手伝ってもらったとき。	27	・上級生に優しくしてもらったとき。	2
・友達に優しくしてもらったとき。	7	・兄弟に助けてもらったとき。	2
・親に助けてもらったとき。	5	・祖父母にお小遣いをもらったとき。	1
・先生に優しくしてもらったとき。	3	・地域の方に野菜をもらったとき。	1

○調査から、本学級の児童は、全員「ありがとう」を伝えた経験があることが分かった。学校生活において、児童はいろいろな面で周りに支えられて助けられて生活している。しかし、周りの人たちがどのような気持ちや願いを持って自分に接してくれているかまでは十分に理解できてはいない。自分に向けられた周囲の人たちの思いをしっかりと受け止めることで、「生かされている自分」に気づき、「ありがとう」という感謝の気持ちが育つものと考えて。そこで、本資料では、学校生活においてお世話になっている人の存在に気付かせたい。特に、昨年の4年生（現在5年生）が自分たちに寄せてくれた善意について考え、感謝の気持ちを具体的な言葉に表し、感謝の念について改めて考え、気付かせていくようにしたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本時は、並木小学校のアンパンマンはどんな人がいるかを考えさせ、5年生からの手紙を見る。1年生の時に登校した後や掃除の時間にお世話をしてもらうなど、いろいろな面で5年生に支えられ、助けられて生活していたことを思い出し、上級生が自分たちを大切に思ってくれていたことや1年生のことを最優先に考えて行動してくれていたことを考え、話し合うことで、尊敬と感謝の気持ちに気付かせ「人とかかわりの中での気づき」を高めたい。そして、その思いを「ありがとうカード」に書き、5年生に伝える活動を行う。このような活動を通して、自分たちが上級生になった時に、同じように下級生を優しく支え助けてあげる、そして下級生に尊敬、感謝される上級生になろうとする「自分への期待」を育て、自己肯定感を高めていけるようにしたい。また、桜南小の2年生とテレビ会議で交流し、同じ学園内の2年生児童の考えを聞き、交流することでさらに考えを深め合う場面を設ける。これらの活動を通して、周りの人たちに支えられ助けられていたことに気づき、「自己理解」を深めたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

学校生活でお世話になった上級生に感謝の気持ちを伝えようとする心情を育てる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

「並木小学校のアンパンマンは、どんな人っているか。」について考えることで、今年の4年生は自分たちのことを優しく支え助けてくれたことを思い出していく。5年生からの手紙を見ることで、上級生の気持ちを知り、感謝の気持ちをもつとともに自分たちも下級生に慕われ感謝される上級生になりたいという自分への期待をもたせる。同時に、同じ活動で授業を行っている桜南小学校の2年生と交流することで考えを深めたり共感したりする場を設ける。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連 ※は本時の評価)
1 「ありがとう」と言った経験について話し合う。	・「ありがとう」という言葉に触れて、ねらいとする価値に焦点をあてる。
2 資料「だいすきアンパンマン！」を読む。	・資料は、児童が理解しやすいように絵を見せながら読み聞かせをする。
(1) アンパンマンは、どんなことをしたかを考える。 ・困っているとき助けた。 ・自分の顔を分けてあげた。	・吹き出しを使うことで、気持ちを可視化し、考えやすいようにする。
(2) 子どもたちは、アンパンマンにどんな気持ちをもっているかを考える ・アンパンマン大好き。 ・帰ってこないで心配。	・アンパンマンや周りの子どもの気持ちを考えさせる。
3 上級生について話し合う。	・事前に5年生と2年生が交流する場を設け、昨年のことを思い出せるようにする。
(1) 並木小学校のアンパンマンは、どんな人っているでしょう。 ・1年生のとき4年生が朝のお手伝いしてくれた。 ・お掃除の仕方を教えてくれた。 ・休み時間に一緒に遊んでくれた。	・1年生をお世話している昨年の4年生の写真を見せ、5年生に助けてもらっていたことを想起させる。 ・昨年のことがなかなか思い出せない児童には、写真を見た感想の発表を聞くことで思い出せるようにする。
(2) 5年生からの手紙を見て話し合う。 ・いつも僕たちのことを考えてくれたんだね。ありがとう。 ・もっと好きになった。	・5年生からの手紙を見ることで、5年生の気持ちに気付くようにする。 ・ 友達の上級生に対する様々な考えを知り、周りの人に支えられていたことに気付くようにする。 (人とのかわりの中での気付き)
4 上級生に感謝の手紙を書く。 ・わたしたちをいろいろな時に助けてくれてありがとう。 ・自分たちも下級生に優しい上級生になりたい。	・感謝の気持ちをどのように伝えるか問いかけ、絵だけでなく、言葉も必要であることを引き出す。 ・「ありがとうカード」を書くことで、上級生へ感謝の気持ちを表せるようにする。 ・記述に困っている児童には、困っているときに4年生に助けてもらったとき、どんな気持ちになったかを考えさせる。 ・1年生にとって自分たちは上級生であることに気付かせ、どんな上級生になりたいかも考えさせるようにする。
5 本時の学習を振り返る。	※上級生に感謝の気持ちを伝えようとしている。 (ありがとうカード)
(1) 今日の学習で感じたこと、自分にできることを書きましょう。 ・5年生にたくさんお世話になっていたんだ。 ・1年生に優しくしてあげたいな。	・「みなさんはどんな上級生になりたいですか。」と問いかけ、自分たちも下級生を優しく助けてあげる上級生になろうとする意欲をもたせる。 (自分への期待)
(2) 振り返りを発表し合う。 ・上級生は私たちのことをいつも見守ってくれていたことに気付いた。 ・ありがとうの気持ちを伝えるカードが書いてよかったな。 ・桜南小の2年生も同じことを感じたんだ。	・桜南小学校の2年生とテレビ会議システムを使って振り返りを発表し合い、自分が気付かなかった気持ちや考えを知り、考えを深める。 ・自分自身について見つめなおし、尊敬・感謝について考えさせる。 (自己理解)

だいすき アンパンマン！

アンパンマンは、きょうもこまったひとやおなかをすかせているこがないか、パトロールにでかけます。

「いってらっしゃーい！」

「きをつけていくんだよ！」

「アンアーン！」

さばくでは、ストーンマンがひとりぼっちでたおれていました。

「あ、アンパンマン！あそんでいるうちにみちにまよっちゃって……。」

「そうだったのか！さあ、これをたべて、げんきをだして！」

アンパンマンはそういうと、じぶんのかおをちぎって、ストーンマンにあげました。

こおりのうみではペンギンぼうやがなっていました。

「おうちにかえれないよう！うえーん！」

そのときです。ドドドッ！おおきなひょうざんがくずれてきました。

「わあっ！」

でもだいじょうぶ。

アンパンマンがすくいあげました。

うみのなかでは、くずれたいわのあいだにちびマリンがとじこめられていました。

「ちびマリン、だいじょうぶかい。いまたすけるからね！」

こどもたちにかおをちぎってあげたアンパンマンは、ちからがでなくてうまくとべません。

おまけにあめもふりだしました。

アンパンマンはあめでかおがぬれると、ちからがぬけてますますとべなくなってしまう。

「あめがやむまでここであまやどりしていこう。」

そのころこどもたちは、アンパンマンにかんしゃのてがみをかいていました。

「アンパンマン、おそいなあ。」

「アンパンマンのことがとってもしんぱいどうぞ！」

パンこうじょうでは、かえりのおそいアンパンマンをしんぱいして、こどもたちがあつまっていました。

「だいじょうぶだよ。みんなのアンパンマンをおもうきもちがきつととどいているよ。」

ジャムおじさんはいいました。

アンパンマンはジャムおじさんにあたらしいかおをやいてもらってげんきになりました。

「ねえねえアンパンマン、ぼくたちかんしゃのきもちをこめて、えをかいたんだぞう！」

「みんなのきもちがぼくにゆうきをあたえてくれたんだね。ありがとう！」

第3学年2組 体育科学習指導案

指導者 金澤 相國 (T1)
梅原 豊史 (T2)

1 単元 器械運動「マット運動」

2 単元の目標

- 基本的な回転技や倒立技に取り組み、自己の能力に適した技ができる。 (体育の技能)
- マット運動に意欲的に取り組むとともに、きまりや安全に留意して、友達と教え合いながら運動することの楽しさを味わうことができる。 (体育への態度)
- 基本的な技の動き方やポイントを理解し、友達にそれらを教えたり、発展的な技につなげていくことができる。 (体育的な思考・判断)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

学習指導要領では、第2学年でのいろいろな方向への転がりや、手で支えての体の保持や回転をして遊ぶことが、マットを使った運動遊びとして位置付けられている。また、第3学年でのマット運動においては、基本的な回転技や倒立技に取り組み、自己の能力に適した技ができるようにすることが位置付けられている。そこで本単元では、マットを使った遊びから発展した、基本的な回転技や倒立技の習得に重点を置く。特に前転・後転を身に付けることができるように、ポイントや自分の課題を発見しながら学習を進めていく。また、前転・後転の基礎感覚を養っていくことで、大きな前転や開脚前転、開脚後転などの発展技につなげることができるように、段階的に学習に取り組んでいく。

(2) 児童の実態 (33人)

調査結果 (平成29年7月18日 33人実施)

前回り		上手に回れる	29人	回れるが曲がってしまう	4人	できない	0人
後ろ回り		上手に回れる	15人	回れるが曲がってしまう	14人	できない	4人
開脚前転		大きく開脚して起き上がれる	7人	足は曲がるが起き上がれる	8人	できない	18人
上手に回るためのポイントは何か。			・勢いをつける ・手をつくときにパーにしてマットを押す ・体を丸める ・頭のとっぺんからマットに着けない ・後ろ回りは耳の後ろに手を置いてしっかり蹴る				
マット運動でどんなことができるようになりたいか。			・連続でできるようになりたい ・新しい技を身に付けたい ・前回り、後ろ回りをきれいにまっすぐ回りたい				

前回りについては、本学級の児童のほとんどが上手に回ることができている。しかし、後ろ回りになると脚が曲がったり、できない児童が多くいる。また、開脚前転については昨年度挑戦した児童はできているが、ほとんどが未経験である。しかしながら、多くの児童が技のポイントを自分なりに考えることができおり、上手になりたいという願いを持っている。本単元では、技のポイントをより分かりやすく可視化するために、ICTを活用しながら試技についてアドバイスし合う活動を取り入れていく。アドバイスをもとに、自分の課題や成長した点について児童に気付かせていきたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本単元では、ICTを活用し、目指す動きと自分の動きを比較することで自分の課題についての的確に把握できるようにする。また、アドバイスタイムのを設けることで、重視すべきポイントや良くなった点などを友達同士で確認し、人とかかわりの中で自他のよさを認め合うことができるようにする。特に、マット運動に苦手意識を持っている児童には、試技の様子を撮影し、改善すべき点に加えて、成長している点について多く気付かせたい。そして、「できる」ということを味わわせながら、マット運動への意欲や自己肯定感を高めていきたい。

4 指導計画 (7時間扱い)

時	学習内容	評価計画			
		技	態	思	評価基準 (評価方法)
1	・オリエンテーションを通して学習の進め方について知る。		◎		・学習の進め方や用具の使い方について理解することができる。(観察)
2	・マット運動の基本的な動きに取り組む、基礎感覚をつかむ。				・感覚づくり運動に取り組み、技につながる動きを身に付けることができる。(観察・学習カード)
3	・前転・後転のポイントに気付き、意識して練習に取り組む。	○	○	◎	・ポイントを意識して、友達と教え合いながら練習に取り組むことができる。(観察・学習カード)
4 (本時)					

5 6	・技のポイントを踏まえて、自己の課題に合った場を選び、技の質を高めたり、発展技に挑戦する。	◎	○	・自己の課題を理解し、それぞれの練習の場で技の質を高めるために進んで練習したり、発展的な技に取り組むことができる。(観察・学習カード)
7	・発表会を行い、これまでの学習のまとめをする。	◎	○	・学習してきたことを生かし、基本的な技や発展技を身に付けることができる。(観察)

5 本時の指導

(1) 目 標

技のポイントや自他の課題に気付き、友達と教え合いながら練習に取り組むことができる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高める手立て）

ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、導入時に前転・後転の試技のバッドモデルとグッドモデルを提示する。児童に違いについて気付かせることで、技のポイントが焦点化され、それらを意識して練習に取り組むことができるようにする。また、アドバイスし合う時間を設けることで、自己の課題に気付かせるとともに、前よりもできるようになったことを確かめ、自己の成長が感じられるようにする。加えて、友達の技の良さや成長したことに気付き、認め合うことができるようにする。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
1 整列・あいさつ・準備運動を行う。 2 感覚づくり運動を行う。 (うさぎ跳びから前回り・ゆりかご・ブリッジ) 3 めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 前転・後転のポイントを生かし、友達へのアドバイスにつなげよう。 </div> ・バッドモデルとグッドモデルの映像を見て、前転・後転のポイントについて考える。 4 アドバイスタイム (1) それぞれの場ごとに練習を行い、試技に対してポイントを踏まえてアドバイスをする。 (2) アドバイスをもとにして、学習カードに試技に対しての評価を記入する。 (3) 上手な児童の模範演技を見て、前転・後転のポイントを再確認する。 5 チャレンジタイム (1) 模範演技で確認したポイントを生かして、再び練習を行い、気付いた点についてアドバイスをする。 (2) アドバイスをもとにして、学習カードに試技に対しての評価を記入する。 6 片付け・整理運動を行う。 ・素早く片付けを行い、整理運動をする。 7 本時の振り返りをする。 ・学習カードに本時の振り返りをする。	・素早く整列し、準備運動ができるようにする。 ・前転・後転に関連した基礎感覚を身に付けることができるようにする。 ・BIGPAD に教師の試技を映し、着手・回転時の姿勢・着地のポイントを比較できるようにする。(T1) ・バッドモデルを提示し、児童に意見を出させながら、前転・後転のポイントを焦点化する。(T1) ・着手・回転時の姿勢・着地を分担して観察できるように役割を決め、それぞれのポイントに沿ったアドバイスができるようにする。(T1, T2) ・「○○を△△するといいよ」「□□ができていいよ」など、肯定的なアドバイスができるように促す。(T1, T2) ・試技の後にマットのずれを直したり、次の人に合図を出すなどして、安全に留意して活動できるようにする。(T2) ・支援を必要とする児童には、試技の様子を撮影し、課題を明確に示して、ポイントについて助言する。(T2) ・ 試技についてアドバイスし合うことで、自分や友達の課題や成長について気付くようにする。 (人とかかわりの中での気付き) ※技のポイントや自他の課題に気付き、友達と教え合いながら、練習に取り組もうとしている。(観察) ・模範演技を見て、技のポイントについて再確認させるとともに、友達の良さや成長したことに気付くことができるようにする。(T1) ・友達と協力して片付けを行い、運動で使った部位のストレッチをする。 ・本時の振り返りを行い、自分ができるようになったことや、ポイントを意識して練習できたことを確認できるようにする。

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	3年	単元 教材名	体育	器械運動(マット運動)	配当 時間	7時間
児童名	金澤 相國				教室	体育館
学習 目標	基本的な技のポイントを理解し、友達とそれらを教え合いながら運動に取り組み、自己の能力に適した技ができる。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	① 学習課題の把握 ・オリエンテーションを行う。 ・マット運動の基礎感覚をつかむ。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● ㉔ 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● ㉕ 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	㉖ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	㉗ 学習への興味喚起	● J ウェビング
II 情報収集 A B	② 情報収集と資料分析 ・前転・後転のポイントに気付く。 ・ポイントを意識しながら練習に取り組む。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	㉘ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	㉙ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	㉚ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● ㉛ 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
III 整理・分析	③ 情報の整理とまとめ ・自分の技の質を高めたり、発展技に挑戦する。	個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	● K 「ブレインストミング」・話し合い活動
		個 一斉 協		● L グループワーク
		個 一斉 協		● ㉜ 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア 比較・分析する	● ㉝ ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● ㉞ タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	㉚ 意見交換	● F 動画・録画機能
IV まとめ・表現	④ グループによる発表会 ・発表会を行う ・これまでの学習のまとめをする。	個 一斉 協	㉛ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	㉚ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● ㉟ ディスカッション・話し合い
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア まとめる	● ㊱ ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F パンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	㉚ 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	㉚ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	㉚ 振り返る	● ㊲ タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● L 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● M スキルアップ表
		個 一斉 協		● N いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● O 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● P 演示、(実験)

成果	
課題	

1 題材名 水の旅の音楽をつくろう

2 題材の目標

- 楽器の音の特徴や音色の違いに興味・関心をもち、打楽器を使った音楽づくりに進んで取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)
- どのような音楽をつくりたいかの思いや意図をもち、楽器の音の特徴や音色の違いを生かしたり、音楽の仕組みの使い方を工夫したりする。(音楽表現の創意工夫)
- 楽器の音の特徴や音色の違いを生かしたり、音楽の仕組みの使い方を工夫したりして音楽づくりをする。(音楽表現の技能)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領解説のA表現(3)音楽づくりア、イに基づき、「発想をもって即興的に表現すること」と「音を音楽に構成する過程を大切にしながら音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくったりすること」をねらいとしている。発想をもって即興的に表現する音づくりとして、打楽器の音の特徴や音色から発想を得て、水が流れる音を簡単なリズムや旋律で表現する活動を取り入れる。さらに、思いや意図をもって音楽をつくる活動として、水が流れる音を音楽の仕組みを生かして音楽へと構成していく水の旅の音楽づくりへと発展させる。木や金属、皮など異なる素材の楽器の響き、出し方による音の響きの違いを生かして、一人一人が水の流れる音をつくっていく。そして思いや意図に合うように、つくった音をグループで反復や問いと答え、変化などの音楽の仕組みを使って音楽へと構成していく。その過程で試行錯誤し、考えたり判断したりしながら創意工夫していくことは「音を音楽へと構成していく力」を高めることになる考える。そしてその力は高学年の「見通しをもって音楽をつくること」、さらに中学校の「表現したいイメージをもち、構成を工夫しながら音楽をつくること」へとつながっていくものである。

(2) 児童の実態 (40人)

調査結果(平成29年7月18日 39人実施)

- | |
|--|
| (1) これまでに学習したリズム伴奏づくりや言葉のリズムアンサンブルづくりについて |
| ① 楽しかった 33人 どちらかといえば楽しかった 6人 どちらかといえば楽しくなかった 0人 楽しくなかった 0人 |
| ② 簡単だった 15人 まあまあできた 22人 少し難しかった 2人 難しかった 0人 |
| (2) 次の音楽づくりへの期待について(複数回答可) |
| 楽しみ 27人 気に入った・いい音楽をつくるぞ 17人 どうやってつくるのかな 18人 難しそう 12人 |
| つくれるか心配 11人 つくった音楽を演奏したい 17人 つくった音楽をみんなに聴いてほしい 15人 |
| (3) 音楽の仕組み(反復、問と答え、変化)の理解 理解している 35人 理解不十分 4人 |
| (4) 思いに合うように表現を工夫する方法を考えたことができる。 |
| (雨がポツポツ降る様子からザーザー降る様子に変化させたいとき、どんな工夫をしますか→音を強くする、速くする、他の音を重ねるなど) 考えることができる 39人 できない 0人 |

実態調査から、児童たちは音楽づくりを楽しみ、つくることができたという実感をもっていることがわかった。そのことにより、次の音楽づくりに対する意欲や関心が高い一方、つくり方に不安をもっている児童も少なくない。表現する音楽のイメージをもたせるために、社会科で学習した水の循環について振り返ったり、様々な水の表情の写真や教師の演奏モデルを提示したりする。さらに、前題材で学習した音楽の仕組みなどを想起できるように、掲示物で示す。音楽の仕組みを理解し、思いに合うように強弱や速度、音の重なりなど音楽を特徴づけている要素を工夫することができる児童が多いので、音のつくり方の手順や音楽の仕組み、つくった音楽の表記の仕方などを具体的に示していけば、自分なりの思いや意図をもち、音楽の仕組みを生かしながら表現したい音楽をつくることができるものとする。

(3) 研究テーマに迫るために

本題材では音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みを手がかりに、打楽器を使って「水の旅」を表現する音楽づくりを行う。その過程で言語活動を意図的に設定することで、自己肯定感を高められるようにする。水を表す音や音楽をつくり、そのよさを音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みとの関係から説明する活動を通して、様々な要素を理解し表現に生かすことができる自分に自信をもてるようにする。さらに友達と互いの考えを伝え合い、共に試行錯誤しながら音楽をつくっていく活動を通して、友達のよさや頑張り気付くことができるようにする。また、友達の作品から、表現したいイメージがどの要素と結びついているかを見つかったり、そのよさを伝え合ったりする活動を通して、他者の様々な考えに気付いたり、作品を完成させることができた達成感を味わったりして自分への期待を高められるようにする。

4 指導計画(7時間扱い)

時	学習内容	評価の観点		
		関	創	技
1	打楽器の材質による音の特徴や音色の違いを感じ取り、「音のカーニバル」に合わせて演奏する。	◎		
2	水の流れのイメージをもち、打楽器の音の特徴や音色を生かして「水	○	◎	

・打楽器の音の特徴や音色に興味・関心をもち、その組み合わせや鳴らす順番を工夫して進んで演奏しようとしている。(行動観察)

・楽器の音の特徴や音色を生かし、どのように音をつくるかについて発想をもち、いろいろ

	の流れの音」をつくる。			ろ試している。(行動観察, 発言内容, ワークシート)
3	表現したい情景や場面に合うように, グループで表現の工夫や構成について話し合ったり, 試奏したりする。	○	◎	・どのような音楽にしたいかの思いをもち, 音楽の仕組みを使ってつなげ方や重ね方をいろいろ試しながら音楽をつくっている。 (行動観察, ワークシート)
4 5	思いや意図に合わせて, 音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを生かし, 「水の旅の音楽」に構成していく。		○ ◎	・どんな音楽をつくるかについて思いや意図をもち, 音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを使ってまとまりのある音楽をつくっている。 (演奏聴取, ワークシート)
6 7 (本時)	つくった音楽を発表し合い, そのよさや工夫について話し合う。 グループの作品をつなげて演奏し, 水の旅を表現した音楽を味わう。		○ ◎	・互いにつくった音楽のよさを伝え合い, 音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを生かして演奏している。(発言内容, 演奏聴取)

5 本時の指導

(1) 目 標

「反復」「問いと答え」「変化」などの音楽の仕組みや, 「音色」「リズム」「速度」「強弱」「音の重なり」などの音楽を特徴付けている要素を生かした音楽のよさを感じ取り, つくった「水の旅の音楽」を演奏したり, よさを伝え合ったりする。

(2) 本時のポイント (自己肯定感を高めるための手立て)

自分たちのつくった音楽のよさを, 音楽の仕組みや音楽を特徴付けている要素から説明することで, それらを使って音楽をつくることができた自分に自信をもてるようにする。また, 他のグループの作品から表現したいイメージがどの要素と結びついているかを見つたり, そのよさを伝え合ったりする。それらを通して, 他者の様々な考えに気付いたり, 作品を完成させた達成感やつくった音楽を友達に聴いてもらう喜びを味わい, 自分への期待を高められるようにする。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
1 「オーラリー」を演奏する	・情景を思い浮かべて歌ったり, 音色に気を付けてリコーダー演奏をしたりする。
2 本時の課題を確認する。 「水の旅の音楽」を演奏し, それぞれのグループのよさを伝え合おう。	・学習の流れや音楽の仕組み, 音楽を特徴付けている要素を掲示することで, 活動中にも確認したり, 発表や意見交換にそれらの言葉を用いたりできるようにする。
3 各グループに分かれて, 発表の練習をする。 ・「水の旅の音楽」を演奏する。 ・音楽づくりに生かした音楽の仕組みや音楽を特徴付けている要素の確認をする。	・表現したい水の様子に合うように, 音楽を特徴付けている要素である速度や強弱, 音色などを生かした演奏ができるよう助言する。
4 グループでつくった「水の旅の音楽」を聴き合い, 工夫について話し合う。 (1) 発表をする。 ・わたしたちがつくった音楽を聴いてほしいな。 ・水が岩からしみだして, 流れ出す様子を表現したよ。 ・広い海にたどり着いてうれしい気持ちを表現したよ。	・つくった音楽を図形楽譜に表し提示することで, 工夫したことを指示しながら話したり, 演奏したグループの作品のよさについて意見交換したりするとき, 視覚的にわかりやすくする。
(2) 演奏を聴き, 意見交換をする。 ・弱い音から始まった (強弱) → 水がチョロチョロ流れ始めた感じ ・だんだんいろんな音が重なり強くなっていった (音の重なり) → 雨が強くなり, 流れがはげしくなっていく感じ ・弾むリズムがくり返されていた (反復) → 魚がたくさん泳いでる感じ	・グループ作品の「表現したいイメージ」を伝えてから発表できるように助言する。(自己理解) ・場面や情景が, どのような音楽の仕組みや音楽を特徴付けている要素を用いて表現されていたか考えられるように, 聴く視点をもたせる。
5 本時のまとめをする。 ・グループでつくった音楽をつなげて演奏する。 ・ワークシートに振り返りを記入する。	・表現したいイメージを具現化するために, 発表グループがどのような工夫をしたのかを見つたり, 作品のよさについて伝え合ったりできるように助言する。(人とのかわりの中での気付き)(自分への期待) ※イメージした曲想に合うように, 音楽の仕組みや音楽を特徴づけている要素を工夫して演奏したり, 他のグループの工夫に気付き, そのよさを伝えようとしている。(演奏聴取, 発言内容)
	・グループとグループの間に「オーラリー」の一部を演奏し, つなげていく。 ・グループごとの音楽をつなげることで, 物語性のある音楽になる楽しさや達成感を味わえるようにする。 ・活動中の自分の思考や, 友達の演奏を聴いての気付きなどを記入できるようにする。

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	4年 音楽	単元 教材名	音楽	水の旅の音楽をつくろう	配当 時間	7時間
担任 氏名	青山 理絵				教室	音楽室
学習 目標	楽器の音の特徴や音色の違いを生かして、思いや意図をもち音楽の仕組みの使い方を工夫して音楽づくりをする					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
Ⅰ 課題設定 A	①学習課題の把握 ・打楽器の材質や音の鳴らし方の違いによる、音の特徴や音色を感じ取る。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
Ⅱ 情報収集 A B	②情報収集と教材分析 ・打楽器の音の特徴や音色を生かして、「水の流れの音」をつくる。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
Ⅲ 整理・分析	③情報の整理とまとめ ・音楽の仕組みや音楽を特徴付けている要素を生かして、「水の流れの音」を「水の旅の音楽」へと構成していく。	個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	● K プレインストミング・話し合い活動
		個 一斉 協		● L グループワーク
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
Ⅳ まとめ・表現	④グループによる発表会 ・つくった音楽を発表し合い、そのよさや工夫にw0話し合う。 ・各グループの作品をつなげて演奏し、物語性のある「水の旅の音楽」を味わう。	個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● J ディスカッション・話し合い
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F パンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● L 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● M スキルアップ表
		個 一斉 協		● N いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● O 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● P 演示、(実験)
		個 一斉 協		● Q 感想の交流

成果	
課題	

第6学年2組 算数科学習指導案

指導者 染谷 彬大
楽しく学ぶ学級づくり 松本さつき

1 単元 拡大図と縮図

2 単元目標

- 身のまわりの拡大図や縮図に興味・関心をもち、それらについて積極的に調べようとする。
(算数への関心・意欲・態度)
- 対応する辺や角について調べ、拡大図や縮図になるかどうかを説明したり、拡大図や縮図の書き方を考えたりすることができる。
(数学的な考え方)
- 拡大図や縮図を正しく作図したり、縮図を利用して実際の長さや測定困難な場所の長さを求めたりすることができる。
(数量や図形についての技能)
- 「拡大図」や「縮図」の用語とその意味、「縮尺」の用語とその意味や表し方を理解する。
(数量や図形についての知識・理解)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領の6学年の内容C(1)を受け、図形についての観察や構成などの活用を通して、平面図形についての理解を深めることをねらいとしている。児童は、5学年までに、辺・角の相等、垂直や平行の関係、合同の意味や合同な図形のかき方等を学習してきた。それをもとに本単元では、拡大図、縮図の用語と意味、かき方、活用等学ぶ。これらは、中学校9学年における相似な図形の学習の基礎となる。そのため、対応する辺の長さや角の大きさから拡大図、縮図の性質をとらえたり、辺の比に着目したりすることで図形に対する感覚を豊かにすることが大切である。また、コピー機や地図、写真、映画など日常生活の中で拡大図、縮図が様々に活用されていることに気づかせ、進んで活用する態度を育んでいきたい。

(2) 児童の実態 (40人)

調査結果 (平成29年7月19日40人実施)

調査問題	正答	誤答
① 合同な四角形があります。頂点Aに対応する頂点はどれでしょう。	38人	2人
② 合同な四角形があります。辺BCに対応する辺はどれでしょう。	38人	2人
③ $\triangle ABC$ と合同な三角形をかきましょう。	31人	9人

問題①、②のような2つの合同な図形の対応する頂点や辺などの読み取りは、ほとんどの児童は理解できている。また、問題③のような合同な図形を作図する問題では、コンパスの使い方による角度の大きさのずれなどの誤答が見られた。合同や縮図は角度の大きさが等しいことで成り立つ。そのため、角度の大きさには分度器を活用することで、正確な図形を用いて考えられるようにしたい。また、これから学習する比の単元においては、縮図を利用した計算方法の一つとして扱われるため、比の知識の定着を図り、その上で、本単元の学習に取り組ませていきたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本単元では、桜並木学園の3校にある高さを測定しにくい木を題材とし、縮図の考えを利用することで実際に長さを求めていく。この活動を通して、6年生は9年生と今学習していることが、中学校の数学につながることを実感させ、自分たちの可能性やこの先の見通しをもつことにつなげたい。また、桜南小学校や並木中学校でも同じ教材での学習が行われていることから、学級での自分やペア、グループだけの意見ではなく、他者の考えに触れる機会を設け、考え方の良さを認め合い、自信につなげ、人との関わりの中での気づくことで、自己肯定感が高まっていくと考える。

4 指導計画 (8時間扱い)

時	学習内容	評価の観点				
		関	考	技	知	
評価規準（評価方法）						
1	・拡大図・縮図について見通しをもつ。	○	◎		・拡大図や縮図について積極的に調べようとしている。（観察・ノート）	
2	・拡大図，縮図の意味を理解する。		◎		○	・拡大図・縮図にならないことを説明している。（観察・ノート）
3	・方眼を使い，拡大図などをかく。	○		◎		・拡大図・縮図を進んでかくことができる。（観察・ノート）
4	・方眼を使わず，拡大図や縮図のかき方を考える。		◎			・合同な三角形のかく方法をもとに考え，説明している。（観察・ノート）
5	・相似の中心を利用して拡大図と縮図をかく。			◎		・相似の中心を利用して，拡大図と縮図をかくことができる。（観察・ノート）
6	・縮図の縮めた割合を求める。			◎	○	・縮図を使い，実際の長さを求めることができる。（観察・ノート）
7 本時	・測定することが困難な場所の長さを，縮図を使い求める。		○	◎		・縮図を利用して，実際に測定することが困難な場所の長さを求めることができる。（観察・ノート）
8	・まとめ	○	○	◎	○	・拡大図・縮図の弁別や作図することができる。（観察・ノート）

5 本時の指導


(1) 目 標

縮図を利用して、実際に測定することが困難な場所の長さを、計算で求めることができる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

自己肯定感を高めるための手立てとして、ユニバーサルデザインの視点を取り入れる。写真を通して、本時の問題を把握できるようにすることや学園の3校にある木の影のデータを一覧で見られるように表として提示するなど、視覚化を図る。その上で、気づいたことや見通しをもたせることで、課題の焦点化を図り、自力解決ができるよう促し、自分の考えに自信がもてるようにしていきたい。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
<p>1 本時の問題を知る。</p> <p>桜並木学園の3校のシンボル木の高さを求めよう。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・コーン 高さ 60 cm, 影 90 cm ・並木小の木 影 7.2 m 	<ul style="list-style-type: none"> ・木の影がない写真等を見せ、課題の焦点化を図る。 ・机間指導を行い、気づいたことなどをノートに書くように促す。 ・写真から高さを求めるのに気づいたこと、考えたことを発表させる。 ・条件や分かっていること、求めることを確認する。 ・既習事項にも触れ、比の考えが重要であることに気づかせる。
<p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>木の高さを求めるにはどのようにしたらいいのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接長さを図ってみよう。 ・低い木なら図れそうだけど、違う学校の木は図りにいけないよ。 ・高い木は図ることも難しい。 ・縮図の考えを利用すればいいのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気づきや見通しをノートにまとめるように促す。 ・比の計算ができない児童には、ノートを見直すよう促し、既習内容の確認をさせる。 ・比の関係に気づいていない児童には、木とコーンの長さが両方分かっている影に注目させ、2つの関係について考えさせる。
<p>3 自力解決をする。</p> <p>(ア) 比 $720 : x = 90 : 60$ $90x = 432$ $x = 4.8$</p> <p>(イ) 木の影は、コーンの影の何倍か $720 \div 90 = 8$ $8 \times 60 = 480$</p> <p>(ウ) コーンの影は、木の影の何倍か $90 \div 720 = 0.125$ $60 \times 0.125 = 7.5$</p>	<p>※縮図を利用して、実際に測定することが困難な場所の長さを、計算で求めることができるようにする。 (観察・ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9年生と似た問題に取り組み、解いていくなかで、自分の可能性に期待し、自分の考えを深められるようにする。 (自分への期待) ・計算だけで求めている児童に対して、言葉などを用いて考えをまとめるよう促す。 ・1つの方法だけで求めている児童には、他の考え方で求められないか考えさせる。
<p>4 グループで考えを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの方法で求めたか話し合い、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の多様な考えを知り、よさを認め合い、自他の考えを深められるようにする。 (人とのかわりの中での気づき)
<p>5 全体で考えを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さを求めた方法を比べる。 	
<p>6 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比の関係から求めることができた。 ・拡大図、縮図の関係を使うと求めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体で確認する場面を設けて、まとめにつなげる。
<p>7 適応問題を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・桜南小学校や並木中学校の木の高さについても本時の学習を生かして求めるよう促す。
<p>8 本時の振り返りを行い、次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で「相似な図形」の学習において、本時の学習が基礎となり活用されることに触れ、中学校へのつながりを感じさせる。

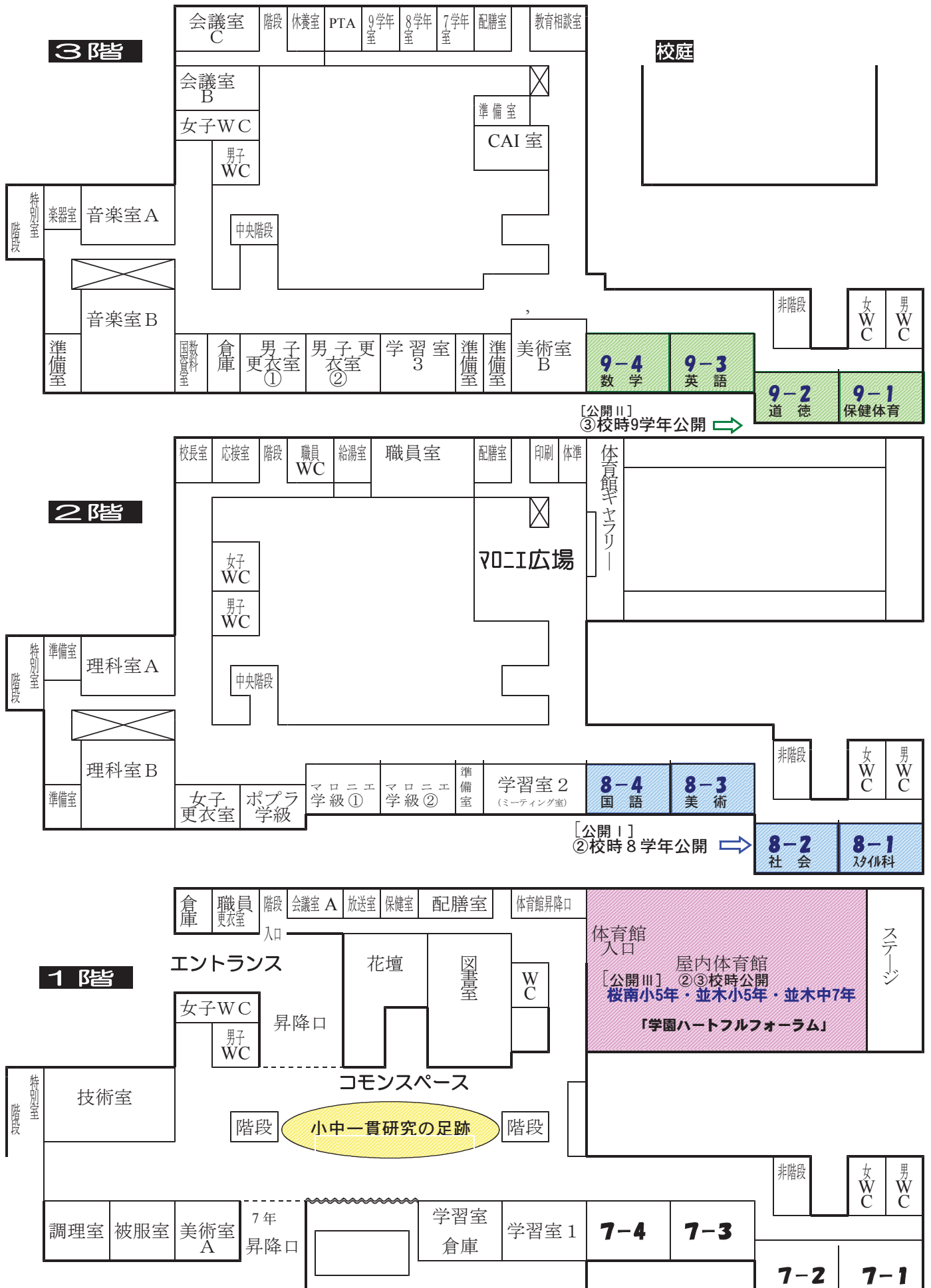
言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	6年・算数科	単元 教材名	形が同じ図形を調べよう	配当 時間	8時間
担任 氏名	T1 染谷 彬大			教室	6年2組教室
学習 目標	・拡大図や縮図の概念や性質について理解し、図形の理解を深めることができるようにする				

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
Ⅰ 課題設定 A	・ 本時の問題を知り、課題を確認する。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
Ⅱ 情報収集 A B	・ 自力解決をする。 ・ グループで木の高さの求め方を話し合う。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵, 言葉, 意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
Ⅲ 整理・分析	・ 全体で木の高さの求め方を比べる。 ・ 学習のまとめをする。	個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	● K 「ブレインストミング」・話し合い活動
		個 一斉 協		● L グループワーク
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD,書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード, 絵カード, チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
Ⅳ まとめ・表現	・ 本時の学習のできるようになったことや分かったことの振り返りをする。	個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協	コ 作品等鑑賞・読み合い	● J ディスカッション・話し合い
		個 一斉 協		● K 思考ツール
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D 紹介文(レポート)作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F パンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● K 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● L スキルアップ表
		個 一斉 協		● M いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● N 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● O 演示, (実験)
個 一斉 協		● P 感想の交流		
成果				
課題				

並木中学校

並木中学校 校内配置図



公開授業Ⅰ

会場：並木中学校 9:40～10:30

教 科	学年・学級	単 元 ・ 題 材 名	指 導 者	教 室
つくばスタイル科	8年1組	自分を知ろう！ 実社会での体験	飯泉 英樹	音楽室
社 会	8年2組	日本の諸地域 関東地方	友澤 春樹	8年2組教室
美 術	8年3組	伝え合おう・あなたの考え絵画の気持ち	安藤さゆり	8年3組教室
国 語	8年4組	走れメロス	渡部由紀枝	8年4組教室

第8学年1組 つくばスタイル科学習指導案

指導者 飯泉 英樹
場 所 音楽室

1 単元名 自分を知ろう！実社会での体験

2 単元目標

- 実社会で生活していくためには、相手を尊重しつつ自分の意見を言ったり、人間関係を円滑にしたりすることが必要であることを知る。(B1:自己認識力 B2:自立的修正力)
- 職業人に触れたり聞いたりする中で、職業の社会的役割や意義に対して考えを深める。(F1:地域や国際社会への市民性 F2:キャリア設計力)
- ◎ 体験で学んだことや自分がこれからどう生きていくかについて、友達や保護者に発信することで、自己の生き方を追求する。(C1:創造力 D2:協働力)

3 授業で大切にしたいこと

(1)単元構想

本単元は、6年生での職業調べや、7年生での自己の適性や自己分析を基に、実社会で様々な体験をし、どのような人が社会で求められているのか、自分はどのように生きていくのか、どんな大人になりたいのか、将来の理想とする姿はどのようなものかを追求する中で、社会性を培うことが目的である。

これまでに本学級の生徒は、ディズニーアカデミー研修に参加し、「相手の立場に立ち、自ら行動する(ホスピタリティ)」という働く上で大切な視点を学んできた。ホスピタリティについて事前の調べ学習と、ディズニーのキャストから直接話を聴き、働く上での相手への意識について改めて考えた。また、事後の指導としてキャストの方々が心掛けているあいさつやコミュニケーションの取り方は日常生活の向上につながることを朝や帰りの会で話題として取り上げ、人と関わることの大切さや、円滑に関わり合うスキルを身につけられるよう支援を続けている。

そして、ディズニーアカデミー研修で学んだ経験をもとに、自営業の学習と職場体験活動、企業訪問につなげていった。職場体験活動と企業訪問では、社会人とのふれあいを通して、社会に出て活動していくために必要なコミュニケーション力や実社会でのマナーやルールを身につけさせていく。また、実際に働く人との交流を通し、それぞれの職業に求められる資質や能力はどのようなものかを考えさせ、将来の進路選択に必要な力を育てていく。

様々な働き方がある中で「自営業」についての学習において、自営業という働き方を考えるときに自己の能力や特技を活かして働くことや、自分のやりたいことを仕事にするという視点をもたせながら授業を進めた。また、自営業で成功するために必要なこと、大切なことを学習し、まとめとして、クラスごとに地域で行われている並木祭りに出店した。どんな店にするかクラス内でプレゼンテーションを行い、様々な視点や考えを共有しながら準備をする。活動の中で働くことの楽しさ、自営業の難しさに気付かせ、一つのことを成し遂げる活動を通し他者と協働する力を高めてきた。

今年度のキャリア学習のまとめとして最後のパネルディスカッションを行い、意見交流を行う。「どのように働きたいか」や「働く上で大切なスキル」についてそれまでの活動を通して学んだことを交流させ、働くことや将来について考えさせ、夢や目標をもって進路選択ができるようにしていきたい。

(2)生徒の実態(30人)

調査結果(平成29年9月12日 30人)

- | | | |
|--------------------------------|-----------------|--------------|
| 1 あなたは将来の夢やなりたい仕事がありますか。 | ア はい…16人 | イ いいえ…14人 |
| 2 仕事を選ぶときに最も大切にしたいと思うことはなんですか。 | | |
| ア 収入が多いこと…1人 | イ 収入が安定している…11人 | ウ 仕事が好き…8人 |
| エ 仕事が好き…0人 | オ 長く続けられる…3人 | カ 誰かの役にたつ…4人 |
| キ やりがいがあるか…3人 | | |
| 3 働く上で大切だと思う力はなんだと思いますか。 | | |

責任感、周りを見て動くこと、コミュニケーション力、相手や人のことを考えること、積極性、やりがいをもつこと、協力すること、社会に尽くそうとすること、仕事を好きになること、一生懸命に動くこと、誇りをもつこと、健康であること、笑顔、仕事に必要な知識、熱意

昨年度の後半からのキャリアの学習に取り組み、今年度は様々な体験を通して働くことについて考えを深めてきた。アンケートから、クラスの半分の生徒が自分の将来について夢や目標、なりたい仕事について自分なりの考えをもつことができている。しかし、もう半分の生徒は自分の将来について具体的な目標を立てられていない。また、仕事を選ぶときに大切にすることとして最も多かった2つが「収入の安定」が11人(30%)、「好きなことを活かしたい」が(27%)と対照的な考えが多い結果になった。働く上で大切だと思うことも、職業の社会的役割にまで考えられている生徒がいて、職場体験や企業訪問先が違うことから様々な見方や考え方をもっている。

この見方や考えをクラスの中で共有し、深めることで視野を広げていき、さまざまな視点から自己のについて考え、生き方や進路の選択について考える機会としていきたい。

(3)発信型プロジェクト学習の構想

つくばスタイル科では9年間で系統的かつ段階的に自己のキャリアについて学習していく。小学校の低学年では、「人との関わりにおいて大切なこと」、中学年では「地域の魅力について必要なもの」を本質的課題として学習する。高学年では「社会を知ること、その社会と関わるために必要なこと」について5年生では、ものづくりに携わる人や自分らしさについて考える。また、6年生では、仕事の価値や自分が目指す生き方についてについて考える。中学校の3年間ではより社会と自分とのつながりが強くなり7、8年生で「人々が共生する社会とはどのようなものだろう」、9年生で「未来をつくるのは何だろう」という本質的課題のもと自己の進路を見据えながら学習を進めていく。

本単元では自分がこれからどのように生きていくかについて追求していく。ディズニーアカデミーでのホスピタリティの学習をきっかけに、職場体験、企業訪問、店を経営する活動を通して、実社会で活動するために必要なスキルや、働き方、職業の社会的役割や意義について考えを深めていく。そして、将来の夢や進路の実現のために今できることを考え、実践しようとする態度を養っていく。

生徒は職場体験活動、企業訪問、自営業の3つの活動で学んだことをプレゼンテーションする。「どのように働きたいか」「働く上で大切なスキル」について学習の成果をまとめ発表することで、自分の考えをまとめたり、様々な価値観に触れたりして働くことや、自己の未来についての考えを深めさせたい。

本学園では、キャリア教育の小中一貫の取り組みの中で、6年生の職業調べで出てくる仕事に対する疑問や質問を8年生が職場体験活動で働く人に直接聞いて回答をする活動を行っている。今年度はSkypeで通信をし、小学生の質問にその場で中学生が答える形を予定している。小中学生がそれぞれの学習の成果を伝える機会を設定することで、系統性をもたせ、より深い学習になることが期待できる。

(4)研究テーマにせまるために

本単元では、ディズニーアカデミー研修でのキャストの方々との交流、職場体験・企業訪問での事業所の方々との交流、そして同学年の仲間や小学生との交流など多くの交流の場が設定される。その際、働くことや、進路などについての考えや意見を交換し、改めて考えをまとめる場面を適宜設定することで「**B 人とかかわりの中での気付き**」が高まると考えられる。また、それらの交流や実社会での活動を通して、社会人として必要なスキルに気付かせ、自分自身の行動と照らし合わせる時間をとることで「**A 自己理解**」の高まりも期待できる。最終的に、今回の学習と活動を通して、社会人としてのスキルを身に付け、それを自覚することで「**C 自分への期待**」を高め、自己のキャリアについて自己決定のできる生徒を育てていきたい。

4 学習活動と評価計画 (20 時間扱い)

流れ		学習活動	評価規準 (評価方法)
in	課題 発見	1 ホスピタリティとは何だろう ・ディズニー流のホスピタリティの考え方を知り、働くことの意義について考える。 ・ディズニーアカデミー研修に向けて見通しをもつ	○課題解決のプロセス【高まりが期待できる観点】 A1 客観的思考力 ・ホスピタリティの考え方を理解し、その重要性を認識することができる。(観察) A2 問題発見力 ・ディズニーアカデミー研修への課題や注意点に気付くことができる。 (観察・ワークシート) ○小グループでの話し合い 【A. 自己理解・B. 人とかかわりの中での気付き】
about	交流 活動	2 ディズニーアカデミー研修に参加して、社会人に必要なスキルを学ぼう。 ・ホスピタリティの考え方についてキャストから話を聞く。 ・日常で考えられるホスピタリティについて話し合う。	B1 自己認識力 ・人とかかわる上で、大切なことに気付き、それらを実践しようとする事ができる。 (観察) ○ディズニーキャストとの交流 ○小グループでの話し合い 【B. 人とかかわりの中での気付き】
for	まとめ	3 ディズニーアカデミー研修から学んだことをもとに、日常生活に活かせることを提案しよう。	C1 創造力 ・ホスピタリティの考え方を日常生活の中に活かそうとすることができる。(掲示物・観察) ○小グループで掲示物でのまとめ・発信 【B. 人とかかわりの中での気付き・C. 自分への期待】
in	課題 発見	4 並木祭りに出店しよう。 自営業について考えよう。 ・自営業という働き方について理解	A1 客観的思考力 ・経営者になるという見方だけでなく、能力や特技を活かすことや、自分のやりたいことを

		し、メリット・デメリットについて考える。 ・自営業で成功するために必要なことについて話し合う。	仕事にすることなど、自営業についての理解を深めることができる。(観察・ワークシート) A2 問題発見力 ・店を出すための課題や注意点に気付くことができる。 ○小グループでのブレインストーミング 【A. 自己理解・B. 人とのかかわりの中での気付き】
about	課題調査	5～6 出店する店を考えよう。 ・利益を出すことを考えながら店のコンセプト、商品、仕入れなどについてアイデアを出し、グループでまとめていく。	D2 協働力 ・個人でアイデアを出した後に、グループのなかで出店する店について話し合い、店を出すことの難しさを感じつつ仲間と考えをまとめることができる。(観察・ワークシート) ○小グループでの話し合い 【B. 人とのかかわりの中での気付き】
for	発信提案	7 考えた店をプレゼンテーションしよう。 ・各グループ並木祭りに出店する店をプレゼンし、意見交換を行い改善点を見つける。	D1 言語活用力 ・自分たちが考えた店の良さを伝えたり、迷っている部分で意見交換をしたりして、クラスでより良い店を考えていく。(観察) ○グループごとのプレゼンテーション 【A. 自己理解・B. 人とのかかわりの中での気付き】
in	新たな課題設定	8 クラスで出店する店を決めよう。 ・前回のプレゼンをもとに店を決め、実現するための細かな部分について具体的に計画を練り、必要な物や役割について考える。	A2 問題解決力 ・細かな部分まで意見を出し合い、計画を立てていくことで店を出すために必要な役割や物について考えることができる。(観察) ○小グループ・学級での話し合い 【B. 人とのかかわりの中での気付き】
about	交流協働	9～10 出店の準備をしよう。 ・並木祭りでの出店に向けて、店の準備を行う。	D2 協働力 ・役割分担をして協力しながら作業をすることができる。自分の役割に責任をもち、最後までやり遂げることができる。(観察) 【B. 人とのかかわりの中での気付き・C. 自分への期待】
about	交流協働	11 並木祭りに出店 ・ホスピタリティを意識しながら店の経営をする。	D2 協働力 ・それぞれが役割を果たしながら店を経営する。また、予想していなかったことにも協力して臨機応変に対応していく。(観察) F1 地域や国際社会への市民性 ・地域の一員として祭りの運営に貢献することができる。 【B. 人とのかかわりの中での気付き】
in	課題発見	12～13 職場体験学習と企業訪問の準備をしよう。 ・希望する事業所と企業を決定する。 ・礼儀・マナーを学ぶ。 ・事前の打ち合わせや企業のアンケートに答える。 ・活動目標・計画を立てる。	A2 問題発見力 ・ディズニーアカデミー研修で学んだことをもとに課題を見つけ、職場体験学習と企業訪問での解決を目指すことができる。(ワークシート) F1 地域や国際社会への市民性 ・実社会に必要な礼儀やマナーを学ぶ。(観察) ○小グループでの話し合い 【A. 自己理解・B. 人とのかかわりの中での気付き】
about	交流協働	職場体験学習・企業訪問に参加する。 ・働く上で大切なことについてインタビューする。(小学生からの質問含む) ・自分の生き方の参考になる点についてまとめる。	D1 言語活用力 ・疑問点や課題解決に必要な質問を明確に伝えることができる。(観察・ワークシート) F1 地域や国際社会への市民性 ・事前学習で学んだ礼儀やマナーを実践する。(観察) ○働く人との交流 【A. 自己理解・B. 人とのかかわりの中での気付き】
about	まとめ	14～16 自営業・職場体験学習・企業訪問で学んだことをまとめる。	D1 言語活用力 ・これまでの学習で学んだことを自分なりの言葉でまとめ、掲示物で表現したり、プレゼンテーションで伝えたりすることができる。

			E2 ICT 活用力 ・スタディノートを利用して、これまで学んだことを相手意識をもって、分かりやすくまとめることができる。(スタディノート) ○グループでのスタディノートまとめ 【A. 自己理解・C. 自分への期待】
for	提案 発信	17 グループごとにプレゼンテーションを行う。	E1 情報活用力 ・スタディノートを活用して、分かりやすく今年度の学習と体験で学んだことを伝えることができる。(観察・スタディノート) ○スタディノートによるプレゼンテーション 【A. 自己理解・B. 人とのかかわりの中での気付き】
for	発信 提案	18 学園の6年生に、職場体験の成果を伝える。	D1 言語活用力 ・小学生に分かる表現方法で、学んだことを伝えることができる。(観察) ○Skype を利用した小学生との交流 【A. 自己理解】
for	提案 発信 (本時)	19 パネルディスカッションを行い、「どのように働きたいか」や「働く意義」について考える。	D1 言語活用力 ・「どのように働きたいか」や「働く意義」について自分なりの意見を明確にもち、表現することができる。(観察・ワークシート) B1 自己認識力 ・自分の意見を理解するとともに、他者の意見との相違や共通点に気付き、考えを深めることができる。(観察・ワークシート) 【A. 自己理解・B. 人とのかかわりの中での気付き】
in	評価	20 単元の振り返りを行い、自己の将来について考える。	B1 自己認識力 ・今の自分への考えや長所・短所に気付き、将来への見通しをもつことができる。(ワークシート) F2 キャリア設計力 ・今の自分の長所や短所をどのように活かしていくか考え、進路の選択に活かそうとしている。 ○振り返りワークシート 【C. 自分への期待】

5 本時の学習

- (1) 目標 自営業の学習や体験をもとに、働く意義について考え、夢や目標のある人生について肯定的にとらえられるようにする。
- (2) 本時のポイント (自己肯定感を高めるための手立て)

パネルディスカッションを通して、自分の考えと他者の考えの相違点や共通点を見つけ、「働く上で大切にしたいこと」についての考えを深めていく。その際に、タブレット PC を活用して自分の意見を示し、その意見を集約して可視化していく。自分の立場や考えを明確にし、他者の意見と比較していくことで自分の考えをさらに深めていく。(自己理解) また、ゲストティーチャーがパネルディスカッションに入ることで、生徒たちだけでは気付けない考えや価値観に触れ、働くことや将来についての考えを深められようにしていく (人とのかかわりの中での気付き)。

また、「働く上で大切にしたいこと」について事前に考えをワークシートにまとめておく。様々な意見を聞く中で自分の意見を再考させる。これらの活動を通して自分の意見をまとめていき、自己の生き方について真剣に考え、将来どのようになりたいか、そのためには何をするべきなのかを考える機会にしていきたい (自分への期待)。

(3) 展開

学習活動及び内容 (太字は、研究テーマに迫るためのプロセス)	支援と評価 (・支援, ◎は教育資源の活用) (太字は自己肯定感を高める3つの観点との関連)
1 本時の活動の目当てを確認する。 働く意義について、様々な立場からの意見を聞いて考えを深めよう。	・今回の授業のねらいについて、事前にワークシートに考えをまとめ、自分の考えをもって授業に参加できるようにする。

<p>2 輝きマルシェ、職場体験、企業訪問のまとめと、小学校と仕事についての交流について振り返る。</p> <p>3 ゲストティーチャーの紹介</p> <p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) これまでの経験についての話</p> <p>4 パネルディスカッションの方法を知る。</p> <p>(1) 全体の流れの確認</p> <p>(2) パネリストの紹介</p> <p>(3) 司会者の確認</p> <p>5 パネルディスカッションを行う。</p> <p>(1) パネリストからの発言</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場のパネリストから働き方やそれを選んだ理由、具体的に就きたい仕事について説明をする。(1人2分) <p>(2) パネリストからパネリストへの質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 「働く上で大切にしたいこと」をテーマに意見交換を行う。(10分) <p>(3) フロアからの質問・意見発表</p> <ul style="list-style-type: none"> どのパネリストに質問するのかを先に述べる。(5分) 質問は1回につき1つとする。 <p>(4) ゲストティーチャーからの一言</p> <p>(5) 司会者からまとめの一言</p> <p>6 本時の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が司会をして本時の授業を進めていくことを確認する。 それぞれの活動で学んだことや感想をプレゼンテーションの形で発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ゲストと今回の授業についてのねらいを打ち合わせして、ねらいに合った話をしてもらえるようにする。 パネリストだけの活動にするのではなく、パネリストの意見交換を通して全員が考えを深めていく活動であることを確認する。 (人とかかわりの中での気付き) 事前に質問事項を考えておき、意見の交換が多くできるようにする。 話し合いを広げていけるようにパネリストの意見交換はできるだけ均等になるように司会者に伝えておく。 話が大きくそれたら元に戻すよう司会者と打ち合わせをしておく。 フロアからの質問がない場合には司会者から指名することを事前に伝えておく。 スタディネットを使って意見を集約したり、表示したりできるようにする。(自己理解) ワークシートにメモを取りながら話を聞き、自分の考えと比較し、考えを深めていけるようにする。(自己理解) <ul style="list-style-type: none"> 本時の授業で考えたことや感想をワークシートにまとめる。自分自身の進路や将来について理想的な姿のイメージをもち、そのために必要なことについての考えをもてるようにする。(自分への期待)
---	---

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	8年 つくばスタイル科	単元 教材名	自分を知らう！実社会での体験	配当 時間	20時間
担任 氏名	飯泉 英樹			教室	音楽室
学習 目標	○ 実社会で活動していくためには、相手を尊重しつつ自分の意見を言ったり、人間関係を円滑にしたりすることが必要であることを知る。 ○ 職業人に触れたり関わりたりする中で、職業の社会的役割や意義に対して考えを深める。 ○ 体験で学んだことや今後の自分がこれからどう生きていくかについて、友達や保護者に発信することで、自己の生き方を追求する。				

(B1:自己認識力 B2:自立的修正力)
(F1:地域や国際社会への市民性 F2:キャリア設計力)
(G1:創造力 D2:協働力)

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	○並木祭りに出店しよう ○職場体験学習と企業訪問の準備をしよう ・ディズニーアカデミーで学んだホスピタリティをもとに課題を見つけ、職場体験と企業訪問での解決を目指す。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G クッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
II 情報収集 A B	○職場体験学習・企業訪問に参加する ・自分の生き方の参考になる点について考える	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
III 整理・分析	○出店の準備 ・クラス内の小グループでプレゼンを行いイメージを共有していく。	個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	● K フレインティング・話し合い活動
		個 一斉 協		● L グループワーク
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
IV まとめ・表現	自営業・職場体験・企業訪問で学んだことをまとめ、これからの自分について考える。	個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● J ディスカッション・話し合い
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F パンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● K 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● L スキルアップ表
		個 一斉 協		● M いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● N 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● O 演示、(実験)

成果	
課題	

第8学年2組 社会科学習指導案

指導者 友澤 春樹

1 単元 日本の諸地域

2 単元目標

- 関東地方の地域的特色について、他地域との結びつきを意識しながら意欲的に追求しようとしている。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 関東地方と他地域との結びつきについて、地形や距離、結びつきの強さの違いなどを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。
(社会的な思考・判断・表現)
- 収集した資料から、関東地方の地域的特色や他地域との結びつきについて、必要な情報を適切に選択し、それをもとに読み取り、まとめたりすることができる。
(資料活用技能)
- 関東地方について、他地域との結びつきを中核とした考察をもとに捉え、地域的な特色を理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

小学校社会科では第3学年の学習で、自分の住む地域の人々の生産や販売に見られる仕事を学ぶ。その際に国内の他地域とのかかわりについて調べている。中学校第2学年ではその学習を踏まえ、かかわりを調べるだけでなく、日本のある地域と「他地域との結びつきを中核とした考察」を行う。

本単元では関東地方を取り上げ、他地域との結びつきを中核とした考察を行う。関東地方は東京を中心に国内外をつなぐ様々な交通網が整備されている。それらを通して人口や産業、情報などが集中し、地域の姿に大きな影響を与えている。他の地域との結びつきを考察するために適切な地域である。

他地域との結びつきを考える場合には、どのような要素で地域同士が結びついているのかという視点が重要になる。その際には小学校社会科での、「国内の他地域などのかかわり」を調べる学習を踏まえ、様々な視点から関東地方について考察させたい。その視点として、産業、人口、情報、交通などが考えられる。これらについての資料を読み取り、関東地方と他地域との結びつきについての理解を深め、関東地方の地域的特色をとらえさせたい。

(2) 生徒の実態 (34人)

調査結果 7月20日 32人実施

- ① 関東地方に多くの人やものが集まるのはなぜだと思いますか。
東京などの大都市があるから。 魅力的だから。 大きな企業があるから。 仕事があるから。
昔から栄えているから。 ディズニーランドなどがあるから。 進んでいるから。 など。

実態調査から、関東地方に多くの人やものが集まる理由について、様々な意見をもっていることがわかる。身近な地域であることから、自分の経験などをもとに回答していることが予想される。一方で、他地域からの結びつきや交通面からの答えはあまり見られなかった。このような結果から、関東地方の地域的特色をとらえるために、この地方が様々な面で国内の他の地域や外国と結びつき、影響を受けていることについて理解することが必要だと考えられる。農業や工業、交通など様々な角度から関東地方を分析し、多くの人やものが集まる理由について深く考えさせたい。そして、自分自身が関東地方という地域に暮らし、地域を創っていく一人であることに気付かせたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本単元では、小学校での学習内容とのつながりを意識するために、小学校の児童が作成した資料を活用し、関東地方と他の地域との結びつきについて調べる。わかりやすい資料を活用することで、意欲をもって学習に取り組めるようにしていく。次に自己肯定感を高めるために、関東地方の地理的な事象の理解について、自力解決の時間を十分に確保する。この時間で関東地方について考察するために必要な基礎的な知識を身につけさせ、その後の活動に自信をもって取り組めるようにする。(自己理解) 関東地方と他地域との結びつきについて調べる際には、少人数(4人程度)でのグループ活動を行う。それぞれが調べた他地域との結びつきを伝え合い、関東地方についての考察を深めていく。(人とかかわりの中での気付き) また、単元のまとめを行う際には、グループの組み替えを行い、他のグループでの学習の中で他者と協働することで、より思考が深まったという達成感を感じることができるよう配慮していく。(自分への期待)

4 指導計画 (5時間扱い)

時	学習内容	評価計画				
		関	思	技	知	評価規準(評価方法)
1	白地図を活用し関東地方の自然環境、気候などの特色をまとめる。	◎			○	・ 関東地方の自然環境の特色や、土地利用、気候、環境の特徴を進んで調べようとしている。(ワークシート)
2	関東地方の人口と産業の特色について、資料から読み取る。		○	◎		・ グラフや主題図を用いて、人口や産業の特色を読み取るができる。(ワークシート)
3 (本時)	小学校からの資料をもとに、関東地方と他の地域との結びつきについて、読み取る。		◎		○	・ 関東地方と他地域との結びつきについて、児童が作成した資料をもとに調べ、産業の面でのつながりを考えることができる。(ワークシート)
4	関東地方と他地域との結びつきについて、国内外との関係を中心に調べる。		◎	○		・ 関東地方の産業の特色について、国内、国外との結びつきに着目して調べ、まとめることができる。(ワークシート)
5	関東地方と他の地域との結びつきについてまとめる。	○	◎			・ 関東地方と他の地域との結びつきを考え、自分の言葉で適切に表現することができる。(ワークシート)

5 本時の指導

(1) 目標

関東地方と他の地域との結びつきについて読み取り、自分の考えをまとめることができる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

本時の学習では、小学校の児童が作成した資料を、他の生徒と協働して読み取り、関東地方の地域的特色を表現する活動を行う。協働する際に、自分の意見をもつために、付箋を活用する。個人の活動で読み取ったことを付箋に書き込み、グループ活動を行う際に使用することで、自信をもって話し合いに参加することができる。小グループの活動では自信をもって表現させることで意見交換を促し、関東地方の地域的特色についての考えを深めることができるようにする。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <p>関東地方が強く結びついている地域はどこだろう？</p>	<p>・児童が作成した資料を提示し、小学校での学習内容を想起させる。</p>
<p>2 小学校の児童が作成した資料を分析し、付箋に書き込んで、ワークシートを完成させる。</p> <p>(1) 児童の作成した資料を見て気付いたことを、付箋に書き、全体に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜は国内の結びつきが多い。 ・関東地方からの結びつきが多く見られる。 ・農業では外国との結びつきも少し見られる。 ・工業は、海外との結びつきが多く見られる。 ・原料の輸入や製品の輸出が必要だから、海外との結びつきが見られる。 ・関東の工業地帯、地域は臨海部にある。 <p>(2) 付箋に書き、発表した内容をもとに、ワークシートを完成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分析した内容を付箋に書き込むことで、グループでの活動に自信をもって取り組めるようにする。(自己理解) ・小学生は何がわかったと思う？どうまとめたと思う？などと問いかけ、資料の読み取りを促す。 ・個人での読み取りが難しい生徒には、地図をもとに、国内、国外、近く、遠くなどの区分をヒントとして提示し、結びつきが表現しやすいようにする。 ・生徒が読み取る際には、野菜、原料、工業地帯など、注目すべきキーワードを提示し、児童が読み取ったことを想起しやすいようにする。
<p>3 4人グループになり、関東地方と他地域との結びつきについて、教科書や資料集を活用して深く分析し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業は、内陸部での工業が発達してきた。理由は、高速道路が整備されたからだと思われる。 ・高速道路など交通網が、以前より発達しているから、離れた県から野菜が輸送されている。 ・関東で見られる近郊農業や輸送園芸農業は、交通網の発達に深い関係がある。 ・小学校の資料では、工業は海外の結びつきが強いと読み取れたが、関東地方は国内のつながりも強い。 	<p>①「小学校の資料から読み取った内容に、付け加えられるような違いや変化はないか」と発問することで、生徒に国内の結びつきの変化や変化の原因について考えさせる。</p> <p>②小グループでの活動では、小学校の資料を分析した結果をもとに、そのほかにどのような結びつきがみられるか、話し合いをさせる。(人とかかわりの中での気付き)</p> <p>③調べることを農業、工業、その他に限定し、焦点を絞って分析できるようにする。</p> <p>④農業、工業など、それぞれの分野で、他地域との結びつきに関する資料を精選して用意し、スムーズに分析できるようにする。</p> <p>⑤内陸部の工業地域の変化に注目させることで、交通網の変化が、関東地方の変化に大きく関係していることに気付かせるようにする。</p>
<p>4 グループでの活動をもとに、関東地方と他地域との結びつきについて、まとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東地方では、農業では、関東地方の他県や、他の地域との結びつきが強く見られる。 ・工業では、外国との結びつきだけでなく、関東の中での結びつきが強まっている。 ・そのほかには、観光の分野で多くの人やものが国内、国外を問わず結びついている。 ・他地域との結びつきには、高速道路や空港などの交通網の発達が影響している。 	<p>・いくつかのグループを抽出して発表させ、調べた内容が共有化できるようにする。</p> <p>・完成したワークシートをもとに学習を振り返り、関東地方と他地域との結びつきについて自分の考えをまとめる。</p> <p>※関東地方と他の地域との結びつきについて、農業、工業、その他の視点で読み取り、ワークシートに自分の考えをまとめることができる。(ワークシート)</p>
<p>5 次時の内容を知る。</p>	<p>・次時は関東地方と国内外との結びつきを中心に学ぶことを伝える。</p>

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	8学年	単元 教材名	社会	日本の諸地域	配当 時間	5時間
担任 氏名	友澤 春樹				教室	8年2組教室
学習 目標	関東地方が強く結びついている地域について考え、まとめることができる。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	①関東地方の学習についての基礎的、基本的な情報を身につける。 ②学習の課題をたてる。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
II 情報収集 A B	③小学校の児童が作成した資料などを活用し、関東地方の地域的特色に関する情報を集める。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
III 整理・分析	④集めた情報をもとに、関東地方と他地域との結びつきについて考察する。	個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● J ディスカッション・話し合い
IV まとめ・表現	⑤考察を伝えあい、関東地方と他地域との結びつきについてまとめる。	個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F バンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD

成果	
課題	

1 題材 伝え合おう。あなたの考え、絵画の気持ち。

2 題材の目標

- 絵画のよさや美しさ、作者の心情や表現の工夫などに関心をもち、言葉や絵に表そうとしている。
(関心・意欲・態度)
- 絵画のよさや美しさ、作者の心情や表現の工夫などを感じ取り、自分の考えを言葉で表現することができる。
(鑑賞の能力)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 題材について

中学校学習指導要領美術の2内容の中では、「美術作品の良さや美しさを感じ取り(略)」など、「感じる」ではなく「感じ取る」と表現されている文章が続いている。作品の第一印象から、きれい・楽しそう・少し怖いなど「感じる力」は、小学校時代またはそれ以前より自然と身につけてきたものである。しかし、中学校では、指導要領が示すように「感じる」ではなく、一歩進んで「感じ取る」力を育てていく。なぜ、この絵をきれい・楽しそう・少し怖いと思ったのか、絵画をじっくり観察し、作者の心情に迫っていく力が「感じ取る」力であると考えている。感じ取るには、能動的に作品を観察することが、まず必要である。

本題材は、提示された絵画について紹介文とタイトルを考える活動をする。それらを考えることで、作品をよりよく観察できると考えたからである。よく観察することの手立てとして、作品を見るためのヒントカードを用意する。カードには10種類の質問が書かれている。それにより、少ない時間で多くの絵画を見る視点を示し、スムーズに鑑賞できると考えた。もう一つの手立てとしてグループでの活動を取り入れる。グループで意見の交流をしながら、紹介文を完成させることで、色々な見方を知り、一人一人の観察する視点がさらに増えることが期待できる。今回題材で取り上げるのは小学生の絵画である。小学生の描いた絵を題材にすることで、身構えることなく、親しみや興味をもって活動に取り組めると考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態 調査結果(平成29年9月1日実施 31人)

1 美術で得意(好き)・不得意(嫌い)と思うことはな んですか。(複数回答可)	得意	不得意
①実物と同じように絵を描くこと	13人	13人
②きれいに色を塗ること	7人	16人
③発想したり、アイデアを出したりすること	19人	12人
④立体作品を作ること	4人	15人
⑤作品を鑑賞すること	11人	8人
⑥その他	1人	4人
2 鑑賞で難しいと思うことはどんなことですか。(自由記述)		
<ul style="list-style-type: none"> ・作品の良さをみつけること 8人 ・作者の気持ちを読み取ること 7人 ・感じたことや良さを言葉に表すこと 5人 ・作品の特徴を見つけ出すことや、観察の仕方がわからない 3人 ・いろいろ考えが浮かぶが、まとめきれない 2人 ・いつも同じことをばかり書いている ・芸術が理解できない ほか 		

○質問1⑤の鑑賞をすることが得意を選んだ生徒の理由は、「自分とは違う発想の良さに気づけるから」「いろいろな作品に触れることができて楽しい」「人の考えや自分の考えを客観的に見られる」などであった。鑑賞が好きだと答える生徒は、作品の中に新しい考えを発見しようとする視点がある。一方、不得意を選んだ生徒の理由は「鑑賞の仕方がわからない」「同じようなことしか考えられないから」「好きと思えない作品を鑑賞するのが難しい」とあった。鑑賞を不得意とした生徒は、得意とした生徒に比べ、鑑賞することに意義を見出せずにいる。話し合い活動を通してこの二者の交流があれば、他者がどのように作品をとらえているのか知ることになる。友人たちの考えを知ること、鑑賞することに関心が高まると考え、話し合いを取り入れた活動をしていく。さらに、質問2の結果から、作品の良さや作者の気持ちを読み取ることができないという生徒が半数いることがわかった。どこに視点を置いて観察したらよいか、ヒントカードを使った活動を取り入れることにする。

(3) 研究テーマに迫るために

今回鑑賞する小学生の作品は、有名な芸術作品に比べ親しみをもって取り組むことができる。自分たちも小学生の時に、類似した作品を描いてきた経験から、作者の心情なども実感をもって感じ取ることができると考えた。また、ヒントカードを用いて鑑賞の話し合い活動を行う。作品をどのように見ればよいかわからない生徒は、ヒントカードにより、絵画を見る視点を得られ、話しやすくなる。グループ内で積極的に意見を交換することで自分への期待感が高まることを期待する。また、絵画を見るそれぞれの視点を、自己主張したり、周囲の意見を受け入れたりしながら一つの紹介文にまとめていく。それらの活動をする過程において自己肯定感の高まりを期待する。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・ 絵画のよさや美しさ、作者の心情や表現の工夫などに関心を持ち、言葉に表そうとしている。
(関心・意欲・態度)
- ・ 絵画のよさや美しさ、作者の心情や表現の工夫などを感じ取り、自分の考えを言葉で表現することができる。
(鑑賞の能力)

(2) 本時のポイント (自己肯定感を高めるための手立て)

絵画を鑑賞する際、グループで意見を出し合い、考えを認め合うことで、グループの役に立ったことを実感できるようにする。また、タイトルを決めたり、紹介文を書いたりするときには、友人たちの様々な考えを知り、認め合うことで自分の考えを広げられるようにする。
最後に感じた事など、自分の考えを発表したり、友人の考えを聞いたりすることで、小学生の作品のよさなどに気づき、感じ取る力を広げられるようにする。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div data-bbox="209 689 746 801" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>伝え合おう。 あなたの考え、絵画の気持ち。</p> </div> <p>2 3人グループになり、絵画を鑑賞する。 (ヒントカード、ワークシート①、絵画のコピー)</p> <p>(1) 絵を鑑賞し、気づいたことなどを個人のワークシートに記入する。</p> <p>(2) 配られた絵について、ヒントカードを使って意見を交換し、ワークシート①に記録する。</p> <p>ヒントカード</p> <div data-bbox="233 1126 663 1193" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>あなたが一番注目したところは？</p> </div> <div data-bbox="233 1205 663 1272" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>形で工夫されていると感じるところは？</p> </div> <p style="text-align: right;">他</p> <p>3 タイトルと紹介文を考え、発表する。 (ワークシート②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2で鑑賞した絵について、ワークシート①を参考にしながら、グループでタイトルと紹介文を考え、発表する。 <div data-bbox="217 1473 756 1765" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>この絵の見どころは、サッカーボールの乗り物です。耳を澄ますと元気に宇宙に飛び出していくゴーと音が聞こえてきそうです。これは、自分の理想の街をボールに詰め込んだ絵です。背景は暗い青ですが、ボールの中は黄色です。中の街を強調したかった作者の工夫がわかります。街の中には、温泉やシアターなども描いてあります。これは、大好きなものを全部詰め込んだ夢のサッカーボールロケットなのです。 タイトルは「大好き僕のサッカーロケット号」です。</p> </div> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに授業を振り返って感じた事などを書き、発表する。 (ワークシート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容について確認する。 ・ 鑑賞の力をつけることが、自分の発想力や技術の向上に繋がることを伝える。 ・ 配られた絵について、個人でよく観察する時間を設ける。 ・ 配る絵は4作品とし、一つの作品を3つのグループが鑑賞するようにする。 ・ ヒントカードの使い方を、実演をしながら説明をする。 ・ カードを使いながら作品の細部を見ていくよう促す。 ・ 必ず班の全員がカードの質問に答えるようにすることを伝える。 ・ グループで、司会や書記を決めるなど活動がスムーズに進むように指示する。 ・ グループで意見を出し合い、考えを認め合うことで、グループの役に立ったことを実感できるようにする。(自分への期待) ・ グループで話し合いながらタイトルを決めたり、紹介文を書いたりする中で友人の様々な考えを知り、認め合うことで自分の考えを広げられるようにする。(自己理解) ・ タイトルと紹介文を発表し合い、絵画を見る視点の交流をすることで、絵画に対する見方を深められるようにする (人とかかわりの中での気づき) ※絵画のよさや美しさ、作者の心情や表現の工夫などを感じ取り、自分の考えを言葉で表現することができる。(ワークシート、発表) ※絵画のよさや美しさ、作者の心情や表現の工夫などに関心を持ち、言葉や絵に表そうとしている。(観察、発表) ・ 一つの絵画でも、グループによって、最も注目したところが違っていたり、共通する部分があったりすることに注目させる。 ・ 絵画の見方は様々であり、いろいろな考えを知ることで見方が広がり、鑑賞の力が深まっていくことを、発表者の意見を生かしながらまとめる。

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	第8学年	単元 教材名	鑑賞	伝え合おう。あなたの考え、絵画の気持ち。	配当 時間	1時間
担任 氏名	安藤 さゆり				教室	8年3組
学習 目標	絵画の良さや美しさ、作者の心情や表現の工夫を感じ取り、自分の考えを表現することができる。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	学習内容の把握 ・教師の説明を聞き、本時の内容を把握する。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
II 情報収集 A B	作品の鑑賞 ・小学生の絵を鑑賞し、自分の考えを持つ。 ・3人グループになり、カードを使って意見交換をする。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
III 整理・分析	作品の題名と紹介文を考える。 ・グループの意見を集約し、題名と紹介文を考える。	個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	● K プレゼンテーション・話し合い活動
		個 一斉 協		● L グループワーク
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
IV まとめ・表現	題名と紹介文を発表する ・グループの代表者が、クラス全体に題名と紹介文を発表する。	個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● J ディスカッション・話し合い
		個 一斉 協		
		個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
	本時を振り返る ・本時を振り返り、感想を持つ。 ・自分の考えを発表する。	個 一斉 協	カ スピーチ	● F バンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● K 自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● L スキルアップ表
		個 一斉 協		● M いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● N 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● O 演示、(実験)

成果	
課題	

第8学年4組 国語科学習指導案

指導者 渡部由紀枝

1 単元 太宰に代わってメロスを宣伝！太宰の思いに迫ろう！！～「走れメロス」

2 単元の見目標

- 場面の展開や表現の仕方の工夫について考える学習に関心を持ち、意欲的に作品を読もうとする。（国語への関心・意欲・態度）
- 人物や情景の効果的な描写に着目し、場面の展開や表現の仕方について、作者の作品執筆の意図を読み取りながら自分の考えをまとめることができる。（読むこと）
- 喜怒哀楽を表す言葉などに着目して、語感を磨くことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

小学校の学習指導要領「C 読むこと」では、文学的な文章の解釈において、低学年では「登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」中学年では「登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと」高学年では「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」とある。これを受けて、7年生では「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」を中心に学習してきた。

以上の身に付いた力を受け、本単元は、中学校学習指導要領国語編「C 読むこと」の指導事項（1）「（イ）登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。」、「（ウ）文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」を達成するために「作者の目的や意図が効果的に伝わるようにリーフレットを作成する」という言語活動を位置づけた。リーフレットを作成するためには、書き手の意図や目的を端的に捉えたり、重要な描写や表現を摘読したりすることが求められる。そのために、今回は「走れメロス」を教材に用いて、太宰の作品に対する思いを読み取らせていきたいと考えた。「走れメロス」は、シラー作「人質」に加筆修正を加えて出来上がった作品である。二つの作品を比べ読みすることで太宰の思いや作品の主題を読み取らせ、自分の考えを持たせた上で、リーフレットを作成したいと考えている。

また、9学年では今回身に付けた力を生かして、時代背景や作品背景を考えながら作品を読み深めたり、批評しながら読む力を身に付けさせていきたい。

(2) 生徒の実態

調査結果（平成29年7月 34人）
（平成29年1月実施学力診断テストより）

- | |
|---|
| 1 国語の授業で、興味のある分野に○をつけましょう。（複数回答可）
・物語文の読み(19人)・説明文の読み(8人)・古典(4人)・随筆の読み(7人)
・作文(7人)・スピーチ(4人)・漢字や語句(10人)・文法(2人) |
| 2 普段の読書生活において、どんな本を読んでいますか？
・小説(29人)・専門書(8人)・随筆(2人)・その他(意見文など) |
| (学力診断テストより) |
| 3 18 文脈に即して登場人物の状況を読み取る力
・正答率90.3% ・誤答率9.1% ・無答率0.6% |

昨年度実施した学力診断テストの結果を見ると、「文脈に即して登場人物の状況を読み取る力」が90.3%と好成績である。これは、今までの国語学習で登場人物の心情を読み取る学習に力を入れてきた成果だと考えられる。昨年度も「少年の日の思い出」を学習する中で、場面の展開や登場人物などの描写について注意して読み深めることができた。これは、小学校高学年の「読むこと」に関する目標「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」に対応するものである。セリフや行動だけでなく情景が主人公の心情を表すことを学んできた。

本単元では人物や情景から、主人公の心情を読み取る活動にプラスして、その効果的な描写や、表現の仕方について自分の考えを持つことを目標にしていく。そのために、読み取ったことを基にしてリーフレットを作成する活動を取り入れた。シラー作「人質」と「走れメロス」を比較しながら読み進めることで、「なぜ太宰がシラーの作品に肉付けをしたのか」「太宰がメロスを通して作品に込めた思いとはどんなものか」など自分なりの考えを持たせてまとめていきたい。

(3) 研究テーマに迫るために

リーフレットを完成することができたという達成感を持たせるために、ユニバーサルデザインの視点より角川書店から刊行されている「文豪シリーズ」や、本の帯などを提示し、グッドモデルを示す。また、スモールステップを活用し、本単元を

「スキルアップ」「メロス会議」「太宰会議」「完成」の4段階に分け実践していく。
 まず、「スキルアップ」では、絵本を読んで、主人公のキャラクターや、作者の伝えたい思い、表現の工夫について根拠を明確にして意見を交流する学習を行い、本単元の見通しを持たせる。

次に「メロス会議」では、「人とのかかわりの中での気づき」と「自己理解」を狙いとしている。グループで交流しながら「走れメロス」とシラー作「人質」とを比較し読み深め、自分の考えを持てるようにさせていきたい。

三つ目の「太宰会議」と最後の「完成」では「自分への期待」を狙っている。リーフレットのための構想メモを何度も練り上げることで、より良いリーフレットを作成させるための手立てとしていきたい。

4 指導計画（9時間扱い）

時	学習内容	指導計画			
		関	読	言語	評価基準（評価方法）
1	「スキルアップ」 ・絵本を読み、主人公のキャラクターや作者が作品を通して伝えたい思いを考える。 ・学習への見通しを持つ。	◎			・単元の見通しを持って、意欲的に学習に取り組もうとしている。 （観察・ノート）
2	「メロス会議」 ・全文を通読して、あらすじを確認し、感想をまとめる。	○	◎	○	・場面の展開や表現の仕方の工夫について考える学習に関心を持ち、意欲的に作品を読もうとしている。 （観察・ノート）
3 4 5	・「人質」を通読し、「走れメロス」の表現の違いに着目し、太宰が表現を付け加えた箇所を確認する。				・人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深めることができる。 （観察・ワークシート） ・喜怒哀楽を表す言葉などに注意して、作品を読み深めることができる。 （観察・ワークシート）
6 7 (本時)	「太宰会議」 ・太宰の文章の書き方の工夫や、その効果について根拠を明確にして意見を交流する。 ・太宰は、メロスを通してどんなことを読者に伝えたかったのか自分の意見を持つ。		◎	○	・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。 （観察・ワークシート） ・本文中の言葉を根拠にしなが、メロスを通して太宰が何を伝えたかったのか、まとめることができる。 （観察・ワークシート）
8	「完成」 ・前時までの学習を生かして「走れメロスリーフレット～太宰が伝えたかった思い」をまとめる。	○	◎	○	・「人質」と「走れメロス」を比較して、太宰が伝えたかったことをリーフレットとしてまとめることができる。 （観察・ワークシート）

5 本字の学習

(1) 目標

勇者メロスという人物を通して、作者は読者に何を伝えたかったのか考え、太宰が作品を執筆した意図について、自分の意見をまとめることができる。(読むこと)

(2) 本時のポイント (自己肯定感を高めるための手立て)

メロス像について話し合う場面では、誰もが自信を持って意見を発表できるようにしておく。また、グループ全体で感想や意見を述べ合うことで、他者の意見を認め、参考にしながら自分の意見を再考し、修正するようにする。

また、ユニバーサルデザインの視点から、絵本を提示して、前時に考えたことを可視化させることで、今回の学習の流れを確認させることや、角川書店から刊行されている「文豪シリーズ」を用いて、グッドモデルを提示することにより、課題のゴール地点が見えるようにしておく。

(3) 展開

学習活動・内容 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連 ※は本時の評価)
1 課題を確認する 勇者メロスを通して太宰は何を伝えたかったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> 本時は、「メロスはどんな勇者かを考える」ことで、「太宰が作品を通して読者に伝えたかったこと」はどんなものかを考える学習課題であることを伝える。 学習カードや黒板掲示物、角川書店の文豪シリーズなどを提示して、前時までの学習内容が復習、確認できるようにさせる。 (自己理解)
2 メロスはどんな勇者かを考える。 【観点】 ・本文から分かる勇者メロスとは？ ・「人質」に太宰が肉付けをしてはつきりと見える勇者メロスとは？ 【予想される生徒の反応】 ・正義感が強い・単純・友達を人質にする悪い人・約束は必ず守る	<ul style="list-style-type: none"> 【観点】に沿って、メロスがどんな勇者かを考える。 支援を必要とする生徒を重点的に机間指導し、考えの助けとなるようなヒントを出したり、友達の意見を参考にしよう助言することで付箋紙でアドバイスができるようにする。 今まで読み取ってきたことを基にしながら、課題について考えるよう助言する。
3 グループでメロスはどんな勇者か認識し全体で発表する。 【予想される生徒の反応】 ・思ったら即行動に移す。 ・人を信じる気持ちが強い。 ・単純な男	<ul style="list-style-type: none"> メロスはどんな勇者か、それぞれが考えたことをグループで共有し、発表ボードにまとめる。 友達の意見を基に、メロスはどんな勇者か自分の考えを広げる。 (人とかかわりの中での気づき) 友達の意見を聞いて修正したり、付け足したりした考えに関しては、色を変えて、視覚的に分かるようにする。 (観察・ワークシート) メロスは、勇者として活躍するものの、人間らしさをきちんと併せ持ったキャラクターであることを確認していく。
4 勇者メロスを通して太宰が何を伝えたかったのか、本時の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ※本時の活動を通して、どんなことが分かったか、太宰の作品に込めた思いを考えながら自分の意見をまとめることができる。 (自分への期待)

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	第8学年 国語	単元 教材名	走れメロス	配当 時間	8時間
担当 教員	渡部 由紀枝			教室	8年4組教室
学習 目標	勇者メロスという人物を通して、作者は読者に何を伝えたかったのか考え、太宰が作品を執筆した意図について、自分の意見をまとめることができる。				

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	「走れメロス」と「人質」を比較する。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A フークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
II 情報収集 A B	「走れメロス」と「人質」の違いを見つける。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
III 整理・分析	なぜ太宰治は「人質」に加筆をしたのか。太宰の意図を考える。	個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A フークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD、書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● J ディスカッション・話し合い
IV まとめ・表現	リーフレットを作成する	個 一斉 協	ア まとめる	● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F パンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD

成果	
課題	

公開授業Ⅱ

会場：並木中学校 10:40～11:30

教 科	学年・学級	単 元 ・ 題 材 名		指 導 者	教 室
保健体育	9年1組	薬物乱用の害と健康		中村めぐみ	9年1組教室
道 徳	9年2組	アンパンマンから学ぶ真のやさしさとは		永野 美涼	9年2組教室
英 語	9年3組	Presentation 1 日本文化	大窪 学 Motume Victor Mogaka		9年3組教室
数 学	9年4組	相似と比		菅谷 朋子	9年4組教室

1 単元 薬物乱用の害と健康

2 単元目標

- 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について関心をもち学習活動に意欲的に取り組むことができる
(健康・安全への関心・意欲・態度)
- 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について知識を活用したり科学的に考え判断し適切な対処方法を考えることができる。
(健康・安全についての思考・判断)
- 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について課題解決に役立つ基礎的な事項やそれらと生活の関わりを理解することができる。
(健康・安全についての知識・理解)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

文部科学省は3月に公示した新学習指導要領の中で保健分野における目標について「保健の見方・考え方」を働かせて健康についての資質・能力を育成することを示しており、「知識及び技能」については健康・安全についての科学的な知識や技能の定着を図るよう変更している。また「思考力、判断力、表現力等」の内容については健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うことを求めている。つまり健康課題を科学的に理解し適切に把握した情報を選択活用しながら課題解決を行い他者へ発信することが必要と考える。

本単元は生涯にわたって健康でたくましく生きる生徒を育成するために喫煙・飲酒・薬物乱用によってもたらされる健康への影響や様々な問題について早い時期から理解させていくことをねらいとしている。本学級生徒は、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について小学校でも学習してきているが、社会問題としての認識にとどまり、自己におきかえた知識・理解にはなっていない。また、心身への悪影響、生命への危険など、科学的な理解とともに、真の恐ろしさはわかっていないと考える。

そこで、本単元の課題を解決するプロセスの中で、タブレットなどを活用した「小学生に伝えるCM作り」を設定した。小学生に薬物乱用の恐ろしさを伝えることを目的とした30秒のCM（以下CNとする）にするためには、授業で得た知識を吟味し、厳選し、自己の考えを踏まえて編集しなくてはならない。つまり、CM作りを通して、薬物乱用の真の課題を見つけ、それらの理解を深め、課題に対する自分自身の解決方法や対処方法を考えさせたい。さらに、小学生へ伝えるといった相手意識を持つことで、年齢に応じた内容を選択、吟味し、受け手の視点を踏まえた思考力・判断力を働かせることで、教科の目標に迫りたい。

(2) 生徒の実態（人）

調査結果（平成29年7月 31人実施）

- | | |
|---|--|
| 1 | あなたが知っている薬物とはなんですか。（自由記述） |
| | ・覚醒剤・・・23人 ・薬（医薬品）・・・15人 ・合法ドラッグ・・・13人 ・よく分からない・・・13人 |
| 2 | 薬物乱用とはどういうことか知っていますか。 |
| | ・知っている・・・5人 ・何となく知っている・・・7人 ・あまり知らない・・・14人 ・知らない・・・5人 |
| 3 | 何で知りましたか（自由記述） |
| | ・テレビ・・・18人 ・小学校の授業・・・15人 ・親子行事・・・9人 その他・・・7人 |
| 4 | 薬物が与える体への影響はどういうものだと思いますか。 |
| | ・やめられなくなる・・・13人 ・脳へのダメージ・・・9人 ・興奮作用・・・3人 ・その他・・・6人 |

単元に入る前に、薬物についてのアンケートを行った。調査結果を見ると、覚醒剤以外の薬物については、ほとんど知識は無く、覚醒剤についてもテレビからの情報であることが分かる。また、乱用という言葉についてはイメージでしか捉えておらず、具体的な場面を理解しているとは言えない。このことから、生徒における薬物の知識は、テレビ等からの情報による物が大きく、正しい知識や科学的な理解をしているとは言えない。また、それらがどう健康に被害を及ぼすかや、その使用のされ方など、自分の身を守る方法にまで考えが及んでいないことが分かる。

これらのことから、本単元を通して、薬物乱用によってもたらされる健康への影響や様々な問題について科学的な知識と、それらに対処する方法を身に付けさせたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本単元では、「小学生に伝えるCM」作りを通して、学習内容である飲酒・喫煙・薬物乱用と健康についての科学的理解と課題解決に向けた思考力・判断力・表現力の育成を図ることを目的としている。まず、内容の科学的理解を図る場面ではタブレット上のOneNoteを活用して情報収集と、吟味を行う。生徒は個々に配付されたタブレットを活用することで、個人の思考を十分に働かせ、薬物乱用防止の重点を捉える場を設定することができる。【A自己理解】このことは、自己内対話を促

し、自己理解につながると考える。次に、CM作りのための伝える内容を吟味したり、厳選したりする場面においては、デジタル思考ツールを活用する。デジタル思考ツールは、他者の多様な意見を可視化し、それらを共有しながら解決に向けて対話を活性化することができる。【B人とのかわりの中での気づき】つまり、対話の際、可視化された意見を根拠に説明ができることから相互理解をしやすくなり、伝えることへ自信がもてたり、分かってもらえることに喜びを感じたりすることができ、自己肯定感が向上すると考える。さらに、小学生に伝えるといった相手意識をもつことで、自己有用感が得られ、それらは小学生からのフィードバックによりさらに高められると考える。【C自分への期待】CMづくりのプロセスにおいて、これらの手立てを講じることで、本研究主題に迫ることとした。

4 指導計画（3時間扱い）

時	学習内容	評価の観点			
		関	思	知	評価規準（評価方法）
1	・薬物乱用と健康 ・心身への様々な影響 ・健康を損なう原因	◎		◎	・薬物乱用と健康についてに関心を持ち自分の生活を振り返るなど、意欲的に取り組むことができる。（観察・発言） ・薬物についての害や、社会に及ぼす影響について科学的に理解することができる。（OneNote）
2	・個人の心理状態や人間関係社会環境などの要因に対する適切な対処について考える	○	◎		・薬物乱用の原因や背景について学習したことを生活事例と関連付け、説明することができる。（ブレインストーミング）
3 (本時)	・既習事項を元に、「小学生へ伝えるCM」を考える	○	◎	○	・薬物乱用防止の必要性を、分かりやすく伝えるために、既習事項を吟味し、自己の意見を踏まえて内容を考える事ができる。（デジタル思考ツール）

5 本時の指導

(1) 目 標

- ・喫煙・飲酒・薬物乱用と健康についての大切さを伝えることに意欲的に取り組むことができるようにする。（健康・安全への関心・意欲・態度）
- ・喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について知識を活用したり科学的に考え判断し小学生に伝える適切な対処方法を考えることができる。（健康・安全についての思考・判断）

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

科学的理解を図る場面では、個々に配付されたタブレットを活用することで、個人の思考を十分に働かせ、自己の意見をしっかりとまとめる。このことで、自己内対話を促し、自己理解につながると考える。CM作りのための話し合いにおいては、デジタル思考ツールを活用して、他者の多様な意見を可視化し、それらを共有しながら解決に向けて対話を促すことで人との関わりの中でも気づきをもたせる。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)
1 本時の課題を確認する。 薬物乱用防止の大切さを小学生に伝えるCMを作ろう。	・CM作りへの意欲をもたせるため、小学生へのインタビュー映像を流しながら課題を説明する。
2 課題を解決する。 (1) 既習事項から小学生に伝えるべき、必要な知識や伝えたいことを考える。 ・薬物って何かを知らせる。 ・薬物の健康に及ぼす害について。	・個の意見を持てるように、各自に配付されたタブレットに表示されたデジタル思考ツールに書き込むよう伝える。（自己理解） ・意見が持てない生徒には、共有スペースから友達の見解を参考にするように伝える。 ※ 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康についての大切さ

- ・薬物の社会に及ぼす害について。
- ・自分自身を大切にすることを伝えたい。

(2) **それぞれの意見を出し合い、グループで伝えるテーマを内容を吟味する。**
(グループ)

〈視点〉

- ・小学生に薬物の健康被害と、社会的影響、乱用防止の必要性を短く、分かりやすく伝える

例	グループ 1 「薬物ってなに」
	グループ 2 「身体におこる影響」
	グループ 3 「社会での影響」
	グループ 4 「薬物のこわさ」
	グループ 5 「身近な人の気持ち」
	グループ 6 「誘われた時の断り方」

(3) **精査した内容を伝えるための台本作りする。**

- ・おおまかな流れを作る。(絵コンテ)
- ・役割分担をする。
- ・必要な画像資料を収集する。
- ・フローチャートで筋道を立てる

4 **次時の活動の確認を行い、本時の振り返りをする。**

を伝えることに意欲的に取り組むことができたか。
(健康・安全への関心・意欲・態度)

- ・友達に意見を分かりやすく伝えるために、タブレット上に画像資料を表示しながら説明するよう伝える。
- ・視点を明確にして、ブレインストーミングをするよう伝える。
- ・**マインドマップを共有することで、他者の多様な考えを知り、よさを認め合うことで、自分の考えを広げられるようにする。**

(自己理解・人とのかかわりの中での気づき)

- ・発言しにくい生徒には、ブレインストーミングであることを伝える。
- ・**自分の考えとの違いについて質問をしたり、応答したりすることで、自他の考えのよさに気付くようにする。(人とのかかわりの中での気づき)**

- ・30秒ごとのテーマをすべてつなげると一つの作品となるようにすることを伝える
- ・筋道立てて台本の流れを作れるように、デジタル思考ツールのフローチャートを活用するよう伝える。

- ・それぞれの得意分野をもとに、役割分担を行うようにする(自己理解・人とのかかわりの中での気づき)

※ 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について知識を活用したり科学的に考え判断し小学生に伝える適切な対処方法を考えることができる。

(健康・安全についての思考・判断)

- ・本時の作業を振り返り、課題に対する視点がずれていないかを確認させる。

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	9年	単元 教材名	保体	薬物乱用の害と健康	配当 時間	3時間
担任 氏名	中村 めぐみ				教室	9年1組 教室
学習 目標	・喫煙・飲酒・薬物乱用と健康についての大切さを伝えることに意欲的に取り組むことができるようにする。(健康・安全への関心・意欲・態度) ・喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について知識を活用したり科学的に考え判断し小学生に伝える適切な対処方法を考えることができる。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
Ⅰ 課題設定 A	① 学習課題の把握 「薬物乱用」が与える影響について考える ・薬物乱用と健康 ・心身への様々な影響 ・健康を損なう原因	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● ● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● ● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● ● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● ● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● ● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● ● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● ● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● ● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● ● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● ● J ウェビング
Ⅱ 情報収集 A B	② 情報収集 ・インターネット ・図書資料 ○個人の心埋状態や人間 関係社会 環境などの 要因に対する適切な対 ・生活事例との関連付け ・ロールプレイング	個 一斉 協	ア データ収集	● ● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● ● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● ● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● ● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● ● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● ● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● ● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● ● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● ● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● ● J スタディノート
Ⅲ 整理・分析	③ 「小学生に伝えるCM作り」 ・ワークシートで作成 ・グループで原稿についての話し合い	個 一斉 協	サ 作品等鑑賞・読み合い	● ● K プレインストミング・話し合い活動
		個 一斉 協		● ● L グループワーク
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
Ⅳ まとめ・表現	○「CMテーマを考える」 ・グループ内で情報共有 ・伝え方を考える 「CMの構成を考える」 ・OneNoteを使って画面構成 ・キャッチコピー作成 ④ 小学生との交流 ・作成CMのプレゼン ・反省、感想	個 一斉 協	ア 比較・分析する	● ● A ワークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● ● B 発表ボード(BIG PAD,書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● ● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● ● D タブレット(OneNote)
		個 一斉 協	オ 推敲	● ● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● ● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● ● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● ● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● ● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● ● J ディスカッション・話し合い
		個 一斉 協	ア まとめる	● ● A ワークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ)プレゼンテーション	● ● B)プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● ● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● ● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● ● E)PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● ● F パンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● ● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● ● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● ● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● ● J)タブレット・ホワイトボード・BIG PAD
		個 一斉 協		● ● K)自己評価カード・振り返りカード
		個 一斉 協		● ● L スキルアップ表
		個 一斉 協		● ● M いいねカード・相互評価カード(付箋等)
		個 一斉 協		● ● N 動作化・ロールプレイング
		個 一斉 協		● ● O 演示、(実験)
		個 一斉 協		● ● OneNote
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		
		個 一斉 協		

成果	
課題	

1 主題名 アンパンマンから学ぶ 真のやさしさとは… B-(6) 思いやり・感謝

2 ねらいとする価値について

人は、自分の弱さを乗り越え、崇高な美しい生き方を望む気持ちがある。しかし、自分さえよければいいという自己中心的な心や、人の幸せをねたむ醜い心をもつこともある。だからこそ、人間に対する深い理解と共感を持ち、だれに対しても温かいまなざしを向け、思いやりの心で接することが大切である。内容項目 B-(6)は「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること」をねらいとしている。小学校では高学年で、相手の立場に立ち、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、全ての人に思いやりをもてるように指導している。他者との関わりの中で、温かい人間愛や思いやりの精神を深め、これを身に付けることは非常に重要なことである。

しかし、人に思いやりのある行動や施しを与える中で、時には自分にとって痛みを伴うことがあったり、心の葛藤があったりすることもある。そのような状況での人との関わりの中で、周りを思いやる最善の選択ができるようにしていくことで、人間として崇高に生きる喜びも生まれてくることに気づかせ、主題に迫っていききたい。

3 授業で大切にしたいこと

(1) 資料について

本時で扱うアンパンマンは、生徒の誰もが知っているヒーローである。現在テレビで放送しているものとは少し異なり、初期のアンパンマンは、貧困に苦しむ人々を助けるという内容で、子どもには難しく、編集部や批評家、教員などから酷評されたという過去がある。しかし、次第に子どもたちの間で人気を集め、幼稚園や小学校からの注文が殺到するようになった。作者のやなせたかしさんは戦争経験者であり、やなせさんの弟は特攻隊として戦場で生涯を閉じている。これらの経験からやなせさんは「本当の正義とは決して格好いいものではなくむしろ自分も深く傷つくもの。そういう捨身・献身の心なくして正義は行えない。だからこそアンパンマンはボロボロのマントを着て自分を食べさせることによって飢える人を救うのだ」と話している。誰もが知っている身近で分かりやすい題材・内容を取り上げることによってねらいに迫っていききたい。

(2) 生徒の実態 (33人) 調査結果 (平成29年7月10日 32人実施)

- ・これまでに、やったほうが良いと分かっている、行動に移せなかった経験があるか。
また、それはなぜか。
ある (27人) 【時間がない・他がやると思った・面倒くさかった・周りが気になった 等】
ない (5人) 【かわいそう・自分が困ったときに助けてもらったことがあった 等】
- ・生きていくうえで、人と関わりを持つことは大切であると思っている。
思っている (31人) 思っていない (1人)
- ・道徳の授業で、自分の意見や考えを整理し、相手に分かりやすく伝えることが得意である。
得意である (19人) 得意ではない (13人)

本校の生徒は、様々な人々とのかかわりをもって生きていることは理解している。しかしアンケート調査から、気持ちとしては行動をおこしたほうが良いと思っても、様々な理由から行動に移せなかったという経験をした生徒が多い。

また、普段の授業で生徒のワークシートを見ると、自分の考えや心情などを言葉で表すことができる生徒が多いが、生徒への調査では、「自分の意見や考えを整理し、相手に分かりやすく伝えることが得意である」という項目に対して「得意ではない」と答えた生徒が12名とやや多いことから、自己肯定感の低さが課題である。

(3) 研究テーマに迫るために

本時で取り扱う題材を小学校と同じものにし、価値項目やねらいの難易度を変えることで、生徒自身も小学校からの成長を感じることができると考えた。小学校では、登下校や給食、行事等でお世話になった現中学生へ尊敬・感謝の気持ちを持つことをねらいとした学習を行っている。中学校では、人に思いやりのある行動や施しを与える中で、時には自分にとって痛みを伴うことがあったり、心の葛藤があったりすることもある中で、周りを思いやる最善の選択ができるようにしていくことをねらいとしている。

また、生徒が自己肯定感を高めるためには、自己理解や自己受容を進めるとともに、様々な体験を通して成就感や達成感を味わったり、他者から認められたりすることによって、自分への肯定的な気付きを促すことが大切であると考えた。本時では、生徒達が小学生時代にお世話した小学生からの手紙を最後に披露する。「自己犠牲」という難しい課題が出てくるが、小学生時代、自分達が下級生に対して行っていた給食補助や行事でのお世話等が思いやりや優しさによるものであることを改めて実感し、普段生活しているうえでの小さなことでも成就感や達成感を味わうことができ、自己肯定感を育むことができると考える。

4 本時の指導

(1) ねらい

思いやりの心をもって人と接するとともに、友達や家族など、多くの人々の支えや善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

本時では、思考ツールを取り入れたり、グループでの話し合い活動を取り入れたり、言語活動を充実させることで、多様な考えや新たな見方、考え方を受け入れ、一人一人の考えや活動を認め合う機会を設定した。自分も他の人もかけがえのない存在として大切にしようとする心、深く思いやる心をもって人に接しようとする気持ちを育てたい。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連 ※は本時の評価)
<p>1 ねらいとする価値への方付けをする。</p> <p>2 生徒がイメージするヒーローを挙げる。</p> <div data-bbox="220 607 608 779"> </div> <p>3 アンパンマンについて話し合う。</p> <p>(1) アンパンマンの絵を描いてイメージを持つ。</p> <div data-bbox="225 891 778 974"> <p>・正義の味方 ・優しい ・仲間が多い ・顔をたべさせる ・誰にでも平等</p> </div> <p>(2) 真のヒーローにはどのようなことが必要だと考えられるか、グループで意見交換を行った後、全体で共有する。</p> <div data-bbox="188 1093 742 1279"> </div> <p>(3) アンパンマンのマーチの歌詞を解釈して、やなせさんが伝えたかったことはどのようなことなのかを考える。</p> <div data-bbox="225 1406 778 1547"> <p>・自分を犠牲にしても役に立つことが自分の喜びや幸せに繋がることがある。自分の幸せも大切。 ・弱い自分にも負けない。</p> </div> <p>4 真の優しさや思いやりとはどのようなことなのかを考える。</p> <div data-bbox="225 1659 778 1765"> <p>・自分が不利になったとしても、相手のためを思って行動できること。 ・自分も大事にしなければいけない。</p> </div> <p>5 並木小学校と桜南小学校で関わりを持った4年生の児童からの手紙を読む。</p> <p>6 今の自分を振り返るとともに、今後実生活でどのようなことができるかを考える。</p> <div data-bbox="225 1921 778 2056"> <p>・困っている人がいたら助けてあげたい ・感謝の気持ちを持って生活したい ・自分の幸せを大切にしながら、周りの人たちも大切にしたい。</p> </div>	<p>・本時の学習に、興味・関心・意欲をもって学習に取り組めるようにするとともに、ねらいとする道徳性を把握する。</p> <p>・思考ツール（ピラミッドチャート）を用いて、自分の考えを簡単に整理し、わかりやすくまとめられるようにする。 (自己理解)</p> <p>・考えを出せずに困っている生徒には、具体的なヒーローの例を挙げて考えさせていく。</p> <p>・グループで話し合い、他者の多様な考えを知り、良さを認め合うことで、考えを広げられるようにする。 (人とのかかわりの中での気づき)</p> <p>・生徒の言葉を使い、人の役に立ったことを実感できるようにする。 (自分への期待)</p> <p>・発問に対してアプローチしやすいようにするため、アンパンマンの顔がない姿や、マントがボロボロになっている姿などを見せる。</p> <p>・生徒の発表から発展させて揺さぶりをかける。 (例) ・優しさだけでヒーローになれるの？ ・自己犠牲が大切なのは分かるけど、自分はボロボロになってもいいの？</p> <p>・グループで話し合うことで、他者の多様な考えを知り、良さを認め合うことで、自分の考えを広げられるようにする。 (他者理解)</p> <p>・注目してもらいたいポイントを助言する。 (例) ・繰り返して出てくる言葉って何だろう？ ・仲間はたくさんいるはずなのに「愛と勇気だけが友達」ってどういうこと？ ・アンパンマンの「生きる喜び」って何？</p> <p>・様々な意見を参考に、自分自身がどのようなことが必要であるのかを考えることで、実生活において何かあったときに適切な判断・行動がとれるようにする。 (自分への期待)</p> <p>・後輩から教えられた自分達の良さを加味して、自分の良さへの理解を深めるとともに、優しさや思いやりのある行動を取ることで、自分も他の人もかけがえのない存在として大切にしようとする心を持たせる。 (他者理解・自分への期待)</p> <p>・考えが浮かばない生徒へ助言を行う。 (例) ・自分もヒーローだったよね。その時にはどんなことをした？ ・自分達の良い所を活かすことでヒーローになれることもあるよね。</p> <p>※思いやりの心をもって人と接するとともに、多くの人々の支えや善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応えようと考えることができる。 (ワークシート)</p>

1 単元 Presentation 1 日本文化紹介 (NEW HORIZON English Course 3)

2 単元目標

- アイコンタクトやジェスチャーを交えて積極的にコミュニケーションを行おうとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 声の大きさや抑揚に気を配り、文化や日常的な話題について会話することができる。(外国語表現の能力)
- 会話を通してその内容や他国の文化について理解することができる。(外国語理解の能力)
- 日本文化について、適切な情報を収集し、身につける。(言語や文化についての知識・理解)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

本単元では、Unit 1 で触れた日本文化について知識を深めると共に、その内容を基に発表ややり取りを通して表現力の向上をねらいとする。特に定められた言語材料はないが、実生活の中での挨拶やうなずきといった表現や、今年度に学習した受動態や現在完了形といった文法を特に活用したい。できる限り実生活でのコミュニケーションに場面を設定することで、より実践的な活動にする。また、Unit 1 では紹介されなかった日本文化について自分で調べることで自国文化についての知識を深めると共に、外国人と文化について情報交換することで国際的な視野を養うことにつながる。

小学校では毎単元の最後に言語活動、コミュニケーション活動が扱われており、生徒は5年間、継続して発表形式の活動を行ってきた。また、小学校外国語活動の教材である *hi, Friends!* でもジェスチャーやアイコンタクト、強勢や間の取り方など、非言語的な表現についても学習をしているため、改めて会話の際の工夫の大切さにも触れ、指導をしていく。

(2) 生徒の実態 (32人) 調査結果 (平成29年5月15日 30人実施)

調査では、「発表形式の話す活動が好きではない」という生徒は半数いる。その一方で、「発表形式の話す活動ができる」という生徒は70%いる。これは、昨年度から継続的に話す活動に取り組んできた成果だと考えられる。本単元でも第1時と第2時プレゼンテーション活動を通して、発表形式の活動により自信を持たせたい。その自信を第3時と第4時の「やり取り」の活動に生かし、相互コミュニケーションでの達成感を得られるようにする。

回答は A: とても当てはまる B: どちらかという当てはまる
C: どちらかという当てはまらない D: まったく当てはまらない

問1 プレゼンテーションのような発表形式の活動が好きである。

A: 9人 B: 6人 C: 12人 D: 3人

問2 簡単なプレゼンテーションのような発表形式の活動ができる。

A: 9人 B: 12人 C: 7人 D: 2人

問3 自国文化(日本文化)に興味がある。

A: 14人 B: 13人 C: 2人 D: 1人

問4 異国文化(外国の文化)に興味がある。

A: 20人 B: 10人 C: 0人 D: 0人

また、国際社会においては、様々な価値観や視点を学び、相互に理解し合うことがとても重要であるが、まずは自己を理解することが必要不可欠だと考える。そこで、本単元のコミュニケーション活動を通して異国文化を学ぶだけでなく、自国文化の良さに気づかせることで、自己の本質や自己理解にもつなげたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本単元では、生徒は自分で調べた内容について英語で原稿を書き、ビデオ交流プログラムを通して外国人と英語を使って交流する。外国人とのコミュニケーションを通して多様な表現方法(発音や強勢)があることに気付くと共に、自分自身の表現も認められる(人とかかわりの中での気付き)ように促していく。

また、自己肯定感を高めるために、生徒一人一人に「できる喜び」を感じさせたい。(自分への期待)そのためにグループで活動を行い、一人一人の負担を軽減すると共に学び合い、助け合いを通してすべての生徒が少しでも「聞く、話す」ことで、達成感を味わわせたい。

4 指導計画(4時間扱い)

時	学習内容	評価計画				
		関	表	理	知	評価基準(評価方法)
1	日本文化について調べ、発表するための原稿を作成する。	○	◎	○	○	・日本文化について発表原稿を作り、その内容を発表することができる。 (ワークシート・観察)
2	日本文化について発表する。	◎	◎	○		・日本文化について、調べた内容を発表することができる。 (観察)
3	ビデオ交流プログラムを通して、外国人と交流する。	◎	◎	○		・積極的にコミュニケーションを行おうとする。 (観察)
4 (本時)	ビデオ交流プログラムを通して、外国人と交流する。	○	◎	◎		・表現に気を配り、文化や日常的な話題について会話ができる。 (観察)

5 本時の学習

- (1) 目標 ○声の大きさや抑揚に気を配り、文化や日常的な話題について会話することができる。
○会話を通してその内容や他国の文化について理解することができる。
- (2) 授業のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

自分で調べた内容について、英語で原稿を書き、ビデオ交流プログラムを通して外国人と英語を使って交流する。外国人とのコミュニケーションを通して多様な発音や強勢があることに気付くと共に、自分の発話に文法や発音の間違いがあっても会話が成立するという経験をする中で、自分自身の表現も認められる（人とかかわりの中での気付き）ように促していく。

また、生徒一人一人に「できる喜び」を感じさせたい。（自分への期待）発話だけでなく、話す速度やジェスチャーなど、言語ではない表現手段にも重点を置くことで、より実践的なコミュニケーションを目指すと共に、発話が苦手でも会話が成立することを実感させたい。すべての生徒が様々な表現方法を通して「聞く・話す」を成功させることで、達成感を感じることができるようになる。

(3) 展開

学習活動及び内容 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連 ※は本時の評価)
<ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつ・ウォームアップをする。 ・本時の目標に関連した単語を発話する。 2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">スカイプを通して、実際に外国人と異文化交流をしよう。</div> 3 会話の際の大切なポイントを確認する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 非言語的なポイントを押さえる。 ・アイコンタクト ・ジェスチャー ・声の大きさ ・発話の速さや間の取り方 (2) 基本的な表現を発話する。 ・Wow! ・Really? ・I think so, too. ・I agree with you. ・Sounds nice. ・I'd like to. (3) 教科書のモデル文を読む。 4 ビデオ交流プログラムで外国人と交流する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) ビデオ交流プログラムの使い方を確認する。 (2) 簡単な挨拶と自己紹介をする。 ・4人ずつグループを作り、グループごとに1台のPCを使って交流をする。 (3) グループで国や文化について紹介する。 ・1つの話題について1人の生徒が紹介する。 (4) グループで、話し相手の国の文化について聞いたり、質問したりする。 5 本時の振り返りを行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 振り返りカードに感想や気付いたことについて書く。 (2) 全体の前で、会話の内容や感想を発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに発表することができた。 ・相手の話す内容が何となく分かった。 ・いつもと違う発音で分かりにくかった。 ・緊張した。 ・お互いの国の文化について話した。 ・名物や食べ物について会話をした。 </div> 6 あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容に触れることで、生徒の意欲を引き出す。 ・「交流」の意味について触れる。 ・目標を明確に伝えと共に、コミュニケーションを楽しむよう声をかける。 ・会話の際の大切なポイントについて発問すると同時に、それらを実践することで、生徒の手本となる。 ・一文を語句で区切りながら読むことで、読みやすくなるだけでなく、内容を理解しやすくなることを実感させる。 ・多様な表現方法があることに気付くと共に、自分自身の表現も認められる。 (人とかかわりの中での気付き) ・グループで行うことで、生徒の不安を軽減させつつ、全員が「話すこと」と「聞くこと」をすることで、達成感を感じさせる。 (自分への期待) ※声の大きさや抑揚に気を配り、文化や日常的な話題について会話することができる。 (観察) ※会話を通してその内容や他国の文化について理解することができる。 (観察・ワークシート) ・振り返りを実施することで、生徒の実態の把握に努め修正点の洗い出しを行う。 ・机間指導を通して、個別に感想を聞くと共に発表者を選出するよう心掛ける。 ・生徒の発表には、良い点を見つけ必ず称賛を与えると共に、全体にも拍手を促す。 ・次時の学習内容を連絡することで、見通しをもつように促す。

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	9年	単元 教材名	英語	Presentation 1 日本文化紹介	配当 時間	4時間
授業 形態	大窪 学				教室	9年3組 教室
学習 目標	外国人との交流を通して、文化や日常的な話題について会話することができる。。					

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	① ○学習課題の把握 ・「表現」にとって大切なことを確認する。 ・言語的能力と非言語的能力について学ぶ。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	●
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	●
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	●
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	●
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	●
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	●
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	●
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	●
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	●
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	●
II 情報収集 A B	○情報収集 ・インターネット ・図書資料	個 一斉 協	ア データ収集	●
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	●
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	●
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	●
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	●
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	●
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	●
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	●
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	●
		個 一斉 協	コ 学習計画	●
III 整理・分析	○原稿作り ・ワークシートで作成 ・グループで原稿についての話し合い	個 一斉 協	ア 比較・分析する	●
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	●
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	●
		個 一斉 協	エ 検討・考察	●
		個 一斉 協	オ 推敲	●
		個 一斉 協	カ 意見交換	●
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	●
		個 一斉 協	ク 再考	●
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	●
		個 一斉 協		
IV まとめ・表現	③ ○日本文化紹介 ・グループ内で発表 ・教室全体の前で発表 ○外国人との交流① ・ビデオ交流プログラムの活用 ・反省、感想 ④ ○外国人との交流① ・ビデオ交流プログラムの活用 ・反省、感想	個 一斉 協	ア まとめる	●
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	●
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	●
		個 一斉 協	エ 考察する	●
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	●
		個 一斉 協	カ スピーチ	●
		個 一斉 協	キ 発展させる	●
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	●
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	●
		個 一斉 協	コ 振り返る	●

成果	
課題	

第9学年4組 数学科学習指導案

指導者 T1 菅谷 朋子
T2 平田 雅一

1 単元 相似と比

2 単元目標

- 様々な事象を相似な図形の性質でとらえたり、平面図形の基本的な性質や関係を見いだすことができる。
(数学への関心・意欲・態度)
- 身近なことがらに潜む、相似な図形の性質の関係や法則を見出したり、その過程を筋道を立てて説明することができる。
(数学的な見方や考え方)
- 相似な図形の性質、三角形の相似条件などを、数学の用語や記号を用いて簡潔に表現することができる。また辺や線分の長さを求めたり、相似な図形の面積や表面積や体積を求めることができる。
(数学的な技能)
- 相似の意味、三角形の相似条件、平行線と線分の比についての性質、相似比と面積比、体積比の関係を理解することができる。
(数量や図形などについての知識・理解)

3 授業で大切にしたいこと

(1) 単元について

小学校算数科においては第2学年では、三角形や四角形概念を学び、第6学年で、図形についての観察や構成などの活動を通して、縮図や拡大図について学習している。二つの図形の形が同じであることも縮図や拡大図を通して理解している。7年生では、平面の図形において、対象移動や回転移動など、同じ形をずらす、まわす、裏返すといった活動を通して、同じ形が存在することを学習してきている。また、第8年生では、三角形の合同条件を用いて、三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることを学習している。また相似な図形の線分を求めるときに必要な比例式とその解き方を、第8学年の時に一次方程式と関連づけながら学習してきた。第9学年では、三角形の相似条件などを用いて、平行線と線分の比の性質、相似な図形の相似比と面積比及び、体積比の関係などについて学ぶ。また、それらを使って図形の性質を考察したり、証明したり、それらを日常生活の具体的な場面で活用したりする力を養っていく。

(2) 児童の実態 (30人) 調査結果 (平成29年7月18日 30人実施)

① 複数の三角形から、合同な三角形を選ぶ。	正答 27人 (90%)
② 複数の三角形から、合同な三角形を記号を使って表しなさい。 また、合同条件もいいなさい。	正答 18人 (60.0%)
③ 比例式を解きなさい。	正答 23人 (76.7%)

調査では、複数の三角形から、合同な三角形を選ぶことは、多くの生徒が理解している。その一方で、記号を用いて2つの合同な三角形を表す場面では、対応する頂点の順番でかけていない生徒がいた。そういったケアレスミスを防げるように、対応する頂点の順番で書く約束の確認と、頭の中で図形を回転させて対応する頂点を確認する作業を丁寧に指導していきたい。また、本単元で必要となってくる比例式の計算では、比の性質は理解している生徒はほとんどであったが、少数やかっこが入ってくると途中の計算を間違える生徒が見られた。 $a:b = c:d$ ならば $ad=bc$ であることを再度丁寧に確認しながら、少数、カッコのある一次方程式の確認をしながらわかったという経験をさせていきたい。

(3) 研究テーマに迫るために

本単元では、小学校で習った縮図や拡大図のときの絵をみせることによって、系統的に算数・数学が成り立っていることに気付かせたい。また、実際に測ることのできない建物や木の高さを相似な図形を利用して求められることを実際に測る作業を通して、相似の考えが日常にも生かされていることも考えさせたい。実際に測る作業を取り入れることによって「できた」「これならできる」という、自分への期待につなげていく。計算していく場面は、少数やかっここのついた1次方程式に課題を要する生徒もいるので、グループ活動で行う。話合いの中で、自分が理解できている部分と、もう少し練習が必要な部分に気付かせ、一人では解決できない問題を教え合う中で、さらに発展した問題にも意欲的に取り組めるように支援していく。

また、ほかにこの考えで求めることができるものがあるか考えさせることによって、次の授業での日常にひそむ相似な図形をみつけないという意欲につなげていく。

4 指導計画 (19時間扱い)

1 節 相似な図形	・・・ 6 時間
2 節 図形と比	・・・ 6 時間
3 節 相似な図形の面積と体積	・・・ 3 時間
4 節 平方根の利用	・・・ 3 時間

時	学習内容	評価計画			
		関	思	技	知
1	相似な図形の性質を使って、実際に測ることのできない距離や高さを求める方法を知り、測定する。	◎		○	◎
2 本時	相似な図形の性質を使って、距離や高さを求める方法を知り、求める。		◎	○	

評価計画	
評価基準 (評価方法)	
・相似な図形性質を使って、距離や高さを求める方法を知り、測定することができる。 (観察・ノート)	
・相似な図形性質を使って、距離や高さを求める方法を知り、求めることができる。 (観察・ノート)	

3	相似な図形の性質を利用して、日常場面の問題を解決する。	○ ◎	・相似な図形の性質を利用して、日常場面の問題を解決することができる。 (観察・ノート)
---	-----------------------------	-----	--

5章の問題・・・1時間

5 本時の指導

(1) 目標

- ・相似な図形の性質を使って、距離や高さを求める方法を知り、求めることができる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

実際に高さを図らなくても、相似な図形の性質を使って木の高さを求める活動の際に、4人組での話し合い活動を取り入れることで、他者の意見を参考にしながら自分の考えを持てるようにする。さらに、グループでの交流をいれることで、自分の意見に自信を持ったり、よりよい説明とはなにか、と考え、自分への期待を高めたい。

(3) 展開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)		主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連※は本時の評価)	
		T 1	T 2
1 本時の問題を知る。	並木中のシンボル「とちのき」の高さを、直接測らずに求めてみよう。	・前時に行った、実際に測ることのできない木の高さを測った。前時動画または、写真でとった様子を授業の始めにみせることによって、本時の課題への意欲を喚起する。	・問題を配付し、机間指導をし、特に遅れがちな生徒に声かけを行う。
2 本時の課題を確認する。	【課題】 次の①～③の方法のどれかを使って、並木中のシンボル「とちのき」の高さを調べよう。 ① タレスの方法 ② 江戸時代の数学書「塵劫記」の方法 ③ 測定器具を作って測る方法	・また、前時で探した直接測らずに高さを求める方法を全体で確認する。 ・その測定結果をもとに、問題提示をし、本時の課題を確認し、学習の見通しをもって取り組めるようにする。	・P Cの操作を行う。 ・理解に時間のかかる生徒の側について解説する。
3 自力解決をする。	--【予想される考え方】----- ①ア、 $\begin{array}{l} 1. \quad 5 : 34.32 = 1 : x \\ 1. \quad 5x = 34.32 \\ x = 22.88 \end{array}$ イ、 $\begin{array}{l} 1. \quad 3 : 29.77 = 1 : x \\ 1.3x = 29.77 \\ x = 22.9 \end{array}$ ウ、 $\begin{array}{l} 1.2 : 24.2 = 1 : x \\ 1.2x = 24.2 \\ x = 20.1 \end{array}$	・早く解いた生徒には、他の生徒の計測結果を用いて自分のと比較検討させる。 グループで話し合うことで、他者の多様な考えを知り、よさを認めあうことで、自分の考えを広げられるようにする。(自己理解)	・一人で考えることが難しい場合には、今までのヒントカードを渡し、自分の考えや意見をもてるようにする。 ・活動が進まない生徒には、前時に学習した考えを確認するよう助言する。
4 グループで考えを話し合う。		・グループで話し合う際にウのように、値が他と違うことが予想されるので、誤差について気付いた生徒がいなか機間支援の時に確認し、全体でとりあげる。	・話し合いが滞っている班には、どの方法がよりよかったのかをふったり、値の違いを指摘するなど問題提起をし、全体につなげる。
5 比較検討する。(グループ→一斉)	・他の方法での答えを確認し、どの方法がよりよいのかを考えさせる。	自分の考えとの違いについて質問したり、応答したりすることで、自他の考えのよさに気付くようにする。 (人とのかわりの中での気付き)	
6 学習のまとめをする。		※様々な測量の仕方に興味を持ち、距離や高さを求める方法を知り、求めることができる。(ワークシート、観察・発表)	
7 適用問題を解く。	・並木小や、桜南小の木の高さを求めてみよう。	様々な方法を知り、実際に測れなくとも計算で求められることを理解し、他にも適用することができることを感じられるようにする。 (自分への期待)	
8 本時の振り返りを行い、次時の見通しをもつ。			

言語活動を充実させる単元デザインシート

学年 教科	9学年・数学	単元 教材名	相似と比	配当 時間	19時間
担任 氏名	菅谷 朋子			教室	9年4組教室
学習 目標	相似な図形の性質を使って、距離や高さを求める方法を知り、求めることができる。				

場面	構想メモ	学習形態	児童・生徒に何をさせたいか	言語活動を充実させる手立て
I 課題設定 A	① 相似な図形の性質を使って、実際に測ることのできない距離や高さを測定する。	個 一斉 協	ア 資料に着目する	● A フークシート
		個 一斉 協	イ 資料を比較する	● B 発問・補助発問の工夫
		個 一斉 協	ウ 体験活動前に予想する	● C 画像・写真・動画の提示(BIG PAD等)
		個 一斉 協	エ 複数の資料に着目する	● D 学習カード・短冊
		個 一斉 協	オ 体験活動を振り返る	● E キーワード提示
		個 一斉 協	カ 資料の推移を推測する	● F 動作化・デモンストレーション
		個 一斉 協	キ 問題を焦点化	● G グッドモデル・模範作品・演技の提示
		個 一斉 協	ク 学習問題をウェビングで類推する	● H 曲を流す
		個 一斉 協	ケ 学習の見通しを持つ	● I KJ法
		個 一斉 協	コ 学習への興味喚起	● J ウェビング
II 情報収集 A B	③ 相似な図形の性質を利用して、日常場面の問題を解決する。	個 一斉 協	ア データ収集	● A アンケート調査(シートの工夫)
		個 一斉 協	イ 根拠の収集	● B インターネット検索(記録シートの工夫等)
		個 一斉 協	ウ 気付きの集約	● C 図書資料で対照する・選択する
		個 一斉 協	エ 情報等の選択する	● D 思考ツール
		個 一斉 協	オ 実験・観察記録	● E 付箋
		個 一斉 協	カ 試し(練習等)	● F カード類(絵、言葉、意思表示等)
		個 一斉 協	キ 活動記録(発表の録画)	● G 実験・実演・動作化
		個 一斉 協	ク 文章等の構成を考える	● H 見学
		個 一斉 協	ケ 要約・あらすじの理解	● I ワークシート
		個 一斉 協	コ 学習計画	● J スタディノート
III 整理・分析	② 相似な図形の性質を使って、距離や高さを求める方法を知り、求める。	個 一斉 協	ア 比較・分析する	● A フークシート
		個 一斉 協	イ 情報を整理し選択する	● B 発表ボード(BIG PAD, 書画カメラ等も含む)
		個 一斉 協	ウ 質疑応答	● C 付箋・構成メモ・短冊
		個 一斉 協	エ 検討・考察	● D タブレット
		個 一斉 協	オ 推敲	● E カード類(得点カード、絵カード、チェックカード)
		個 一斉 協	カ 意見交換	● F 動画・録画機能
		個 一斉 協	キ 自己評価・他者評価	● G 構成的板書
		個 一斉 協	ク 再考	● H データベース活用
		個 一斉 協	ケ 問題解決(自力・協働)	● I ロールプレイ
		個 一斉 協		● J ディスカッション・話し合い
IV まとめ・表現	④ 相似な図形の性質を使って、距離や高さを求める方法を知り、求める。 〔本時〕	個 一斉 協	ア まとめる	● A フークシート・学習カード
		個 一斉 協	イ プレゼンテーション	● B プレゼンテーション
		個 一斉 協	ウ 加工・構成・編集する	● C 新聞作成
		個 一斉 協	エ 考察する	● D レポート作成
		個 一斉 協	オ 伝え合う・共有する	● E PCでまとめる・スタディノート
		個 一斉 協	カ スピーチ	● F バンフレット・リーフレット作り
		個 一斉 協	キ 発展させる	● G ポスター作成
		個 一斉 協	ク 主張する・発表する・説明	● H パネルディスカッション
		個 一斉 協	ケ 感想を持つ	● I ディベート
		個 一斉 協	コ 振り返る	● J タブレット・ホワイトボード・BIG PAD

成果	
課題	

公開授業Ⅲ

会場：並木中学校 10:20～11:30

教 科	学年・学級	単 元 ・ 題 材 名	指 導 者	教 室
特別活動	並木中 7年生	学園ハートフルフォーラム (10:20～11:30)	並木中 栗 寄 藤 夫 田 村 俊 介 宮 國 泰 人 高 田 明 中 山 一 機	並木中 体育館
	桜南小 5年生		----- 桜南小 嶋山登美子 樋口 諒	
	並木小 5年生		----- 並木小 島 田 洋 子 吉 村 哲 一	

第5学年・第7学年 集会活動学習指導案

指導者 並木中 栗寄藤夫 宮國泰人 中山一機 田村俊介 高田明 山中桂
並木小 島田洋子 吉村哲一 桜南小 嶋山登美子 樋口諒

1 集会名 桜並木学園ハートフルフォーラム

2 活動のねらい

桜並木学園の生活における共通の課題について、その原因や解決策を話し合い、実践することによりよい学園を築きあげていこうとする態度を養う。

3 授業で大切にしたいこと

(1) ハートフルフォーラムについて

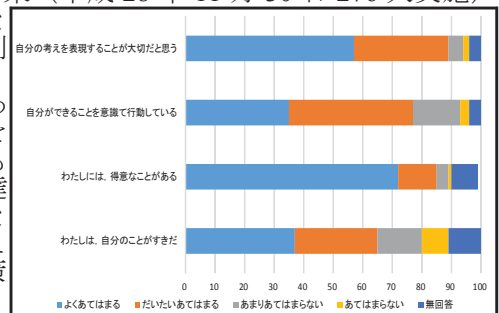
本学園では3年前から人権教育および小中一貫教育の一環としてハートフルフォーラムを行ってきた。「フォーラム」とは、公開討論会や情報交換会を意味する言葉であり、これまでに「桜並木学園の人権宣言」、「いじめ撲滅のためにできること」、「人や環境にやさしいまちづくり」など、話し合いのテーマを年度ごとに設定し、学園内3校の児童生徒が交流を深めてきた。

本年度は、5年生と7年生を対象にハートフルフォーラムを計画した。5年生は、小学校における準リーダー的存在である。フォーラムを通して考えた課題の解決策を次年度にかけて実践し、その成果を最高学年時に振り返ることで学校生活に生かしていくことができる。一方、7年生は、2年前にフォーラムを経験し、当時の同級生や上級生たちとともに学校生活を始めている。中学校という新しい環境の中で、もう一度学園全体の課題や目標を考え、主体的に実践していくことが期待できる。さらに、5年生と7年生の双方にとって、同じ目的意識をもった学園の仲間としての連帯感や自他を尊重する態度を育てることができると考える。そして、児童生徒が望ましい人間関係を築く力を培い、各々の自己肯定感を高める活動にしていきたい。

(2) 児童生徒の実態 (276人)

調査結果 (平成28年11月30日 276人実施)

集団生活において自分の考えを表現することが大切だと答えた児童生徒が9割いる一方で、自分ができることを判断して行動していると答えた児童生徒は8割を下回った。また、得意なことがあると答えた児童生徒が8割以上であるのに対し、自分のことが好きと答えた児童生徒は7割を下回った。この結果から、大切だとわかっていることでも他者からの評価が気になり行動や発言をためらったり友達の行動に合わせてたりすることで十分に自己を肯定することができないという傾向を見取ることができる。こうしたことを児童生徒が自らの課題として捉え、その原因や解決策について話し合い、実践する活動を展開していきたい。



(3) 研究テーマに迫るために

集会活動の準備段階では、昨年度のハートフルアンケートの結果をグラフ化した資料を配付し、各校の課題を一人一人が考えて各自のワークシートに記入する場面を設ける。そうすることで、学園の課題に対して主体的に話し合おうとする意識を高めたい。また、グループ学習での受け答えの仕方や司会進行の流れなどを事前に各校で指導することで、活動に自信を持てるようにする。

交流の場面では、アイスブレイクや名刺交換、小グループの編成などを行うことにより、児童生徒が相手を意識し、かかわりを広げることができるようにしたい。さらに、話し合い活動を振り返り、成果を共有する場面を設定することで、他者とのかかわりの中で発見できた自分のよさを認識し、自分への期待を高めることができると考える。

4 指導計画

	活動内容	時期	指導・支援	目指す児童の姿と評価方法
事前	・各学級での話し合い	7月	・アンケート結果を提示し、話し合いへの意欲づけを図る。	・学校生活の課題を具体的に考えている。(ワークシート)
	・小小交流	7月	・交流が進むよう、アイスブレイクや名刺交換などを取り入れる。	・学園に共通する課題について話し合い共通点を見つけている。(発表)
	・活動の見通し	9月	・話し合いの仕方を助言する。	・話し合った課題の解決策を自分なりに考え実践している。(ワークシート・観察)
	・共通課題の発見	9月	・実行委員を中心に児童の考えを生かして活動や企画が進められるようにする。	
	・実行委員会組織	10月	・具体的な対策・実践の助言	
集会	・小中交流			
	・テーマ決定			
事後	・対策の実践			
	・ハートフルフォーラム	11月	・実践した成果を可視化する方法を助言する。	・互いの考え方を肯定的に認め合い、課題の解決に向けてよりよい対策を考えようとしている。(発表)
	・話し合い、発表	本時	・司会や記録の仕方を助言し、具体的に話し合いが進むようにする。	
	・活動の振り返り			
	・感想発表			
	・活動の振り返り	12月	・集会の結果を全校や地域に発信することを通して、取り組みへの理解を促す。	・よりよい学園を築いていこうとする気持ちを積極的に発信し、実践したり、実践に向けて活動を継続している。(観察)
	・アンケート調査	随時	・実践の評価を行い、次年度にかけての実践に生かす。	
	・活動報告			
	・実践と評価			

5 本時の活動

(1) 目 標

桜並木学園としての抱える課題について、自分たちの長所や得意なことを生かしてよりよい学園となるように具体的な解決策について話し合うことができる。
 集団での話し合いを通して、自分たちにできることを考え、活動する内容を自己決定することができる。

(2) 本時のポイント（自己肯定感を高めるための手立て）

- 自分たちの長所や得意なことを取り上げることで自分に自信がもてるようにする。
- 話し合いの視点を明確にし、付箋を活用してグループ内の意見を集約することで、他者の考えを知ることができ、自分の考えをもつことができるようにする。

(3) 展 開

学習活動 (太字は研究テーマに迫るためのプロセスの工夫)	主な指導・支援と評価 (太字は本時のポイントとの関連 ※は本時の評価)
1 学校毎に分かれて整列し、始めのあいさつをする。	・あらかじめ実行委員の生徒に司会進行の仕方を指導しておく。教師は、司会進行の支援に当たる。
2 小グループ毎になり、本時の活動の準備をする。	・児童生徒を32の小グループ毎の隊形になるように、中学生が小学生に積極的に声をかけ、教師も役割分担し、各グループの支援に当たる。
3 アイスブレイキング「サイコロトーク」 をする。	・ サイコロの出た目に応じて自分の頑張っていることを発表し合うこと でお互いの緊張をほぐし、 長所を知ることができるようにする。 (人とかかわりの中での気付き)
4 フォーラムのめあてと本時の課題に対する流れについて説明を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「自信を持って行動できる桜並木学園」にするために自分たちの力で何ができるか考えてみよう。</div>	・フォーラムの目的や流れを児童と生徒で確認すると共に、各小グループ毎に話し合い活動の場所に移動できるようにする。
5 グループに分かれて、桜並木学園のために自分たちの力でできることを話し合う。 ①自分の長所や得意なことを生かしてできる活動を考え付箋に書く。 ②模造紙に付箋を貼り、グループ内でそれぞれの活動を考えた理由を発表し合う。 ③グループ内で出た活動をその理由をもとに意見を一つに絞り、模造紙に書く。 ④各グループで絞り込んだ意見をタブレットPC活用してスクリーンに映し出す。 ⑤全グループの活動をタブレットPCの画面上で確認する。	・各グループ毎にあらかじめ司会を始め、役割分担を細かく決めておいて話し合いがスムーズに進められるようにする ・模造紙を事前に配付しておき、自分たちの長所や得意なことを生かしてどのような活動ができるのか付箋に書いて意見を出しやすくする。 ・話し合いが活性化するように、教師も担当グループを決めてグループの出た意見に適切な助言する。 ・付箋に書かれた自分たちの活動の根拠を発表し合うことで、 他者の考えに気づくようにする。 (人とかかわりの中での気付き) ・各グループで絞り込んだ活動案をタブレットPCを活用して集約することで全グループの考えに気づくようにする。 ※学園のテーマに近づくために、根拠のある活動を考えることができたか。(タブレットPC、発表) ・他のグループの活動を見ることにより、 自分たちが気づけなかった視点や考えに気づくようにする。 (自己理解)
5 本時の活動を振り返り、ひとりひとりが実践する活動についてまとめる。	・ 自分たちができる活動を考えることで、よりよい自分を目指そうとする。 (自分への期待) ※話し合いを通して自分たちで具体的な活動を考えることができたか。(発表、ワークシート)・自分たちの計画が実践可能な活動になるように助言する。
6 終わりのあいさつをする。	

